UFO・超能力・宇宙哲学

UFO contactee

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER

UFO・ESP・Cosmic Philosophy

AUTUMN
1994

126

驚異の瞬間移動（テレポーテーション）とUFOの超低空降下

UFOを頻繁に見る私のカルマ(2)

GAP活動と共にUFO出現頻発

東北自動車道で母船が出現！／私も母船を見た

ムー大陸から来た原日本人

異星人とUFOの真相(1)

UFO contactee No. 126 Hachiro Kubota, Editor / Publisher, GAP-Japan

CONTENTS 〈Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness〉

〈巻頭言〉真実は勝つ ―― 1
驚異の瞬間移動（テレポーテーション）とUFOの超低空降下 ―― 工藤　光博　2
UFOを頻繁に見る私のカルマ(2) ―― 溜池みゆき　10
GAP活動と共にUFO出現頻発 ―― 林　寛子　14
〈写真〉モスランディングのUFO ―― 15
東北自動車道に母船が出現! ―― 林　慎子　18
私も母船を見た! ―― 津田　篤孝　19

東京造形大学でUFO講演 ―― 久保田八郎　20
GAP短信 ―― 21
科学――SCIENCE ―― 22

ムー大陸から来た原日本人 ―― 澤入　達男　24
昔のUFO目撃の思い出 ―― 橋本　恵一　32
巨大なアダムスキー型円盤の黒い影 ―― 竹内　忠子　33
〈写真〉剣崎灯台の円盤の影 ―― 久保田八郎　34
異星人とUFOの真相(1) ―― G・アダムスキー　36
盛況　第5回　秋田支部大会 ―― 44
豪華　第2回　伊豆支部大会 ―― 45
UFO contacteeバックナンバー主要記事 ―― 46
〈予告〉1994年度日本GAP総会 ―― 47
〈投稿欄〉ユーコン広場 ―― 48
〈広告〉新アダムスキー全集 ―― 50
編集後記 ―― 51
日本GAP全国月例セミナー案内 ―― 52

金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の父性原理（陽）、右側は母性原理（陰）を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コズミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米・他の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

〈表紙写真〉
1978年4月19日午後1時20分、米ウィスコンシン州コルファックスのハイウェイ・パトロール警官、マーク・コルトレインが森の脇道で昼食をとっていたとき、銀色の円盤型物体が接近して停止した。彼は署のポラロイド・カメラを取り出して連続6枚撮影した。これはそのうちの6枚目の写真。

〈巻頭言〉

真実は勝つ

前号のこの欄でテレパシーに関して述べたが、これに関連のある素晴らしい現象がまた出てきた。本年六月上旬の新聞によると次のとおりだ。

大阪府茨木市出身のヨットマン、諸井清二氏は、環太平洋ヨットレースに参加するために、『酒呑童子』と名付けた小型ヨットで日本を出発してアメリカ・ロサンジェルスに向かったが、最後に無線連絡があったのが三月七日。ハワイ・オアフ島の西北西約三三〇〇キロの位置である。

しかしロサンジェルス入港予定日の四月六日を過ぎても連絡がない。遭難したのではないかと捜索が開始されたが、手がかりはない。この件はこの頃から新聞に出始めたので、ご記憶の方も多いだろう。

ところが、五月一〇日頃の夜、自宅にいた奥さんの千恵子さんが奇妙な夢を見た。ふと見ると夫の清二氏が自宅の食卓のそばに座っている。驚いた奥さんが「いつ帰ったの?」と聞くと、「六月七日に帰った」と答える。まだ約一カ月も先のことだった。

目覚めて不思議に思ったけれども、これは何かの「知らせ」かもしれないと気にし始めた奥さんは、来月七日前後が気持にケジメをつける時期かもしれないと、マイナスの想念をおこして覚悟した。

するとまさに六月七日、一通の電報が届いた。

「助けられた。一六日、釜山着く。清二」

うれし涙がとまらない奥さん。あの夢は正夢だったのだ!

この例なども夫妻間に届いたテレパシー現象の一種なのだろう。

太平洋戦争中はこの種の現象が無数にあった。父親が出征した留守家族の小さい坊やが、突然、お父ちゃんが家に帰ってきたと夜中に叫びだして家族を驚かせた。翌日、戦死の電報が入って一家は悲嘆に暮れる——。これに類した実例を編者は沢山聞いている。

以下は医師で高名な登山家でもある今井通子女史が語った実話。

ある患者さんの最期が近づいた。普通は心電図を見ていて心停止の段階で「ご臨終です」と女史は言うのに、そう言わないうちに患者の妻が「有難うございました。いま、夫の魂が窓から出て行きました」と言う。

その直後に心停止となった。患者の奥さんが「実は、夫がお礼に腕時計を差し上げたいと申しております」と言う。その瞬間、患者の腕がピッと動いた。

「彼女と彼の間に普通の会話とは違う何かがないと、こうは一致しないと思い、大変驚きました」と今井女史は述懐した。これについてはもっともらしい理由を考え出せるかもしれない。だが人の心の働きには説明を超える不可思議さがある、と六月九日付朝日新聞の『天声人語』は伝えている。

こうした不思議な現象を「ただの偶然だ。物理学の法則に合わぬから認めるわけにはゆかない」と簡単に否定することは容易だが、地球の物理学が宇宙の森羅万象を解明し尽くすほどのレヴェルに達しているかというと、そうでもないことは素人にもわかる。

「学者というのはナイーヴですからね」というのは、昔、編者が海外でお世話になったある大学の高名な先生のお言葉だが、この〝ナイーヴ〟をネガティヴな意味にとらないで、ポジティヴに解釈すれば、俗世界の塵埃にまみれないで、自己の研究結果に確信をいだいて、ひたすら信念を貫き通すという姿勢が好ましく感じられなくもない。つまり、純粋と言えるのだろう。

いったいに信じ難いような発見や発明が行なわれると、必ずネガティヴな声が起こってくる。それも怒濤のごとく発生する。一九〇三年一二月、あらゆる困難と障害を乗り越えて飛行機を発明したウィルバー・ライトとオーヴィル・ライトの兄弟は、実験が容易に進展しないので、一時期挫折しそうになった。すると、ある物理学者が二人に忠告した。「物理学上、空気より重い物は空中に浮かぶことは出来ないんだ。そんな実験はやめたほうがいいよ」

いささか伝説じみているけれども、これは有名な話である。

一八九五年、電磁波を送受信する無線電信装置を発明したイタリア・ボローニャ出身のM・G・マルコーニが、これを携えてイギリスへ渡航するため客船に乗ろうとした際、税関の役人から中味を聞かれて、針金を張らないで通信出来る機械だと答えたところ、気味悪がった役人は、いきなり機械の入った箱を海中に投げ捨てたために、マルコーニは再度、一からやり直したという逸話もある。これも伝説かもしれないが、ありそうなことだ。

発明王トーマス・エディソンが電灯を発明して博覧会で公開したところ、〝インチキな事をやる山師〟扱いされたという話もある。

一般人の予想もつかぬような大発見、発明は、どだい当初は相手にされないのだ。過去の偉人達にしてこのとおりだから、無名の庶民が超常現象の公開や研究をしても物理学者が認めないのは当然だろう。だが『真実は必ず勝つ』という千古不滅の法則によって、正しいものはいつか万人の認めるところとなるから危惧する必要はない。ただ時代を少し先走りすぎただけなのだ。でも先走るのは楽でもないなァ。（久）

Amazing teleportation by Mitsuhiro Kudo

驚異の瞬間移動（テレポーテーション）とUFOの超低空降下

●工藤光博

眼前にせまる大型トラック！ 衝突、紛砕!? 地獄へ落下するはずのワゴン車の世にも不思議な結末の真意は？

誠実きわまりないA氏

私が初めてA氏を知ったのは、ある新年会の会場であった。いつもなら酒宴の席は遠慮するのだが、友人の主宰するUFO研究会の会合ということで、冬の凍結した山道を二時間ほどドライブして参加した。

いま考えてみると、A氏と隣り合わせになったことも貴重な話を聞けたことも、けっして偶然ではないだろう。

このような特権を得たことに感謝しながら、この不思議な事実を多くの人に知らしめるために書き記したいと思う。それが私の使命でもあるのだ。

えてして超能力者というものは一種独特の雰囲気を醸し出すと思われているが、一概にそうとも言えない。何よりも受け手の問題、つまり波動感受性があるかどうかが重要となる。ごく普通のサラリーマンタイプでも、今度映画化される高塚光氏のように、非常に素晴らしいヒーリング（病気治し）能力を有している例もある。

A氏の場合も、失礼ながら外観からはその凄い能力を全くうかがいようがないほどの、どこにもいる人間に見える。

真実の超能力者というのは、こんなものなのだろう。特異な外見を示して神秘めかしている自称霊能者ほどあてにならぬものはない。

なによりも感心したのは、A氏が相手の話をよく聞くことである。話し手の発言を途中でさえぎる人が多いなかで、この態度は称賛に値するだろう。

また口を開くときは一言一句言葉を選びながら、いっさいの修飾語を省略して事実のみを語る姿勢からも、氏の率直で誠実な人柄がしのばれる。紹介はこれぐらいにして、早速読者をアナザー・ワールドへご招待したい。

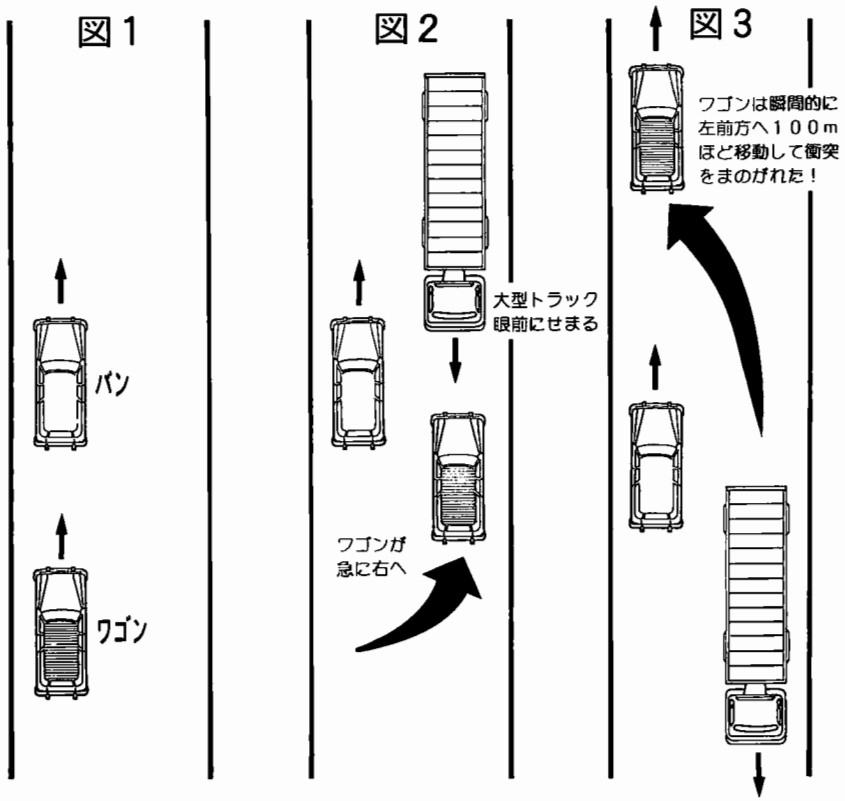
眼前にせまった恐怖の大型トラック！

時をさかのぼること二〇年前、三重県のある国道での出来事。夜のとばりがすっかり落ちて木枯しが田園地帯を吹きすさぶなかを一台のワゴン車が定員いっぱいの六人を乗せて松坂方面に向かっていた。

忘年会帰りのため、車内はアルコールを帯びた臭いニオイで充満していたが、貧乏クジをひいた素面のドライバーは嫌な顔をしながらも慎重に車を進めていた。

ちょうど前を走っていたバン型の車に追いついた瞬間、とんでもないことが起こった（図1）。助手席にいた泥酔者が無意識に追い越そうと思ったのか、いきなり右手を伸ばしてハンドルを右に切ったのだ。アッというまもなく、フロントガラスいっぱいに前方から大型トラックが迫ってきた！（図2）

あいにく道路幅は五メートルしかなく、車二台が並んだ状態では追い越すスペースがとれない。おまけに道路の両側には二メートルの段差のある田んぼが展開し、しかも道路脇には側溝がひかえている。とっさに右によければ死のダイビングにならない保証はない。とまれ、絶対絶命の危機が目前に迫って一瞬の猶予もなかったのはいうまでもない。読者の推察どおり若者たちは頭を伏せることしかなすすべはなかっ



た。

その瞬間、時がストップモーションになり、人生に終止符が打たれたと思った。これはそのとき後部座席にいたA氏が震えながら語った言葉だ。

驚異の瞬間移動（テレポーテーション）

一秒、二秒……。どれくらいの時間が経過したか。物凄い衝撃と激痛をともなうはずなのに、何の異変も起こらない。A氏はおそるおそる顔を上げてみた。なんと道をふさいでいた二台の車は跡形もなく消えている！　しかもワゴン車はいつのまにか左車線にもどって、何事もなかったように走っている（図3）。

A氏をはじめ数人がいっせいに後ろを振り向くと、先ほどまですぐ前を走っていたバンが一〇〇メートル後方から追いかけて来る。さらにその後方には逆に遠ざかって行く大型トラックが見えるではないか！

いったい何が起こったのか？　すでに彼らの酔いは完全に覚めたものの、いまの精神状態では正常な判断などつくはずはない。

ともかく、その場に車を停めて何人かは外へ出た。周囲の状況はなんら変わらない。車体のどこにもそれらしい損傷はないようだ。

すると、こちらの車が結果的に追い越したことになったあのバンが、一同の車のそばを猛スピードで駆け抜けて行った。暗くて表情はわからなかったが、あのドライバーならきっと何かを目撃したにちがいない。しかし今となってはどうしようもないのだ。

いったい空白の数秒間はどこへ行ってしまったのだろうか？　誰一人答えられる者はいなかった。

不思議に思いながらも一同の目が一人の男に釘付けになった。ほかでもない、自分たちを恐怖のどん底に突き落とした張本人の、何事もなかったような安らかな寝顔に我慢できなかったのだ。すぐさま後部座席に移し、到着するまでかわるがわる渾身の力で押さえつけたのはいうまでもない。

科学を超える現象は存在する

ここまで読み終えた賢明な読者は想像をたくましくしているにちがいない。例のO教授ならきっと次のように言うだろう。

「テレポーテーション？　物体が消えて別な場所で現われるなんて、物理学を知らない者の戯言にすぎない。単なる酔っぱらいの幻覚じゃないのかね。もしそれが事実であるとするならば、本当であることを証明してもらいたい。そしたらいつでも大学を辞めてやる。こうして辞表を……」

胸ポケットからうやうやしく一枚の紙切れを取り出す勝ち誇った眼鏡顔が

まぶたに浮かんでくるようだ。

超常現象ファンからは目の敵にされているが、ご当人は結構悪役を楽しんでいるフシがある。

いったい誰が鈴をつけるのだろうか。再現性のない発見発明はゼロに等しいとされる現在の科学常識を打ち破ってほしいものだ。もしかすれば大学を辞めて超能力の研究を始めるかもしれないのだから。

UFOを見たことのあるA氏

それはともかくとして、なにしろ二〇年も前の出来事である。残念ながら車に同乗していた仲間の消息はつかめない。おまけに深夜で泥酔していたために正確な場所も不明で現地調査もままならない。

解明の糸口が途絶えたかにみえたが、唯一の証人、A氏に登場して頂き、再度疑問を投げかけてみた。以下はそのときの質疑である。

問「車が対向斜線に出たとき、前を走っていたバンとトラックが平行ではなくて、少しずれていたということはないですか」

答「完全に平行だったかはわかりませんが、なにしろトラックが目の前に来ていて、ドライバーが手を離して頭を伏せたのを覚えています」

問「そうするとハンドルを切っていないのですね」

答「もし、そうしていたら田んぼに落ちていたか、バンに衝突していたでしょうね」

問「トラックのドライバーの顔を見ましたか」

答「一瞬だったので、よく覚えていませんが、ひじょうに驚いた表情をしていた気がします」

問「気がついたらバンが一〇〇メートル後方を走っていたそうですが、その間、車を誰が運転していたのでしょう。対向車線にはみだしてから気がつくまで六〇キロメートルで走っていたとしても六～七秒かかる計算になるわけです。もしハンドルを握っていないとしたら、まっすぐに走れないとは思いませんか」

答「私もそこが一番不思議なのです。距離に関してはあくまでも推定ですが、そのくらいあった気がします。」

問「そのときUFOを見ましたか」

答「私ももしかしたら異星人の援助かもしれないと思って空を見回したけれど、いませんでした」

問「どうしてそう思ったのですか」

答「以前雑誌で似たような事件を読んだことがあるからです。それより後になるのですが、至近距離でUFOを目撃したことがあります。そのときは同じ日に二回、別々な場所に現われました」

問「えっ、一日に二回もですか！」

A氏は超能力者だった

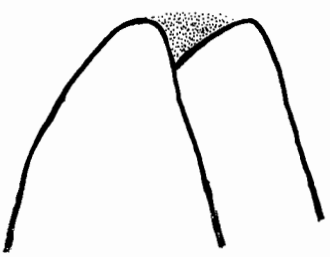
思わぬ事の成り行きに再度アポをとりつけて受話器をおいた。あとでわかってくるのだが、その事件は単なる思いすごしでも錯覚でもなかったのだ。ひとまず解明するのをやめてA氏の半生を振り返ってみたい。きっと読者の興味をすごくひくことだろう。

彼は秋田県のK市にサラリーマンの長男として生まれた。ごく平凡な家庭だったが、彼には他人にはない超能力が先天的にそなわっていたのである。

こういう特異な能力は小さい頃に喘息や虚弱体質だった人が多いことは知られており、彼もその例にもれなかった。他人の事に関しては、なぜか親類縁者に限って予知できたのだが、イメージではなくて波動を感じるために個人の特定はできなかったようだ。

しかし驚くべきことは、山間を靄が覆うと（図4）四八時間後に誰かが亡くなるのである。ちょうど紐状をした地震雲が現われると、やはり同時刻後に現象が起こるのと極めて類似している。山頂にかかる笠雲は上昇気流によってできるものの、この靄は突然現われることから、単なる自然現象とは断定できないだろう。ともかく、そういうことがたびたび重なったので親戚のあいだでは評判になった。したがってその超能力は本物である。

図4



テレパシーで他人の想念を読み取ったA氏

彼は他人の想念を読み取ることもできた。特に意識しなくても相手の言うことがわかったのである。それは耳から聞こえるのではなくて、直接頭の中、特に脳下垂体あたりに響いてくるのだった。最初のうちは頭が変になったと思ったようだ。テレパシーという言葉が一般的でなかった当時、その悩みはいかほどか推し量れないだろう。

だが幸運なことに、高性能のスイッチを設定する必要がなかったのだ。どういうわけかアンテナがフル稼働しなかったからだ。まもなくそれが本音だとわかると、大人に対する不信感がぐんぐんと頭をもたげてくることになった。ただその能力は悩みの種になるだけでなく、プラスの方向、つまり願望

実現にも応用されていたのであった。

願望を実現させる能力もあった

誰でも教室の席替えに関する思い出は尽きない。好きな子と一緒のクラスはもちろんのこと、隣になってほしいと胸をときめかした経験をお持ちだろう。だが現実はなかなか希望どおりにはゆかない。しかしA氏の場合はことごとく実現したのである！

そこで願望実現の秘訣を伝授してほしいと頼んだところ、特に何もしなかったという返事が返ってきた。これでは答になっていない。ただ、思った時点で必ずそうなったという確信が芽生えたようだ。おそらく知らないうちにイメージ法を応用していたのだろう。

私の経験では、思いの〝強さ〟と願望成就率はリンクしている。脳波の強さを測定する器械のバイオフィードバック装置にかけると、通常は一〇から二〇マイクロボルトなのだが、まれに五倍にあたる一〇〇に達する人がいるという。彼らに共通するのは、わずか一、二回心中で思うだけで望みが達成されるということだ。潜在意識の門番をそのパワーで服従させて開門するのだろうか。私のような凡人は幾度となく参拝し、ときには土産を持参するのだが、いっこうに耳を傾けようとはしないのだ。これまで何度嫌になり諦めてしまったことか。巷に氾濫している類書を開いてもQ&Aのようなアドバイスが載っているものは皆無である。

これほど強烈な願望実現が可能ならば、不満が何一つないように思われる。ところが不思議なことにA氏は現在独身である。女性の容姿にはこだわらないそうだが、相手の心の中が見えすぎるのもよしわるしかもしれない。

日航機墜落事故を予知

彼の超能力の代表が予知能力である。その中からいくつかを紹介しよう。

いつだったか彼の弟が遠足に行く前夜、その肩ごしに映像が見えた。どこかの川原で一人ぽつんと立ちつくして泣いているのだ。どうも仲間からおいてけぼりにあったらしい。そこで遠足には行かないほうがよいと忠告したけれども聞かなかった。

兄として心配になり、翌日あとを追ったところ、イメージで見た光景がそっくり繰り返されたのである。そこは初めて行った場所なのに、映画を見るようにプレイバックされたのだった。

近年では一九八五年のあの日航機一二三便の墜落事故を数日前に予知していたのである。

庭を手入れしていたら、青空にもかかわらず突然ガスがかかり、数メートル先も見えなくなった。それから不思議なことに虹の七色が混ざり合い、幻想的な情景が現われたのである。それはまるでオーロラの中に迷い込んだような感じなのだ。

続いて自然に意識が警戒状態に入ると、数百人が亡くなるという印象がわき起こってきた。また近いうちに大事故が発生すると思うと、いてもたってもいられなくなった。といっても物的根拠があるわけではない。ともかく自らの念で少しでも多くの人が助かるように祈るしかなかった。結果的に何の役にも立たなかったけれども、彼の率直で慈悲深い人柄がうかがわれるエピソードだろう。

興味深いことには、彼の予知には靄が関係していることだ。しかしこれが何を意味するかは不明である。

筆者の予知体験

予知というと大げさだが、私も最近不思議な体験をした。今年のゴールデンウィークにF1の貴公子といわれたA・セナが惜しくもこの世を去った。大抵放送が深夜なので、タイマー録画して翌朝観賞するパターンをとっていた。

ところがNHKのニュースで病院に担ぎ込まれたと聞いた瞬間、なんともいえない胸騒ぎが起こったのである。この時点ではまだ息があって死と戦っていたはずなのに、もう駄目だという確信に似た印象が起こったのだ。あの激突シーンを見たら誰でもそう思うだろうが、まだ放送されていなかった。

ともかく眠い目をこすりながら番組を見たところ、予感が的中してしまった。今年からアクティブサスのようなハイテクが禁止となり、セナ自身もレース前からフィアンセに不安を述べていたそうだが、おそらく事故の予感があったのだろう。かえすがえすも残念でならない。冥福を祈りたい。合掌。

新幹線列車中の危険予知

さて話をもどそう。次は私が新幹線に乗っていたときのことである。窓際に座って外に景色を眺めていたところ「ここにいてはいけない」という印象がわき起こってきた。先ほどまでは何ともなかったのに、どうも座り心地がよくないのだ。何のことかわからなかったが、すぐにその場を離れた。

すると間髪をいれず下り列車がすれちがいざま窓ガラスが割れたのである。当然のように周囲は大騒ぎになった。内部の意識の声に従ったので災難から逃れることができたのだ。

次のケースはみずから回避しなくてもだいじょうぶだった出来事である。彼が自動車教習所に通っていたとき、仮免で路上教習を受けて車を走らせていた。見通しのよい道路で四〇キロメートル制限の所なのに、いくらアクセルを踏んでもスピードが出ない。何かが起こる予感がしたら、案の定、子供

が飛び出してきたのだ。間一髪で事故を免れたのはいうまでもない。おそらく潜在意識が走行機能に影響を及ぼしたのだろう。

サイコキネシスの実例

この他にも彼の超能力者としてのエピソードには事欠かない。紛失した物は探そうとしなくてもすぐに見つかる。それも「ここにありますよ」というように目立つ所に現われる。自販機で清涼飲料水を買うと当たりがよく出る。別に念力を使うわけではなく、波動でわかるようだ。オーラではなく、パワーのようなものを感じるという。宝クジやギャンブルにも応用できないかと聞いたが、関心がなかったそうだ。

サイコキネシスの例としては一度だけ教室で起きた。使えなくなった鉛筆をゴミ箱めがけて投げたところ、五〇センチほどずれてしまった。いけないと思い、「はいれ！」と念じたら、鉛筆がクルクルと回りながら横移動して入ったという（編注＝サイコキネシスとは念力によって物体を動かす現象）

学校といえば、誰でも考えることは、試験のときにその力を応用できないかということだ。本人にたずねると、例のごとく淡々と答えた。

「問題用紙を見たとたんに答が浮かんできたよ」

考えなくても自然に正しい回答が得られたというのだから恐れいる。以前に講演をしたある超能力者も同様のことを述べていた。暗記科目では教科書が頭の中に浮かんできて、答えのあるページまで勝手にめくられる。そこでそれを記入すると消える。

それの繰り返しなのだが、別の超能力者のケースでは声が聞こえたという。ただし数学のように途中の計算式が必要な場合には役に立たなかったそうだ。A氏も語っていたが、答しかわからなかったからである。後者の超能力者は「どうして答しか教えてくれないのか」と不可視の情報源に問いただしたら、「あとは自分で考えろ」と言われたという。にわかには信じられない話であるが、そういう世界も存在するのだ。

巨大なUFOの出現！

ここまでくればA氏の尋常でない能力の一端がおわかりになったことと思う。ただ残念なことに、それらの能力は今はほとんど失われてしまった。しかし彼という人間を彼らスペース・ピープルは充分に知っていたのだろう。いや、マークしていたと言うほうが適切かもしれない。そうでなければ次のような事件はけっして起こらないだろう。もしかしたら、今、別の惑星で暮らしていたかもしれないからである。

それは一九八六年一一月二九日に起こった。朝から晴れ渡り、一面爽やかな空気がただよっていた。A氏は当時すでにJAの職員だったが、月末の土曜日なので午後まで仕事が延びることになった。

ちょうど二時頃、H駅前にある農協ビルの三階から仲間の一人が何かを発見して大騒ぎになった（写真1）。

方角は北東で、山までは数キロ離れているにもかかわらず、かなり大きい。あっというまに噂を聞きつけた仲間数十人で窓際はいっぱいになった。昔からこのあたりはUFOの目撃例は多か

写真1　1986年11月29日、午後2時頃、H駅前の農協ビル3階から見えた巨大なUFO。写真中に描き込んだもの。

ったものの、これほど大きなものは珍しい。左側に出た木と比較すると長さは数百メートルはあるようだ。窓は見えないものの、楕円形で二階になっている。母船だろうか。

色はよくわからないが、白っぽい感じがする。遠方なので音はまったく聞こえない。ときおり靄がかかって見えなくなる。本物のUFOであることを示すためにフォースフィールドを発生しているのかもしれない。

三〇分が経過した。仲間も一人二人と仕事にもどって行ったが、相変わらずUFOは存在を示すようにそこを動かない。しだいにA氏は自分を迎えにきたという衝動を抑えることができなくなった。そうなると、いてもたってもいられなくなる性分である。ともかく近くへ行きたい。そして確かめたい。あれはいったい何なのか？

A氏は仕事を途中で切り上げて、すぐさま車に飛び乗った。目ざすはあの母船のいる山並み。いざ行かん、北東へ。

通常コンタクトがセットアップされるときは、異性人側からの打診があるし、もっと秘密裏に行なわれるはずである。それもいきなり現われるのではなく、まず波動を受け取ることから始まる。そして誰にも気づかれずに目的地に誘導されるのだ。その波動は言葉ではなくて、いつかUFOを見たときのあの懐かしい、温かいフィーリングと同じなのだ。

ただ一つだけ違うのは、なぜかわからないけれども、何かをしたくなるのだ。

私の場合、窓の外が気になって仕方がなかった。そこでテレビを消して窓の所へ行き、空を見上げた。おそらく異星人がそういうふうに仕向けたのだろう。ただ残念なことに、まだその段階に達していなかったため、そこで波動が切れてしまったのだ。結局UFOの姿を見ることなく一日が過ぎたのであった。

彼は焦っていた。直感を信じるといっても独りよがりかもしれない。それにさっきからずいぶん走っているが、なかなか近づけない。UFOの姿も山麓に来るにつれて見えなくなった。もはや目的地へ続く道もわからず、車を停めざるを得なかった。万事休すと思われた。

ところが急に営農センター（農協の倉庫がある所）へ行く気になったのである。インスピレーションを感じとったといってよい。あそこなら誰か知っている者がいるにちがいない。アクセルを踏む力が自然と強まった。慣れた道を一秒でも惜しむかのように車は疾走した。

すぐ目の前にUFOが！

まもなくセンターに到着。エンジンを切るのも忘れて車外へ飛び出す。ちょうどタイミングよく人がいた。

すぐさま駆け寄って先ほどの事を簡単に説明して山への道をたずねた。

ところがわからないという。誰か他の人に聞こうとしたが、ちょっと見当たらない。

そのとき、背後からあの温かいフィーリングを感じた。おそるおそる振り返って、あまりの光景に心臓の鼓動が一瞬止まった気がした。なんと目の前にUFOが浮かんでいるではないか！（写真2）。

時計は三時半をまわっていた。すでに一時間も走りまわっていたことになる。

「やはり自分の直感は正しかった。これこそ私が探し求めていたものにちがいない」。

自然と目頭が熱くなるのを抑えることができなかった。

それにしても、このUFOはなんという美しさだろう！　あまりの驚きと感動で声も出ない。そこまでの距離はざっと五〇メートル。大きな冷蔵庫の陰になって胴体の半分しか見えないが、長さは数十メートルはあるだろう。

形状は楕円型だが、先ほど見た母船タイプの物体とは明らかに異なる。色は白と鉛色の中間だろうか。窓やハッチは確認できない。着陸装置のような物も見えない。それにしても胴体に見える二本の黒い線は何だろう？　もしかしたら何かのマークかもしれない。

船体のフォースフィールドは作動していないらしく、縁がはっきりとしている。このことからUFOはかなりのリスクを負って超低空に降りたことがわかった。

静止したままのUFO

いつのまにかもう一人増えて、目撃者は三人になっていた。まるで映画の『未知との遭遇』のシーンがこの地に再現されたかのようだ。ただしUFOと交信する大げさな装置もまぶしすぎる照明も必要はない。

また周囲をみまわして軍隊やメン・イン・ブラック（黒衣の男たち）といった怪しい人物もいない。もしかしたら三沢米軍基地からスクランブルをかけたイーグル（F15戦闘機）が旋回してはいないかと見上げたが、影も形もない。しかし、ここにいるのは、まぎれもなくアルミニウムのような光沢をもつ、金属というよりも生き物そのものなのだ。

相変わらず沈黙が支配している。この空間だけがバリヤーで他と隔離されている気がする。季節は晩秋というのに生暖かい風が吹き抜けた。UFOはまるで彫刻のように動かない。

そのとき、もう一人の自分がささやいた。

「もし本当に自分を迎えに来たのなら、

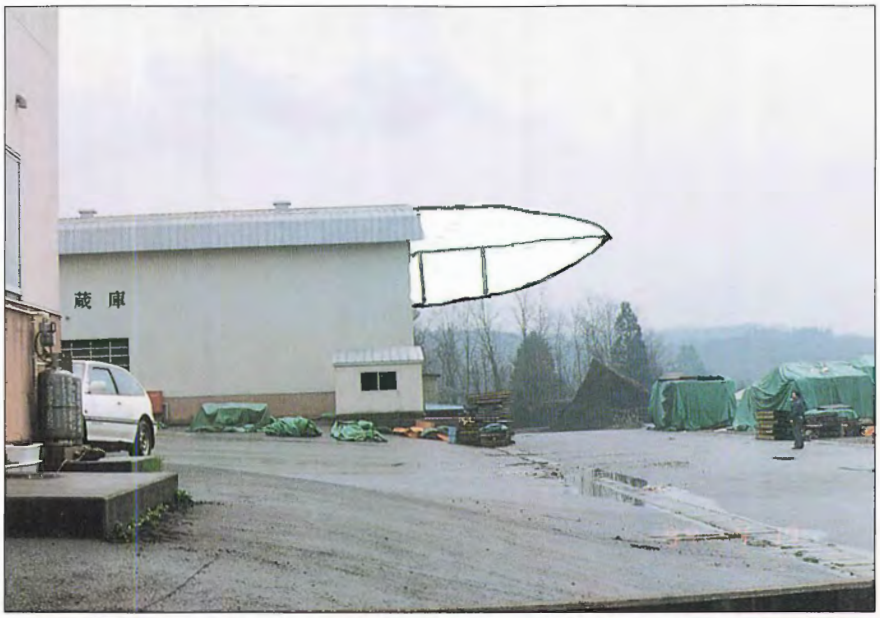


写真2　冷蔵庫の後ろに船体を半分のぞかせたUFO。
現地の写真に描き込んだもの

異星人が降りて来て手招きをしてもよいではないか。このままではどうしようもない。さあ行くんだ。そして確かめるんだ」

A氏はこの場に及んでも、まだ迷いを払拭できない。彼は自分の想念が異星人に観察されているのを強く感じた。彼らは私の心中を知っているのだ。

わずか五〇メートル進めば憧れの宇宙船に乗ることができる。特殊なビームか何かで吸い上げられて異星人全員が迎えてくれる。すぐに宇宙船は大気圏外に飛び出して彼らの惑星に向かう。そして犯罪、差別、貧困、病気などのない別世界で新生活――。地球よ、さようなら。

写真3　左下で、UFOが停止していた所を指さす人物はA氏。

母を思う想念が引き止めた

これから待っている夢のような生活を思い浮かべながら、彼はようやく一歩を踏み出した。力強く一直線にUFOへ向かって進んで行く。その姿は堂々として後光さえ感じさせるほどだったとは他の二人の証言である。

二人の目撃証人は、これから繰り広げられる事態を固唾をのんで見つめていた。

そのとき彼の脳裏に母親の姿が浮かんできたのである。最近、母の伴侶、つまりA氏の父を亡くして気落ちしている。兄弟がいるとはいえ、今自分がいなくなったらどんなに悲しむだろう。そんな母親を、そしてこの地球を捨てることができるだろうか。

「この機会をのがしたら、もう二度とUFOに乗ることはできないぞ」

と、もう一人との自分がささやく。

「兄弟もいるんだし、一人ぐらいいなくても何とかなるか」

と、さらに声が追い打ちをかける。

しかしこの話はこれ以上進展しない。後ろ髪を引かれる思いを残したまま現場をあとにしたからだ。

ＵＦＯはそれからどうなったか不明である。

「異星人とコンタクトできるかもしれない千載一遇のチャンスなのだから、真下に行って、もっと確かめてもいいではないか」と読者は言うだろう。

たしかにもっともな話だ。しかし当人にとっては母親思いの孝行息子という選択をするしかなかったのだろう。

出現が意味するもの

最近、私は現場調査を敢行して、冷蔵庫の後ろにまわってみた（写真3）。ＵＦＯが滞在していた所を指さしているのがＡ氏である。建物から推定すると、少なく見積もってもＵＦＯの長さは二〇メートル、直径五メートルと思われる。惜しむらくは、写真でも撮っていたら、どんなに説得力があったかもしれない。

彼は当時を回想しながら感慨深く話した。

問「行かなかったことを後悔していないですか」

答「いいえ」

問「せめて異星人とコンタクトし、ＵＦＯに乗せてもらったらよかったのに」

答「そうですね。でも、あそこまで姿を現わしたのだから、乗っていたら二度と地球にもどれなかったでしょうね」

問「ということは、精神的に彼らと同じレベルに達していたということになりますね」

答「よくわかりませんが、非常に高揚していた時期でした」

問「その後、接近遭遇はありませんか」

答「残念ながら、ありません」

問「おそらく異星人は、あなたが地球で使命を果たすことを選んだと思ったからでしょうね」

答「そうかもしれません」

問「あの三重県の事件も異星人の援助だったとは思いませんか」

答「今振り返ってみますと、それ以外には考えられません」

こうしてインタビューは終わった。読者はどう感じただろうか。私なりの結論は出たものの、これ以上の解明はもはや不可能である。もし重大な出来事が起これば、何らかのかたちで続報をお届けしたい。最後に日本ＧＡＰ秋田支部副代表の佐藤氏、鹿角ＵＦＯ研究会の駒ケ嶺氏に感謝の意を表したい。

編注　この事件のＡ氏に関しては本名と現住所は筆者からの連絡により判明しているが、本人の家庭的な事情により、匿名を希望するむねの要請が筆者からあったので、伏せることにした。東北のある都市に住む人であると述べておきたい。

瞬間移動に関しては、昔から不思議な事件が世界各地に発生している。理由は不明だが否定はできない。

▲1993年５月29日、日本ＧＡＰ秋田支部の懇談会の席で、出席していた加藤純一氏が窓外を指す方向を撮影したら黒い物体が写っていた。撮影／工藤光博

UFOを頻繁に見る私のカルマ〈2〉

溜池みゆき　My UFO Sightings and Karma
by Miyuki Tameike

前号に続いて私のUFO目撃体験をお伝えします。

一月一四日のことです。川内市（鹿児島県）のお客様の仕事を終えて、自宅へと車で帰る途中、串木野市の金山峠から少し下った所で、「スペース・ピープルの皆様、出てきて下さいますか？」と心の中で言ったら、午後七時二八分頃、すぐ前方上空に赤と銀色に光るUFOが出現しました。

嬉しくて、そのまま車を走らせて三分後、右側時計台（ラーメン屋さん）の広い駐車場に停めて、ゆっくり見ようとしたら、（さっきとは違う？UFOがまた七時三一分〜三六分頃また現われた）私は奥側へ車を停めてライトを消し、車の中からそのUFOを見ていました。

白っぽく光る丸いライトが左右に三個ずつあり、その前方にもう一つ赤く光るライトがチラッと見えたような気がしました。これは今までで初めて見たものでした。横に細長い感じでした。ゆっくりと私の車の上を北の方に向かって飛んで行きました。

もちろん音はせず、飛行機ではありません。低空を飛行していました。感謝しながら車を発車させて家路に向かい、途中、郵便局のポストにGAP宛の二回目のレポートを投函しました。一月二三日、指宿で日本GAP月例会に友達を沢山さそって参加しました。全部で一八名というにぎやかな会となり、とても楽しい集まりでした。

友達のためテレパシーで送信して出現

七時をすぎて私と友人二名は一台の車で先に帰りましたが、途中、UFOを彼女達に見せてあげたいと思い、心の中で「どうぞ彼女達のために勇気と希望を与えて下さい。どうぞ現われてくれませんか」と何度かお願いしました。

車の中で三名でいろいろとUFOの話をしている最中、やっと出現！　午後八時一四分から一七分頃にかけて、右上空に赤と銀色に光るUFOが突然現われましたので、同乗の内村さんと天神さんに教えて、車を左側に寄せて停めて見たのですが、内村さんがやっと確認し、天神さんは目が悪いために見ることができませんでした。

そこで、ぜひ天神さんにも見せてあげたくて、もう一度心の中で「もう一度現われてくださいませんか。ぜひ彼女にも見せてあげたいのです」と言うと、午後八時三〇分頃、スッと現われて、右上空で赤と銀色が点灯しながら（左回りに回りながら）ゆっくりと飛んでいるのです。

すぐ二人に伝えて、信号の少し先で左に車を寄せて停めて、今度は全員で約五分近くみることができました。

実は私は視力が悪く（左〇・〇一、右〇・〇三）メガネをかけて〇・六ぐらい見えるのですが、運転手の内村さんが横に長い楕円形だったと言っていました。

目撃して自信がついた

翌朝、内村さんより電話で「昨日別れた後すぐ夜の八時五五分頃、鹿児島市内の新屋敷交差点で銀色に光るUFOがジグザグに飛ぶのを目撃し、その後、赤と銀色に点灯するUFOを交差点で停まるたびに目撃して、そのあと自宅方向の吉野トンネル手前の布ケ谷にて赤と銀色のUFOを見た」ということでした。

彼女は帰る途中、車の中で「今までUFOのことは見るまで信じていなかったけれど、これで信じられる」と語り、最後に「なんか私は何でも出来そうな気がする」と言っていました。結局二三日の夜、彼女は七機ほどのUFOを違う場所で目撃することができました。スペース・ピープルの方々にとても感謝しています。彼女の目撃はこの日が初めてです。

（前号の記事で、一一月三〇日（火）の長方形のUFOの図は、赤の長方形の物体の前方に銀色に光る物が見えていたような記憶があります）

空中でピタッと停止したUFO

一月七日（金）、友人三名で鹿児島市内の照国神社へ初詣でに行き、夕方私の自宅へ帰ってきて、一人はしばらくして帰られ、私はもう一人の友人のお肌の手入れをしてあげて、その後、自宅で食事をし、七時すぎ頃、彼女が帰るためにそとに出て、駐車場の方へ歩いて行く途中、私はたびたび空を見あげてUFOを探してみました。

しかし見当たらないので、二人でUFOの話を少しして、近くで部落の鬼火たきを見て二人で手を合わせ、「今年もみんなが幸せでありますように」と軽く祈り、その直後、私は心の中で「彼女にもUFOを見せてやりたいです」と言って、Kさんが「じゃー」と車に乗ったとたん、右上空（自宅前の山）から赤と銀色で点灯するUFOがゆっくりと飛行して私達の方へ近づいてきたので、私はすぐにKさんに「あれがUFOだよ！」と教えてあげましたら、

「へえーあれがＵＦＯなんだァー」と初めて見るＵＦＯをしばらく見続けていました。

しかし、すぐ近くまでさしかかったとき、Ｋさんは車を発進させ始めました。私はそのＵＦＯをしばらく見ていましたが、Ｋさんを見送るために自宅方向へ一歩足を動かしたとたん、そのＵＦＯが空中でピタッと止まったのです。

私は「へえー、止まった！　せっかく私達のために出てきて下さったのに、ごめんなさい。彼女を見送らないといけないから」と思いながら自宅の方へ走り、彼女の車に手を振り、私はすぐ自宅に入って、二階のベランダに出ました。そしてさっきいた場所を見ましたが、おらず、「あー、やっぱりもういなくなった！」と思ったとたん、また赤と銀色に回りながら光るＵＦＯが急に現われましたので、しばらくそれを見ていました。

私は「ひょっとして私がまた見てくれるのを待っていて下さったんだ！」と思いました。とても嬉しかったです。

クリーム色の楕円形の物体が出現

そのＵＦＯが遠くになった頃、私は「もう一度見たいんです。ぜひ出現して下さいませんか」と心の中で言いました。するとさっきのＵＦＯが遠くに見えている最中、私の左上空にＵＦＯがパッと現われて、今度はさっきのＵＦＯとは別の方向に飛ぶのです。そして私の家の陰に隠れてしまって、私の立っている場所からは見えなくなってしまったので、あきらめてもう家の中に入ろうと思っていたら、なんと左に見える山の手前にクリーム色の楕円形の物体が点灯もしないでスーッとゆっくり動いていました。これは今までで初めて目撃した物です。大きかったし、点灯もしていなかったので、不思議に思いました（図は別紙に）。

出現の場所はさまざま

ＵＦＯは場所には関係なく、どこにでも現われるようです。私が目撃した場所は鹿児島県の川内（せんだい）市、市比野、串木野市、伊集院、市来（いちき）町、鹿児島市、伊集院町、小山田町、東市来町、指宿市、東京都でした。最も数多く目撃したのは市来町です。特に私の自宅二階のベランダから見た回数が昨年は一番多かったのです。自宅周辺でもよく見ます。

自宅以外では大部分が車を運転中に現われます。ＵＦＯのことを思えばすぐに出現します。

奉仕に明け暮れした私の過去

ここで少し私の略歴を述べますと、昭和三三年三月、鹿児島県日置郡市来町で商業を営む家に生まれる。小学二年生の頃より家庭環境の苦悩の中、自分の存在価値を求めて自分との戦いが始まる。

高校卒業後一〇年間、建築会社の総務を生き生きと責任をもって果たす。二四歳のとき、突然の兄の死に直面し、積極的な生き方を決心し、真理の本を読み、奉仕的な生き方を続ける。二八歳よりノエビア化粧品代理店を仕事とし、多くの人との出合いと体験を得、多くを学ぶ。

二九歳、劇団、「まつぼっくり」を結成し、ボランティア活動を体験。現在休団中。平成四年「ゆうゆう倶楽部」にて村起こし活動を体験。この頃からＵＦＯ目撃が始まる。五年、ＭＢＣラジオ情報スタッフの一員となる。「市来町まちづくり推進懇話会」にてイベント係。他事多難の結果、枠を作らない生き方に気づく。

平成六年、すべての人が調和し、平和な地球を目ざして生きる私の存在価値に気づき、「出会いのネットワーク」を企画、一〇六名で開催。二月四日、中学校の記念講演の講師を体験。演題は「心の幸せを求めて」。県事業「女性の広場ネットワーク推進事業」の推進委員。以上です。

他人に夢と勇気と可能性を引き出させる

一月二五日（火）の夕方、鹿児島市内へ向かう途中、最近よく見る薄い青空に、いつものネコの毛のような薄くて細い雲がきれいだったので、もしかして今日もＵＦＯが出るのかなと思いながら、空を見ながら車を運転していました。交通量も多く、スピードも普通に出していました。

午後五時三六分、白色の物体がゆっくり左上空前より飛んでいました。数回チラッチラッと見たのですが、飛行機ではないように見えました。その物体の出現の前と出現後に、飛行機が右上空前より飛んでいましたので、やはり飛行機ではありませんでした（図を参照）。

一月二七日（木）、薄い青空に気になる雲があって私は自宅を車で出て、隣町の本屋さんに行き、ユーコン誌一二四号を二冊買い（数日前は三冊買った）二月一二日の新年会の件で大型ストアーに勤めている二〇歳の男の子に会い、新年会の件とユーコン誌のことを話しました。本当は彼にも一二四号を読んでほしかったのですが、一二五号を買うと言っていました。

自宅の駐車場へ車を入れて、車から降りて数歩歩いたら、前方左上空に白く細長い物体が飛んでいました。少し見てから隣のいとこの男の子を呼んで、一緒に見ました。その男の子はまだ一度もＵＦＯを見たことなく、この日の昼前が初めてです。

彼は夜七時三〇分頃、彼のお父さん

の入院先へ行こうとして車の所に行って空を見ていたところ、前方上空に赤色と薄青色に光る物体が出現して三分間見ていたということでした。やはり自分にも見られたという感動が勇気と可能性を引き出したのではないでしょうか。私を通して少しずつでも夢や勇気や可能性を引き出させることができて、とても嬉しく思っています。

私自身、自分の中の超能力を引き出すための勉強と訓練はなかなかできませんが、いつも大きな愛を持ち続けることだけはできます。最近、なにか私の中で、ほんの少しですが、目覚めてきた能力があるみたいです。透視の方かな？　少しですが当たることがたびたびあり、われながらびっくりしています（生まれたばかりの赤ちゃんの名前と人の顔など）。

針状母船が出現

一月三〇日(日)。今日は仕事で鹿児島市内に二名の友達を車に乗せてつれて行き、研修を終えて自宅方向へ走行中、午後五時三〇分頃、小山田町の左上空にまたも針状母船が出現し、友人二人もそれを見ることができました。鹿児島支部会員の抜迫英子(ぬきさこえいこ)さんもこの型の物体を見たと言っておられたことがあります。

道路がくねっているために、その物体の進行方向とは離れて行くような状態になってしまい、途中の山でいっとき見ることができず、山をすぎたら、なんと私達の車よりも先の方を飛んでいましたので、三人でびっくりしました。やはり今日も薄い青空で、雲が気になっていて、帰りながら心の中で「この二人にも見せてあげたいなァ」と思っていたら出現しました。あの白い先の方に何か飛行機のようなものはついていないね？と二人に聞きましたら、何もついていないとのことで、やはり針状母船であろうと思いました。

中学校で感動的な講演を行なう

二月四日（金）、中学校の立志式の日、講演がうまくゆきますようにと祈りながら自宅を車で出ました。空は曇っていますが、とても表敵な模様を私に見せてくれています。私は「サイン空だ！　私を応援し、祝福して下さっているんだ！」と嬉しく思いました。なにか「無限」というイメージを起こさせるような、とても不思議な模様を末広がりに作っていました。とても感動するような見事な模様です。それとパワーを感じました。

中学校の講演は三〇分もオーバーしてしまい、皆さんに申し訳ないことをしました。全校生徒三一四名と先生方全員、父兄の方達が数人の、約三五〇名ほどの皆さんの前で堂々とお話しできました。

自分のありのままの姿を飾ることなく、言葉で表現できました。一時間で自分の体験を話すことはとても至難のわざですが、でも純粋な子供達に何かの良い波動が届いたことと信じています。

私の講演の結果は良かったようです。子供達のお父さんやお母さん達に聞いてみたのですが、「自分のありのままを正直に話してくれて、とても良かった！」「ぼくも頑張ろうと思った！」などなど・・・。「講演の途中に何人も涙を流している子供達がいたらしいよ」と、他の人から聞いて教えて下さった方もあります。

今日、校長先生に挨拶にお伺いしました。「三〇分も時間が伸びてしまってすみませんでした。有難うございました」と言いましたら、「いやいや、子供達もとても感銘を受けたみたいで、大変よかったですよ」と言って下さいました。嬉しくて、やはり人のために役立ったのだと自分で感激しています。

UFO観測で視力が回復

もう一つ嬉しいことがあります。あれから立志式の講演のためと、今後のUFO目撃のためにメガネを買いに行きました。二月二日に出来上がりましたので、メガネ屋さんで視力を聞いてみることにしました。裸眼の両眼で〇・〇八ぐらいは見えるとのこと、私はびっくりしました！　今までずっと何年も左が〇・〇一、右が〇・〇三だったのに、なぜか視力が回復してきたのです。年をとってきたからだと言えばそれまでですが、私はそれよりも一昨年からUFOを見るために昼間の空や夜空を見上げるようになり、昨年一二月頃から仕事の最中や車の運転をしながら空をよく見上げるようになったものですから、たぶんこのおかげで視力が回復してきたんだと確信しています。

びっくりするやら嬉しいやらで、なにかますます希望がわいてきました。私の場合、いつも体験が先で、あとになってから本で確信したり人に聞いたりして、体で結果が生まれるといったパターンです。今は本を読む暇がまったくありませんが、ただ意識は、愛の力で他の人を巻き込んでゆくエネルギーがものすごいなと自負しています。

なんか一定の枠を作らず、先の事を考えすぎず、その時その時を生きているだけで、次第にすべてが良い方向に回っていることが一つずつ確認できているような気がします。

東京月例セミナーの久保田先生の講義テープはGAP鹿児島支部の会員の紙屋さんより貸して頂き、毎日かならずテープを聞きながら運転しています。

ユーコン誌一二四号の秋山眞人氏の記事を二～三頁読みましたが、九頁の下から二段目の文章を読んでびっくり

しました。

「来年（一九九四年）は、今度は生命相互をつなぐ意識の世界が非常に活性化してくる年です。そして、新世紀を迎えてゆくということになると思いますね」

という部分です。私自身がやっていることだと確信しました。地球と宇宙の平和のためのお手伝いが、こんな小さな私という人間にできて非常に有難く嬉しく思っています。

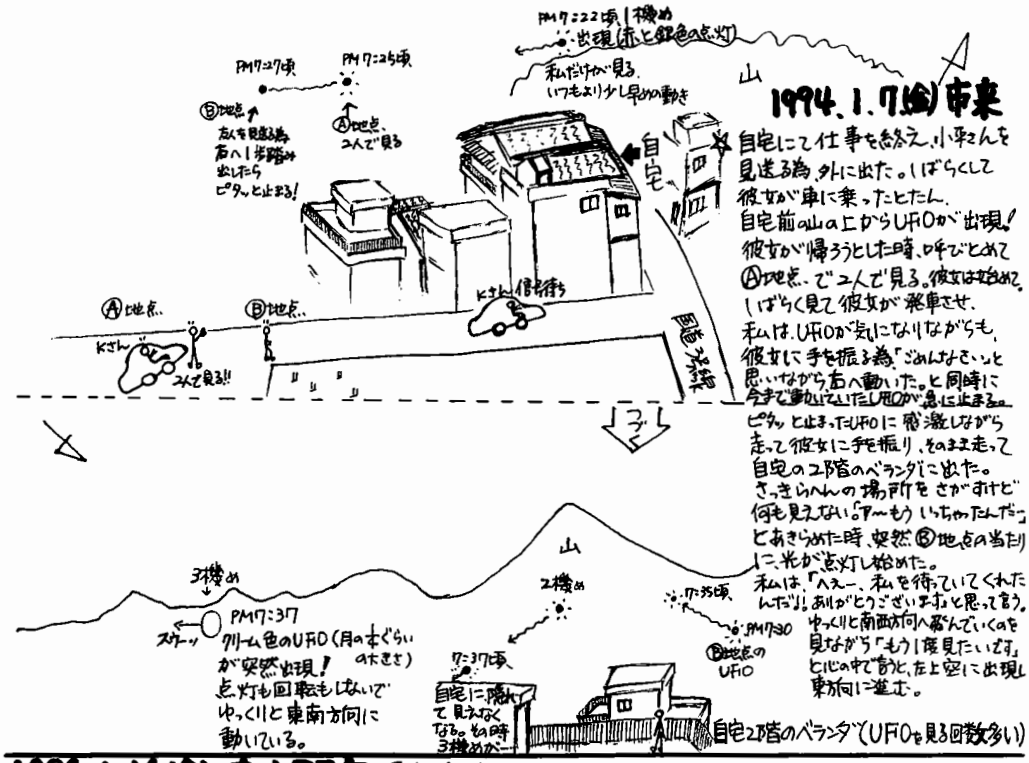
（以下次号）

1994.1.7(金) 市来

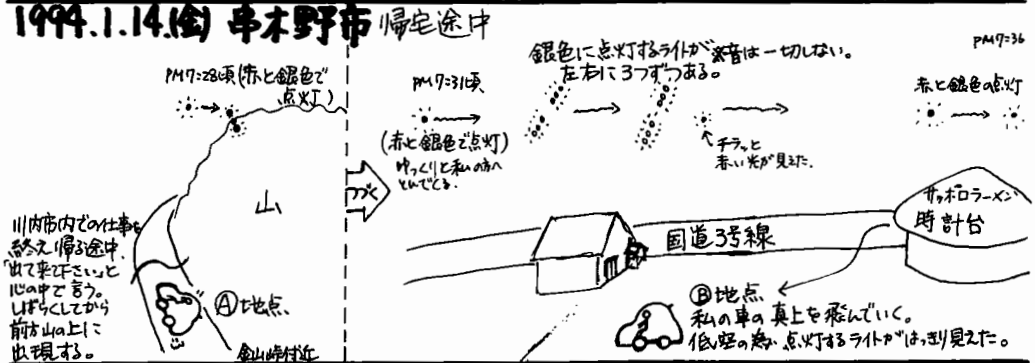
自宅にて仕事を終え、小平さんを見送る為、外に出た。しばらくして彼女が車に乗ったとたん、自宅前の山の上からUFOが出現！彼女が帰ろうとした時、呼びとめて Ⓐ地点、で2人で見る。彼女は始めて。しばらく見て彼女が乗車させ、私はUFOが気になりながらも、彼女に手を振る為「ごめんなさいっ」と思いながら、右へ動いた。と同時に今まで動いてないたUFOが急に止まる。ピタッと止まったUFOに感激しながら走って彼女に手を振り、そのまま走って自宅の2階のベランダに出た。

さっきらへんの場所をさがすけど何も見えない。「アーもう いちゃったんだ」とあきらめた時、突然Ⓑ地点の当たりに、光が点灯し始めた。

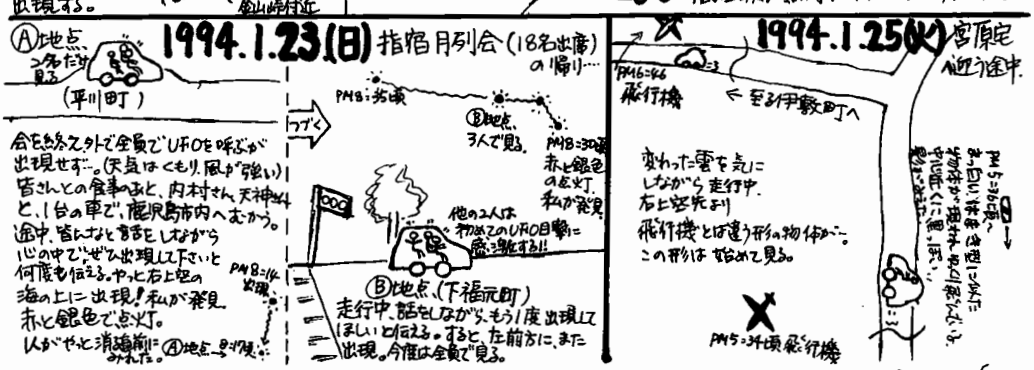
私は、「ヘェー、私を待っていてくれたんだ！」「ありがとうございます」と思って言う。ゆっくりと南西方向へ飛んでいくのを見ながら「もう1度見たいです」と心の中で言うと、左上空に出現し東方向に進む。



1994.1.14(金) 串木野市 帰宅途中

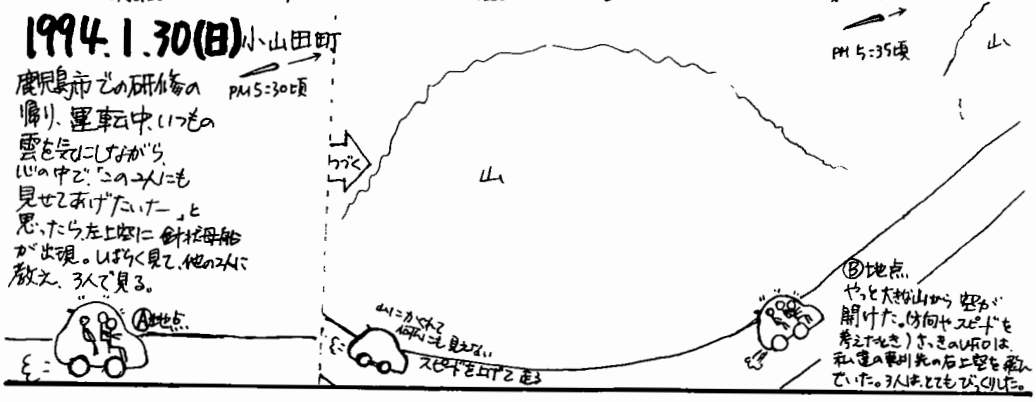


1994.1.23(日) 指宿月例会（18名出席）の帰り…



1994.1.25(火) 宮原宅へ迎う途中

1994.1.30(日) 小山田町



Cosmic Philosophy and My UFO Sightings
by Hiroko Hayashi

GAP活動と共にUFO出現頻発

★林 寛子

この記事は本年五月八日の日本GAP東京月例セミナーで行なった講演録。GAP活動に対する真摯な意欲の高揚とともに俄然UFO目撃がふえたという貴重な体験談。筆者は本年三月に東京芸大美術学部油絵科を卒業して現在は動物公園に勤務。

アダムスキーの本にショック

最初に私がアダムスキー全集に出会うまでと、日本GAPに参加するまでの経緯について少しお話ししたいと思います。

私は絵の勉強をしておりまして、高校三年生ぐらいから、絵の学校に入ろうと思っていたのですけれども、その当時は毎日学校から帰ると、夜明けまで作品を何枚もつくって夢中になっていた頃がありました。

作品をつくっている頃はあまりにも夢中になっていて、三〇分たったのか三時間たったのか時間の感覚がなくなるようなことがあって、私が自分で作品を作っているのではなくて、私の内部に大きな力があって、その大きな力が導いているのではないかと思うようになりました。

その大きな力が何なのかということをすごく知りたくて、精神世界の本とか超能力の本とかをいろいろ読むようになりました。ですが、どれもピンとくるものがなかったんです。

そんなときにたまたま古本屋さんでアダムスキー全集第一巻の『第二惑星からの地球訪問者』を見つけたんです。

中を開くとすぐに母船の写真やアダムスキー型円盤の写真、アダムスキーの写真などがすぐに目につきまして、これらの写真を見たとたんに、これは絶対に本当の事なのだと思いました。それまではUFOには全く興味はなかったんですが、とにかく読んでみようと思って、その第一巻を買って読んでみました。

そして一晩で一冊をいっきに読んでしまって、すごくショックを受けて、こんなに深遠な問題を含んでいるとは夢にも思わなかったので、非常に驚いた次第です。

電車内で異星人に会う

それから毎日読んでは驚くということを繰り返しながら、一年ほどたってから日本GAPに入会してみようかなと思って、去年の四月に申し込んでみました。

そして初めてユーコン誌が送られてきたんですが、中を読んだときにどうしても一つだけ信じられない事がありました。それは東京都内のあちこちに異星人が歩いていたりして、その異星人をちょくちょく街で見かけたりする人がGAPの中にいるということにすごく疑いをもったわけです。

それで私はすごく疑い深い性格だったので、これは本当のことではないのではないかと思って、ユーコン誌の内容がそのまま薄れてしまったのですが、それから一週間ばかりたったある日、こんな事がありました。

当時私は学生だったので、千葉の家から上野にある大学まで毎日総武線の電車を利用して通学していました。そして通学する電車の中では必ず『生命の科学』（新アダムスキー全集第三巻）を読んでいて、いつものように座席に座って夢中になって読んでいたんです。

すると突然、誰かに見られているという感じがして、ふと目を上げると、年齢は二〇代の後半ぐらいと思われる女性が私から一メートルほどしか離れていない場所に立って、まるで私をよく知っているかのようにジッと私を見つめながら微笑んで立っているのです。

パッと見た瞬間になにかすごく奇妙な感じがするなと思っていたんです。その奇妙な感じというのは、今まで自分の中に起こったことのないような感じだったので、どうしてなのだろうという思いがあったわけです。

それから「変だな」と思いながら、また本を読もうと下を向いた時に、私の頭の中に相手からのテレパシーが響いたんですが、その言葉は「異星人」という言葉だったんです。

それで、もしかしたらこの人はスペース・ピープルの一人なのかと思って、私は自分がすごく恥ずかしくなって、顔を上げられなくなりました。

しばらくしてから思いきって顔を上げたときには、その人は顔を横に向けてしまっていて、すぐに次の駅で降りてしまったんです。

そういうことがあってから、またユーコン誌を隅々まで読み直してみて、この事（異星人が都内を歩いていること）は真実なのだなということを知ったわけです。それで去年の五月の月例セミナーに初めて出席させて頂きました。

モスランディングのUFO

1990年5月11日、米カリフォルニア州モスランディング上空に出現した光るUFO。詳細不詳。

それはちょうど一年前のことですが、月例セミナーで久保田先生のお話を聴きまして、まるで私の疑問を知っているかのように講演の中でいろいろと話して下さるので、やっぱり出席してよかったと思って家に帰りました。

初めてUFOを目撃する

すると家に帰る途中のことですが、私の家のそばには五〇階建てのホテルがあるんですけれど、そのホテルの最上階の真横に大きな光体が停止して浮かんでいるんです。パッと見たときに、「これはUFOだな」と思って、ジッと見つめていたら、こんな言葉がわき起こりました。

「GAPに参加することは自分のためにもなり人のためにもなるんだ」という言葉です。これは今でもスペース・ピープル側からのメッセージだと思っていますが、このときは「そうだな」と思って、その光体を見つめていたら、一分間ほどしてスーッと空間に吸い込まれるように消えてしまいました。

それが私が最初に見たUFOですが、今回の講演の題名でもある「UFOを目撃して学んだこと」の始まりでもあります。

このUFO目撃に関しては、ただ見るということだけではなくて、目撃を通していろいろと教えて下さっているのではないかという気がするので、そのことをお話ししたいと思います。

想念に合わせて出現するUFO

私はUFOを昨年の一〇月頃からけっこう頻繁に見るようになりました。最初はどうしてこんなに見せて下さるのかなと思っていましたが、とにかくUFOが来てくれるのは嬉しいなと思っていました。

ところが、どうもこのUFOは私の想念や感情に合わせて出現するということがだんだん分かってきたんです。たとえば私がものすごく宇宙の意識にますます近づく決意を起こしたときとか、信念をもって生きようと決意したときとか、明るく楽しく建設的に一日を過ごしてゆこうというような意欲をもったときなど、とっさに私の想念に合わせて円盤が現われたり光ったりすることがありました。

（編注＝宇宙の意識（Cosmic Consciousness）とはアダムスキーの造語で、生命エネルギーと叡知を含む大宇宙の創造主と同義。神と同義にもなる。俗に〝宇宙意識〟といわれる言葉は人間の側の対宇宙意識を意味するもので、「の」字があるのとないとでは全く意味が異なってくる）

その反対に私が人とトラブルを起こしたり、努力もしないで一日を流されるように過ごしてしまったときなどはUFOは全然来ませんでした。ですからUFOはただ現われるのではなくて、何かを教えて下さっているのだと思ったんです。

それで、その頃から生き方というものをすごく考えるようになりました。必ず一日を振り返る時間をつくって、一日の始まりには、今日一日何を目標にして生きようかという指針をたてて実践するように努力しました。

なかでも宇宙の意識を意識しながら生きることを実行しようと思ったときには、自分が如何に心だけで生きているかということに気づきました。

（編注＝地球人は心だけで生きており、人体を生かしている宇宙の意識の存在に気づかないというアダムスキーの理論を意味する。詳細は『生命の科学』を参照）

それで、アダムスキー全集第一巻に出てくるマスターの言葉の中に、次のような言葉があります。

「私達は眠っているときでさえも宇宙の意識を意識しないときはない」という言葉を読んで、私は非常にショックを受けて、地球人とスペース・ピープルとはこうまで違うのかということがよくわかりました。それでこんなことではいけないと思って、もっともっと頑張らなくてはと思っています。

姉と二人で学び合う日々

そういうことがあって毎日を過ごしておりましたら、しばらくして双子の姉もアダムスキー全集に興味をもつようになったんです。それは去年の一〇月頃だったと思います。それでアダムスキーの宇宙哲学についていろいろと話し合うようになりました。

姉と話し合うようになってからは、次第に次のような事に気づいてきました。それは、一人で学んでいるときよりも、二人で学ぶほうが哲学に関する理解が早いということです。

学び合うということは、与える、与えられるという関係でもあって、つまり両方とも教師であり、研究者でもあるんだということもわかって、こうして学び合うことによって、お互いが役立ち合えるということが分かります。

今までは私は姉とは全然違うんだとか、その他の分離感というものがあったんですけれども、その後は姉の存在の重要さを感じました。そのことが少しはわかったということは私にとってとても大きなことでした。

なぜなら、自分の中に自分を変えたいという欲求があったんですけれども、自己改良については全く自分だけで改善できると思っていて、今までは姉と話し合うなんてことは頭にもなくて、自分だけで本を読んで、わかっていればそれでよいと思ったわけです。

それで先ほどお話ししましたように、初めて私がUFOを見たときにわき起こった「GAPに参加することは自分

のためにもなり、他人のためにもなる」という言葉の意味も少しわかり始めました。

そういうことでして、姉とだけでなしに、日本GAPという場があることも素晴らしいことだなと思うようになって、本当に幸せなことだと思っております。

万物に対する感謝の念

そして姉と二人で勉強を始めましたが、去年の一一月頃からだったと思うんですが、二人でUFOを見ることが多くなってきました。本当に二人で並んで見るということもあったんです。

その頃姉は下宿していて、私とは同じ家に住んでいませんでしたが、それぞれ別な場所で、しかも同じような時刻に同じようなUFOを見ているということが何度か起こって、これは電話で話し合ってわかったんですが、あらためてスペース・ピープルのテレパシーの凄さを知って感心しております。

そのようにしてアダムスキー問題をどんどん勉強しておりまして、毎日を過ごしているうちに、だんだん自分の中に日々のあらゆる事に感謝する気持が自然に出てくるようになりました。

スペース・ピープルに対する感謝はもちろんですが、以前には全然起こしたこともなかった宇宙の創造主に対しての感謝の気持だとか、自分が存在していることに対しての感謝の気持だとか、あとは自分が地球の一部であるということがすごく素晴らしく思えたり、そのようなことに感謝して祈るという習慣ができてきました。これは今年の一月頃からのことです。

過去世の映像も見えだした

この私の変化に合わせるかのように、UFOは毎日のように現われるようになりました。夜、星空を見て宇宙の意識に一日のことに感謝して祈るということを始めたりすると、とたんに私が見ている方向にピカッとUFOが光ったりすることもありました。

あらゆる事に対する感謝の気持、今自分はここに生きている素晴らしさとか、そういうものが高まりだしたときに、チラチラと自分の過去世の映像も見えてくるようになったんです。目を開いたままでも目を閉じていても見えるんですけれど、ときにはフィーリングも一緒にわき起こってきます。

過去世の映像を見るといっても、全く部分的な場面をチラリとしか見ませんので、過去に自分がどのような人間だったとか、どのような時代に生きていたとか、そういうことは全然わかりませんが、一度散歩中に前世の記憶の映像を見て思い出したときは、夕焼け空にいっせいに五機のUFOが花火みたいに現われたので、あれは確かに正しかったのではないかなと思っています。

ユーコン誌の書店卸を始める

次の事もちょうどその頃のことですが、ユーコン誌の一二四号が送られてきまして、秋山眞人さんの記事の中にこんなことが書いてありました。

「最近、スペース・ピープルの活動がますます激化してきて、彼らは政治家や科学者にテレパシーを計画的に送っている」

この内容を読んで、すごくショックを受けました。異星人の彼らが地球のために一生懸命になっているのに、地球人の私はこんなことをしていていいのかなという気持が出てきて、私はただ新しい時代を待っているだけで、ほんとうにいいんだろうかと思い始めました。

それで自分で出来ることをやってゆこうと思って、ふだんはテレパシーの練習とかは全然しませんが、姉と話し合って早速私達も新聞の写真などの切り抜きを使って、政治家とかにイメージを送ってみようかと考えたんです。それで、そういうことを続けますと、UFOが働きかけてくるということがありましたんで、そこでハッと気づいて、今こそスペース・ピープルとともに何かをやらなければいけない時なのかと思いました。

それから、自分の内部から何か人のためになることや、人の役に立つことをしたいという気持が強くわき起こるようになり、だけどその反面、自分は何をしたらいいのかということがわからなくて、行動できないでいるというまるで自分の中に全く違う二人の人間がいるような状態になりました。

こういうときは心を静めて、内部の宇宙の意識に対して聞いてみようと思い、早速、思念し始めました。「私に出来ることがあったら教えて下さい」という感じで、内部の宇宙の意識に聞いてみたんです。

すると急にパッと「ユーコン誌の書店卸」という言葉がひらめいたので、「あ、そうだ、これだったら私にもできるんじゃないか」と思って、早速、姉と二人で実行に移して、書店さんを回って今年の四月から二店の書店さんに置いて頂けるようになりました。

こういうことで、少しでもスペース・ピープルに協力しようという考えがあって始めたわけですけれども、でも結局、スペース・プログラム自体が地球を救う計画ですから、自分のやっていることは自分達のためでしかないのかなと、今少し思っています。

以上のような目撃を通してスペース・ピープルがUFOで来て下さっているのではないかと思い始めてきました。特に「神は与えるだけである」という言葉通り、異星人の方々はより以

上に宇宙の意識をあらわすことによって、そのように生きているんだなと思いました。

もしかしたらスペース・ピープルは態度で示すことで私達が同じ事をやってみようとするのを待っていたのかなという気もします。

秋田の帰りに大母船が出現

話は少し飛びますが、ちょうど一週間前に、こんなことがあったんです。

先週は秋田支部大会がありまして、東京から車でそれに出席した帰りの五月一日に、GAP会員の津田篤孝さんと岡田茂さん、私の姉と私の四人で、津田さんの運転する車で東北自動車道を走っていました。四人でふだん話さなかった事などを車内で具体的に話しているうちにすごく盛り上がって、「これからGAPのためにこういうことをしよう」と話していたんです。

その内容というのは、一つは、今後みんなで出来ることを考えて、どうにかしてこの真実を知らせてゆけたらいいなということと、あとは、もっともっと学びあって、お互いを高めてゆけたらいいんじゃないか、などと盛んに話し合っていたんです。

そして四人がとても高揚して一体感を起こしたときに、突然、東北自動車道の左側のところに、見かけ上、三〇センチぐらいの母船が現われました！

この物体は端と端が光体として光っていて、初めは四人で、二機の円盤が間隔をおいて停止して光っているんじゃないかと話していたんですけれども、そのうち母船の胴体の窓が光って、母船の形がはっきり見えたんです。これは偶然ではないなと思いました。四人が同じ目的をもって力を合わせようという決意を起こしたときにパッと現われたというのは、非常に意味があることだと思いました。

最後になりますが、今回私のような者に講演を依頼されたので、本当に今日の今日まで原稿を書き直してばかりいましたが、私が自分のこのような体験を人に伝えようという意欲を持ち始めたら、UFOがかなり働きかけてきたということがありましたので、そういう体験をしている人達が勇気をもって人に伝えてゆくとか発表したりするのをスペース・ピープルの方々は望んでおられるのではないかという感じがしました。そうすることによって知らせる運動の拡大につながるんじゃないかと思う次第です。どうも有難うございました（盛大な拍手）。

東北自動車道に母船が出現！

Mother Ship Appears! by Shizuko Hayashi

林　慎子〈林寛子さんの双子の姉〉

先日の秋田支部大会におきましては素晴らしいご講演をありがとうございました。先生の講演にはいつも励まされ、そして新鮮さが得られます。特に秋田支部大会でのご講演には今までになく感動いたしました。イエス・キリストがその人生の中で最も美しいと思われる一二人の弟子との学びの時間とは、こんな感じではなかったかと、ふと考えてしまいました。

GAP活動について語り合う

さて、今日筆をとりました目的はもう一つあります。すでに津田さんと岡田さんからお聞き下さったと思いますが、秋田からの帰途、東北自動車道の福島あたりでの母船目撃についてです。

私達（津田、岡田、妹、私）の四人は、宇宙哲学や今後のGAP活動における自分達の役割、GAPの素晴らしい未来について話し合っておりました頃のことです。

高速道路の左側の面に並行して二個の光体が現われ始めておりました。それを見て私達は「UFOはわざわざ観測しようとしなくても、私達が学び合い、行動を起こそうという決意をもっておれば、スペース・ピープル側から働きかけて下さるのだ」と言っておりました。

まさにその直後に二つの光体のあいだに窓が現われました。なんと、その二つの光体は母船の両端の部分で、その間に母船の本体が隠れていたのです。

私達はしばらく興奮状態にありましたが、母船が現われたタイミングを考えると、私達四人が話し合った内容に関係があることは明らかでした。

どうやらスペース・ピープルは今こそGAP会員が一つになって行動を起こすことを望んでおられるようです。スペース・ピープルは「宇宙哲学をみんなでさらに研究し、行動を起こすことによって、自分達の使命を知り、遂行することが私達GAP会員の目的である」ことを確証して下さったようなのです。

実は私と妹は二人でしばしばこのような事を話し合っておりましたが、そのたびにUFOが現われて私達に働きかけて下さっていましたが、このような体験を話すきっかけをつかめないでおりました（秋田支部大会でも、こうした事は結局話せませんでした）。

しかし今回やっと思いきって津田さんと岡田さんにこの体験を話すことによって、一つの突破口が開けたような気がしております。今もまだ母船を目撃したときの興奮状態が続いておりますが、新たな使命に燃えております。

I Saw the Mother Ship, Too !
By Atsutaka Tsuda

私も母船を見た！

津田篤孝

先日の秋田支部大会では先生の素晴らしい御講演に大変感動いたしました。どうもありがとうございました。

早速ですが、秋田からの帰りの車内で母船と思われる物体を目撃しましたので、まずはご報告申し上げます。

日時

一九九四年五月一日、午後九時一五分頃から九時四〇分までの約二五分間。

場所

東北自動車道宮城県白石インターから福島県飯坂インターの間、約四〇km（東京まで約二八〇kmないし二四六km地点）。

目撃者

津田、岡田茂、林（寛）、林（慎）の四名。

そのときの車内の状況

皆で日本GAPの将来のこと、そして我々の世代の果たすべき役割、また個々別々に学ぶのではなくて、仲間同士で話し合い、助け合い、学び合ってゆくことの重要性などを積極的かつ具体的に話し合っていたときに、それに呼応するかのようにUFOが出現した。

目撃(1)

九時一五分頃。林寛子さんが点滅する光体を発見。皆の注意が車外の夜空に向けられる。

目撃(2)

その三～五分後。見かけ上五cmほどの横長のオレンジ色の光体がフロントガラスの右端からゆっくりと左側に移動し、三～四秒ぐらいでパッと消える（図1）。横長だったから、もしかしたら母船ではないかと津田さんと林さんが話し合う。

目撃(3)

その三～五分後。フロントガラスの左上端から赤っぽい光体と青白い緑がかった光体が並んで光っているのを目撃。その光体はゆっくり車を横切るように接近しながら右に移動。近づくにつれて二つに並んでいるように見えた物が実はつながっていることに気づく。

フロントガラスの中央付近に来たときには見かけ上三〇cmほどの大きさで、窓と思われる物が暗くオレンジ色に光っているのも見えた。胴体はまわりの空の色とほとんど区別がつかず、境目だけが見えて、無色あるいは黒色というよりは透明という感じがした（図2）。

このときカメラで写そうという話も出たが、なぜか「撮らないほうがよい」というフィーリングがとっさにわきおこったので、撮影しないことにきめた。そして運転席の前あたりに来たときに、三〇秒ないし一分ほど静止した（実際は車と同じスピードで並行して飛んでいた）あと、フロントガラスからは見えなくなる。

以後、私は運転に専念し、他の三名はさらに観察を続けたが、それによると車の右横を物体は並行して飛びながら同速度でしばらくついて来たという。この間の時間はとても長く感じられた。五～一〇分ぐらいか。

不思議なのは、全く運転に支障をきたすことなく、それどころか運転している私にもはっきりと見せてくれているような気がしたことである。もちろん四人全員が明瞭に目撃した。間違いなく母船だったと思う。

図1

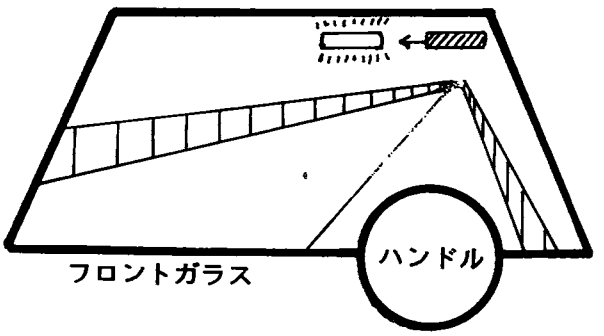
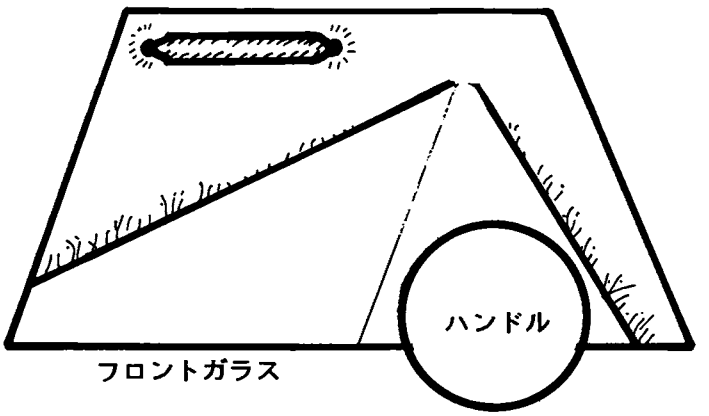


図2



目撃(4)

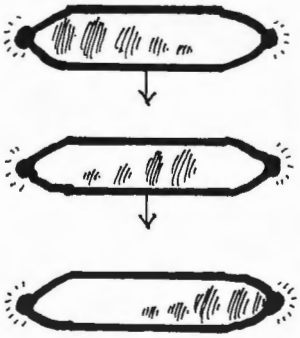
車の前方に(3)と同じ母船が再度出現。今度は窓の光と思われる強烈なオレンジ色の輝きがあり、左から右へ、右から左へとかなりの速さで移動をくり返す。見かけ上の大きさは一〇cmくらい。道路の防音壁に視界がさえぎられるまでの四～五秒間続く（**図3**）。

その後、林（寛）さんが別の丸く輝くオレンジ色の光体を見るなどの目撃例があった。

以上の一連の出来事が終わって時計を見ると、九時四〇分。場所は福島飯坂パーキングの手前数km。東京まで二四六kmの地点だった。

最後に、これらの目撃体験を通して感じたことは、それぞれの出現がまるで私達の想念や話し合いに呼応しているかのようだったので、「あなた達の考えや話していることは正しいことです」と言われたような気がして勇気がわいてきた。そしてこれらのことを絶対に実行してゆくのだという強い決意の念が起こってきた。それで全員で御礼の想念を上空に送って帰途についた。

図3



kubota Talks about UFOs and Adamski at Tokyo University of Art and Design

東京造形大学でUFO講演

久保田八郎

日本GAPの熱心な会員である東京造形大学助教授・佐藤彰先生のご依頼により、去る六月一七日、同大学でアダムスキーを主体にしたUFO問題と宇宙哲学について講演を行なった。

この大学のキャンパスは都内八王子市のはずれに近い山間部にある。森林地帯の豊かな緑に囲まれた〝森の中の寺院〟ともいうべきストイックな感じのする瀟洒な建物は、いかにもデザインと美術の学び舎にふさわしい。それもそのはず、この大学は有名な桑沢デザイン研究所の桑沢洋子女史の創立になる学校なのだ。

私の講演は午後三時から四時半までの一時間半となっていた。二時半に横浜線相原駅へ佐藤先生が車で迎えに来られた。私には助手としてGAPの近藤祐一郎君（千葉大大学院生）と岡田茂君（東京農大生）が同行した。

指定された階段教室は定員二三〇名の大教室で、ここに二〇歳前後の若い男女学生が超満員でつめかけると熱気が溢れてムンムンする。学生諸君がどのような反応を示すかが最大の関心事であったが、話を始めると国会みたいな野次や怒号は全くなく、時折笑声がわき起こるけれども、これは私独特の語り口と、英語の発音をアメリカ風にやるために、なにか可笑しさを感じるらしい。嘲笑のたぐいではないようだ。

最初はUFOとは何かを説明して、異星人の実体を解説し、私自身の体験を織りまぜながら話したが、皆さん、さほど驚いた様子はない。しゃべっているうちに気づいたのだが、太陽系の真相に関して一般人が全く夢想もしていない状態を話すのに、皆さんはわりと落ち着いている。どうやら佐藤先生が平素から授業でかなりUFO問題について予備知識を与えておられたらしい。この講演はオープンではなく、正規の授業の一端として行なわれたもので、出欠をとるのであるから、学生諸君はいやでも出席する必要がある。そこで嫌々ながら聴いているのかと思うに、そうでもない。総じて男子学生は好奇心溢れる眼差しで聴いているが、女子学生のなかに関心のなさそうなのが少しいるのが目についただけで、全体的には素晴らしい雰囲気だった。

私は約二〇年前、第一次UFOブームの折に多くの大学の文化祭でUFO関係の講演を頼まれた経験があるので大学での講演には慣れているつもりだが、自分が熱中して一時間半がこうも早く経過した状態は他にない。

話が予定よりも超過し、最後にスライドを映写する時間が不足して不手際を大いに後悔した。最後に起こった思いがけぬ二度の盛大な拍手には感動した。教室から外へ出てもそばに来ていろいろと質問する男女学生がいた。

お世話頂いた佐藤先生と助手の坪根幸子さんに深甚の謝意を表したい。GAP側からは前記二君の他に泉宏岳君、林慎子・寛子姉妹と山崎和子さんが出席して応援してくれた。

▲講演中の筆者　撮影／佐藤　彰

GAP短信 GAP NEWS

★第五回　秋田支部大会、盛況

かねてからの予告どおり去る四月三〇日（土）には第五回秋田支部大会が秋田県田沢湖畔の「田沢湖ハイツ」で開催されて、四〇数名の出席者のもとに盛況裏に終了した。翌日は八幡平方面の観光に向かい、残雪の見える玉川温泉に足を伸ばして、清浄な空気に心身を清め、同日午後久保田会長の帰京とともに無事完了した。詳細記事と写真は本号四四頁に掲載。

★豪華版　第二回伊豆支部大会

五月三日、三連休の初日、伊豆支部は修善寺町の「ラフォーレ修善寺」で第二回目の支部大会を開催。ここは超豪華なリゾート地。四〇名弱の会員が参集し、久保田会長の熱弁に耳を傾けた。夜は楽しい夕食会を行ない、翌日は貸切りバスで南伊豆一周の観光を二〇数名で実施。夜は松崎プリンスホテルに入って夕食会では豪華なフランス料理を賞味。食後も一同で談話に花を咲かせて、翌日、三島で解散。二泊三日の支部大会は大成功であった。詳細記事と写真は本号四五頁。

★久保田会長、東京造形大学で講演

六月一七日には、東京造形大学からの招聘（しょうへい）により、久保田会長は同大学の大教室で約二三〇名の学生さんを対象にアダムスキー問題を中心にしたUFO問題と宇宙哲学についてスライドを映写しながら一時間半にわたって講演し、多大の感銘を与えた。これは正規の授業として行なわれたもので、大学におけるUFO問題の授業は日本で最初の試みと思われる。同大学の進歩的な態度に会長は感嘆していた。

★中国UFO研究会より会長を招待

今年八月一八日より二一日まで中国北京市で「一九九四年度UFO研究資料展示と情報交流のためのアジア・汎太平洋地域大会」が開催される。主催は中国UFO研究会。久保田会長にも招待状が届き、講演の要請があったが、会長は夏の海外研修旅行と重なるために丁重な断り状を発送した。

★ハンガリーUFO研究会からも招待

六月中旬にはハンガリーUFO研究会長ガボール・タルカリ氏から久保田会長宛に、本年一〇月一日から二日間、同国のデブレツェン市で開催される世界UFO大会で講演を行なうようにとの招待状が届いたが、一〇月は総会とユーコン誌発行で多忙のため、これも丁重に断った。

★今年度日本GAP総会

今年度の総会は一〇月九日（日、二連休の初日）、東京都港区芝公園の東京タワー前の機械振興会館地下二階の大ホールで午後一時より盛大に実施する。今回はアメリカGAP主宰者ダニエル・ロス氏を招聘してUFO問題に関する大講演を行なう。終了後は同会館の六階大ホールで立食形式の大夕食会を華やかに行なう。詳細予告は本号四七頁に掲載されているので多数出席されたい。

★ミッシェル・ジルガー氏来日

フランスのアダムスキー研究家、ジルガー氏（三五歳）は、かねてからアダムスキー研究団体として日本GAPが世界最大であることを知り、久保田会長と交流を続けていたが、日本GAPに対する賛嘆と憧憬（どうけい）の念やみがたく、ついに祖国フランスをすてて去る四月五日に来日、東京に住み着いた。今後は都内に永住し、日本GAPの一員として支援活動を展開する予定。氏は年老いた両親の一人息子であるが、両親とも訣決するほどの壮大なる気宇を示している。都内ではフランス語教師の職につくかたわら久保田会長を第二の父として慕い、月例セミナーにも出席している。日本語を猛勉強中。英語は達者。多数の日本GAP会員と友人になることを望んでいる。

★日本GAP特別維持会員制度

日本GAPはかねてから普通会員とは別個に特別維持会員制度を設けている。これは一種の寄付制度であり、普通会員がさらにGAPに貢献しようとするためのシステムであって絶大なる役割を果している。これに加入すれば、久保田会長が毎月作製するエッセイ「意識の声」が贈られる。このエッセイにはユーコン誌に掲載されない秘話や行事の速報、求道（ぐどう）精神の権化（ごんげ）ともいうべき会長の能力開発法、マインド（心）と宇宙の意識との一体化法その他が満載されている。詳載を知りたい方は日本GAP宛に「特別維持会員制度の案内書送れ」と書いたハガキを出せば直送される。

★日本GAPの郵便振替番号変更

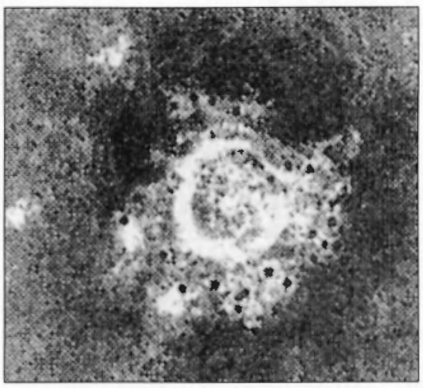
前号の本欄で予告したように、郵政省は全国の郵便振替システムをコンピューター化して送金の迅速化を図るため、今年五月より全国の郵便振替貯金加入者の番号を大幅に変更した。日本GAPの場合は次のように変更される。

旧番号＝東京四―三五九一一二

新番号＝〇〇一四〇―二―三五九一一二

★会費切れの件について

日本GAP会員で会費の切れた方には「会費切れの通知書」と振替用紙を、切れた号にはさみ込んで送っている。しかしそれに気づかない方もあるらしいので、切れた号に続いて、あと二回ほど本誌をお送りし、その間に会費納入がなければ自動的にコンピューターの名簿から除外されることになっている。このことは入会案内書に記載されているにもかかわらず「会費が切れたのにユーコン誌を何度も送ってよこす。日本GAPは押し売りだ」といって非難する人があるが、会費切れの時点で退会するのならば必ずハガキでそのむねを通知する必要がある。そうすれば即時名簿から除外し、あとの二回分は送らない。かりに二回分を送ったとしても二回分の誌代は請求しないで会員名簿からはずされる。



C型肝炎ウイルス確認

遺伝子は発見されているが、ウイルス本体が見つかっていなかったC型肝炎ウイルスを、東京都C型肝炎研究所プロジェクトチームが電子顕微鏡で撮影し、世界で初めて確認した。ワクチンや治療薬の開発に道を開くことになる。

同チームはC型肝炎ウイルスの表面蛋白を作る遺伝子を別のウイルスに入れて、これをもとにC型肝炎ウイルスの表面だけに特異的にくっつく抗体を作った。この抗体を感染者の血液に混ぜ、表面に抗体がついた状態を電子顕微鏡で撮影し確認した。

確認されたウイルス本体は、直径〇・〇五ミクロンから〇・〇六五ミクロンの球形で、表面に無数のスパイク状のとげがある。（3・23読）

世界一の新型蓄電地

重量あたりの電力量が自動車用バッテリーの約五倍という世界最高の性能を持つ新型蓄電地（充電式電地）を、東京農工大と松下電器産業が共同で開発した。携帯用電気製品の小型軽量化に役立つ上、電極の素材が水飴状なので印刷によって、手軽に成形できる。

この蓄電地は陰極に金属のリチウムを使い、陽極にはジスルフィド化合物とポリアニリンを溶剤に溶かしたものを使う。電地一キログラムあたりの電力量が約二〇〇ワット時に達し、一回の充電での寿命は四倍になる。（4・3読）

トップ・クォークを発見

物質を形作る基本粒子クォークのうち、最後まで、姿を現さなかった「トップ・クォーク」の存在を示す強い証拠が、米国で確認された。米イリノイ州のフェルミ国立加速器研究所の世界最高のエネルギーを持つ陽子反陽子衝突型加速器テバトロンでの実験データを解析したところ、トップ・クォークと思われる現象が約一〇個見つかった。質量は一七〇〇億電子ボルト前後と推定されている。

トップ・クォークは物質の原子核の陽子や中性子を構成する最も小さい単位である六種類の基本粒子「クォーク」の一つであり、質量が一番重く、ただ一つ発見されていなかった。（4・23読）

ディーゼルによる肺癌発生を実証

大気汚染の主役であるディーゼル車の排気ガスに含まれる「微粒子（DEP）」が、肺癌を発生させるメカニズムが、国立環境研究所の実験で明らかになった。DEPは交通量の多い大都市で濃度が高く、都市型喘息の原因になっている。

DEPは排気中の黒っぽく見える粒子で、同研究所と国立癌センター、産業医大の共同研究チームが、四八〇匹のマウスを使い、ディーゼルエンジンを稼動させて集めたDEPを気管に注入して、肺の組織への影響を調べた。

その結果、DEPを投与したマウスの三パーセントが、肺の様々な組織に悪性腫瘍を発生した。

さらに、同チームはDEPに含まれる化合物が、体内で「活性酸素」を出すことを発見し、

①活性酸素が肺の中で遺伝子に傷害を起こし、細胞を癌化させる

②活性酸素は肺細胞にも炎症を起こし、その炎症を抑えようとしてリンパ球細胞（マクロファージ）が集まる

③マクロファージもDEPを駆除しようとして活性酸素を出し、癌細胞を大きくしてしまう

という発癌過程を明らかにした。（5・12読）

謎の宇宙ドーナツ

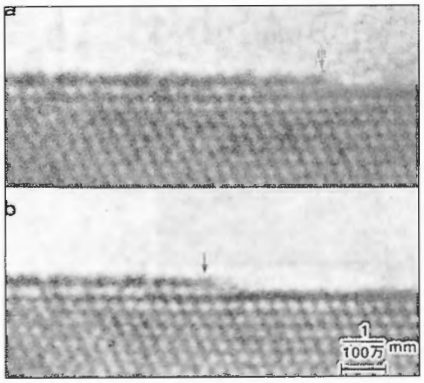
カシオペア座にある超新星爆発の残骸「カシオペアA」の残骸物質が、ドーナツ状の特異な広がり方をしていることが、文部省宇宙科学研究所のエックス線天文衛星「あすか」の観測結果で明らかになった。

星の爆発により重力から開放された残骸は通常、中心から球形に広がるとされており、今回のような例は初めてである。

恒星が進化の果てに大爆発を起こす現象が超新星爆発である。「あすか」は各物質ごとのエックス線を捉えて珪素や硫黄などの残骸物質の分布状況を詳しく調べたところ、ドーナツの内側には何もなく、磁場も働いていないことが分かった。（5・17読）

原子の化学反応を撮影

半導体の結晶を形作る極微の原子一つ一つが、化学反応を起こして刻々と変化する様子を、日本電気基礎研究所の研究グループが最新の透過型電子顕微境を使って観察し、ビデオ画像に収めることに成功した。



観察したのはLSIなどの素材となるシリコン結晶の表面。そこに酸素を反応させると、結晶表面のシリコン原子が数十個ずつを単位にして、はがれていく（写真のaとbは〇・一秒間隔）。

酸化反応は原子単位でなく、ブロックで進むことがわかったもので、結晶表面の動きはまるで生き物のようだという。（4・20読）

水星に氷？

太陽に最も近い惑星で、日の当たる側は四〇〇度以上に熱くなっているはずの水星に、氷が存在する有力な証拠が見つかった。

米国立天文学電離層センターのグループが、プエルトリコにあるアレシボ天文台のレーダーによる電波で水星を観測した画像を分析した結果、南北両極地方に明るく反射する点を三〇個以上確認した

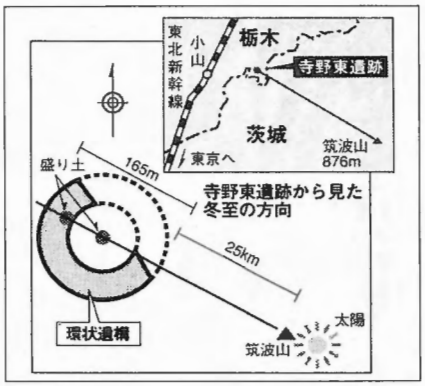
ものの、大きさは直径一五―六〇キロメートルのものが多く、最大で一二五キロメートルもあった。

これらをNASAの探査機マリナー一〇号が撮った水星の画像と見比べたところ、クレーターの場所に良く一致した。このクレーターに厚い氷が張っているために反射が目立つという。（5・19朝）

日本初の古代天文遺跡発見

栃木県小山市梁の寺野東遺跡の環状盛土遺構が冬至と夏至を知るためのカレンダーの役割を果たしていたことを、同県埋蔵文化財センターが明らかにした。古代の遺跡が暦として利用された例は、イギリスのストーンヘンジや中米・マヤ文明のピラミッド神殿などが知られているが、日本では初めてである。

カレンダーとして使用されたと見られる遺構は縄文後期前半の直径約一六五メートル、高さ一・五メートルの環状盛土遺構の中央にある楕円形の石敷き台状遺構と、環状盛土遺構の真上に築かれた円形盛土遺構である。



国学院大の小林教授が円形盛土遺構と石敷き台状遺構を結ぶ線の延長が、南東に約二五キロメートルはなれた筑波山とつながっていることに着目し、同センターが昨年の冬至の日の出に調査した結果、太陽が筑波山のほぼ真上から姿を現した。発掘当初は目的がわからなかった遺構が冬至と夏至を観測できる施設であることがわかった。（5・28読）

ミカンの皮でリサイクル

ミカンの皮の絞り汁が燃えないゴミの発泡スチロールを簡単に溶かすことを、ソニー中央研究所環境研究センターの野口課長らが発見した。またその溶液から原料のポリスチレンを高品質のまま回収できることもわかり、安全性の高いリサイクル技術として注目されている。

ミカンの皮の絞り汁から水分を除いた濃縮液「リモネン」はオレンジ香料として使われている。野口さんらはリモネンの分子構造がポリスチレンと以ている点に着目し、発泡スチロールを破砕してリモネン溶液に入れたところ、五〇〇立方センチ分の発泡スチロールが一〇秒で溶けきり、透明な溶液に変化した。体積は元の固形の二五分の一に縮んだ。さらにその溶液を一八〇度で六〇分加熱してリモネンを蒸発させたところ、元と同じ品質のポリスチレンが得られた。（5・21毎）

新技術「映像の缶詰」

従来は静止画像しか記録、再生できなかったホログラフィー画像を、アニメのように動かし、さらに新素材の結晶に記録させる技術をNTTが開発した。いわばホログラフィーの連続画像を、「缶詰」にする画期的技術で、将来は従来の一万倍の高速撮影や、ホログラフィーの立体映像も可能になるという。

この新素材は、酸化珪素にイットリウムとユーロピウムを添加した無色透明の結晶で、マイナス二六六度で撮影したい物体からの反射光を光の周波数ごとに結晶内に記録することができる。物体に照射する光の周波数を時間とともに変えてやれば、その変化に応じて映像を連続的に記録できる。

この方法を使うと、直径八ミリメートル、長さ一センチメートルの結晶で、約一〇〇万枚、テレビ画像では約一〇〇時間の記録ができる。また、将来は十億分の一秒の高速度撮影も可能だという。（5・25読）

マヤ遺跡で新王墓発見

マヤ文明の代表的な古代都市パレンケの遺跡で新たな王墓が発見された。一九五二年の最初に見つかった王墓に次ぐもので、マヤ文明解明の貴重な手掛かりになる。

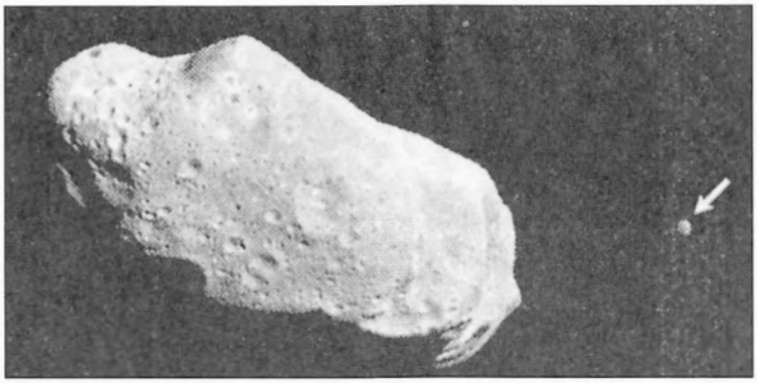
発掘した考古学者のゴンザレス博士によると、見つかったのは遺跡中心部の第一三号神殿で、王とみられる遺骨など三体を確認した。保存状態は良く、王は四〇歳前後と推定され、翡翠の仮面をつけ、腕輪などの装飾品やナイフなども発見された。（6・4毎）

小惑星の月を確認

木星に向かっているNASAの惑星探査機「ガリレオ」が小惑星の周囲を回る月を発見した。

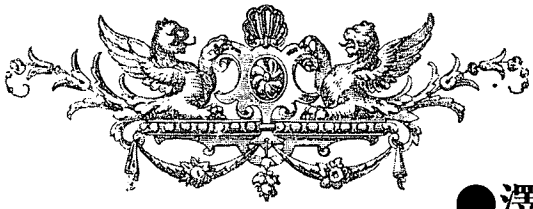
ガリレオ（一九八九年一〇月打上げ）が昨年八月、小惑星「アイダ」から約二四〇〇キロメートルの地点を通過する際、月の撮影に成功したもの。

アイダは長さ五六キロメートル、幅二〇キロメートルあり、発見された月は直径約一・五キロメートルでアイダからの距離は約一〇〇キロメートル。衛星は暫定的に「アイダ2」と命々された。（3・24読）



◀NASAが発表した小惑星「アイダ」と新発見の月（矢印）

The Original Japanese coming from the Continent of Mu
by Tatsuo Sawairi



●澤入達男

ムー大陸から来た原日本人

ムー大陸の宇宙的思想を伝えた原日本人アイヌの言語を分析し、栄光ある種族の本質を解明。

本誌一〇三号の『旭川上空に白銀色の円盤！』と題する記事で、久保田先生が旭川支部大会における講演の中で「アイヌこそムー大陸の後裔の一派であり、平和主義のもとに生きた尊敬すべき原日本人であるという私の持論を展開して、この虐げられた種族の宇宙的思想を讃えた」とあるのを読み、またご講演でもその話を何度かお聞きして大変感銘を受けた。

私は十数年前、アイヌの踊りの催しに行ったとき、彼らの挨拶と思われる瞑想的な仕草を見て非常に宇宙的なフィーリングを感じ、彼らは一種のテレパシックな民族なのだと思い、関心をもっていたのである。

北海道・旭川でのご講演の翌日に出現したというUFOも、やはり意味のあることのように思えて、それ以来アイヌについて研究していたところ、アイヌ語とそれに関連する日本語の中に、久保田先生の持論が正しいことを示す事実があることを発見したので、ここにまとめることにした。

（編者（久保田）注＝右の旭川での出来事は次のとおりである。六年前の一九八八年六月二六日、旭川市で開催された第七回旭川・札幌合同支部大会の席上、私は講演の中で、万物を神の顕現とみなすアイヌの汎神論的思想からみてアイヌこそ栄光あるムー大陸人の後裔の一派であり、尊敬すべき種族であるという意味のことを述べた。

翌日の観光で同市内の川村カ子ト・アイヌ記念館へ見学に行った折、隣接する土産物店の前の広場に立っていた私が、ふと空を見上げたところ、まさに視線の方向の天頂付近に、突然、白銀の真珠のような円形の物体が出現し、左側からU字形を描いて青空に吸い込まれるように消えた。瞬間的な現象で、しかも他の同行者達は私から約一〇メートル離れていたために目撃者は私だけに終わったが、これは異星人が私の持論を支持するとともにアイヌの人達を祝福するために出現したものだと今でも確信している。

物体の見かけ上の大きさは、私の右手を前方にまっすぐ伸ばして定規を持ったときの目からの距離約六五センチの位置において直径約五ミリ程度であった）

ムー大陸とアイヌ人

ムー大陸についてはアダムスキーが『宇宙哲学』（新アダムスキー全集第七巻）の中で、アカシック・レコードからその詳細を読み取り、この大陸をレムリアという別名で次のように語っている。

「レムリアはかつて世界の文明国であった。その住民は高い教養を持ち、原因と結果についてすぐれた知識を有していた。彼らは自我のためではなく〝全体〟のために生き、万物を〝宇宙の叡智〟の表現とみなした」

（編注＝ムー大陸は遠い昔、太平洋に存在して栄えた楽園であったが、一万数千年前に海底へ沈下した）

かつてのアイヌの人々の文化や精神性をみると、このアダムスキーのレムリア人に関する描写に非常に近いものが感じられる。

アダムスキーはイギリスの名高い超古代史研究家・ジェームズ・チャーチワードのムー大陸に関する説は八〇パーセント正しいと言っている。チャーチワードはムー大陸について、人々が太陽神「Ra」と母性神「Mu」を信仰し、最高者「ラ・ムー」のもとに一大国家を形成していたと述べている。

なお、アダムスキーが土星人につけた「ラミュー」という仮の名前は、このムー大陸の最高者の名称からとった名前と思われ、彼が遠い過去世でムー大陸と関連があったことを示唆しているようである。

「mu」の音声的意義

チャーチワードは、インドやエジプトはムーの植民地であったと述べているが、古代のインドやエジプトには、一定の音声が精神や現象にある種の影響力を持つというノウハウがある程度伝わっており、日本でも言魂（ことだま）（言霊）と呼ばれていたが、それらによると、「ｒａ」という音声には大体に能動的な精神作用に共鳴する質があり、「ｍ」で始まる音声には受容的な精神に共鳴する質があり、それらの作用を増強できるという認識が伝わっている。

アダムスキーは、金星の母船の中でイルムスと名づけた火星人の女性から、「大昔、地球に住んでいた人々は、音響と振動に関する宇宙的な法則を完全に理解して応用していたと申し上げれば、びっくりなさるかしら？」と聞かされており、ムーにおいて、そのような知識が応用されていたことを意味しているように思われる。

（編注＝右の火星婦人の言葉は『第二惑星からの地球訪問者』の第二部に出ている）

私の推測であるが、この二つの音はインドのマントラのように音声波動に視点がおかれたものであって、もともとは一つの品詞といったものではなく、この音声の波動的性質が神聖視されていたものだと思う。そしてそこからそれぞれの音が父性原理的な神の認識と母性原理的な神の認識を示すようになったのではないかと思う。チャーチワードも「ｍｕ」がムーの人々にとって非常に神聖なものであり、大地、母、母なる大地など、この語が結果的に示す複数の意味について何度も著書の中で触れている。

「ｍｕ」という語は学者の造語で生まれた言葉だという説もある。しかしチャーチワードは著書の中で、ムー大陸から伝わった粘土板の絵文字の読み方を教えてくれたインドの高僧から直接に「ｍｕ」という音を聞いたことを述べているし、アダムスキーほどの人が単なる誤解で生まれた言葉を偉大な異星人の名に当てるとは思えない。

エジプトその他に見いだすことのできる「ｒａ」とは対照的に、この神聖語としての「ｍｕ」という語は容易に見当たらない。しかし、これから述べるように、この「ｍｕ」という音は、原日本人の言葉の中に見いだすことができ、しかも、ムー大陸人の認識と同じ認識のもとに使われていたのである。さらに、この音はアイヌの精神文化の軸となるすべてと言っていい語の中心的な位置を占めており、日本の古代信仰の核とされるほとんどの言語も、これを軸に生じたことがアイヌ語との比較によってわかるのである。

神聖なる「ｍｕ」

アイヌ語研究者の中には、アイヌ語と日本語は同じ源泉から生じたと主張する者が多く、それは、文法上の類似や日常生活や精神面を表わす語彙（ごい）の類似などを根拠にしている。

特に精神的、信仰的な事柄に関する語はアイヌにとっても古代日本にとっても重要な位置にあるため、他民族からの借用は少ない。

私は、アイヌ人はその昔、日本列島に住んでいたムーからの後裔の一派であり、現在の日本人は、その原日本人を軸に他の民族との混血を経たものであり、そのため、言語的には日本語はアイヌ語と同源なのではないかと思っている。この「ｍｕ」という語を調べてみると、その歴史的過程を見てとることができる。

まず、現在の日本語の中にこの語を見いだすためには、音韻（おんいん）の基本的変化の法則の一つを知る必要がある。

日本語にはｕの音がｉの音に変化して名詞化するというパターンがある。たとえば、

「ｋａｚａｒｕ（飾る）」→「ｋａｚａｒｉ（飾り）」

「ｔｏｍｕ（富む）」→「ｔｏｍｉ（富）」

のようにである。

日本語研究者の大野晋氏によれば、日本語のｉはもともとコトやモノを表わす語であり、連用形とは語幹にｉが付加して名詞化したものであるという。この変化の過程はアイヌ語に残っている。アイヌ語でも、ｉはコトやモノを表わす。たとえば、「ｓａｎ（下る）」→「ｓａｎｉ（下るもの＝子孫）」と名詞化する。

この名詞化の進行は日本語の方が進んでおり、アイヌ語では元の形に近いものが多い。また、日本語でも、古い次代に遡（さかのぼ）るほど元の形に近く、名詞化される前の形がそのまま名詞として使われていた。

たとえば、春は「懇（は）る」という動詞と同じ形をとどめている（以上は日本語研究者の板倉篤義氏の指摘）。

日本語は古い時代に遡るほど音節の種類が多く、ひとつの音節のみで意味を表わし、品詞未分化であったが、複数の音節で意味を表わすようになり、音節の数は減少したといわれている。

以上のことを頭に入れておくと、アイヌ語と日本語の関係が容易に分析できる。品詞未分化な時代に「ｍｕ」であった語も現在の日本語では「ｍｉ」

◀筆者・澤入氏は一九五六年生。静岡県出身。二松学舎大学卒。中国古代哲学専攻。現在は公立中学校教員。

に変化しており、アイヌ語では「ｍｕ」のままか「ｍｕｉ」という変化過程の段階が見いだされるはずである。

「神」の語源

アイヌ語で「ｍｕ」の音を含むものを探してみると、「神」「精神」「身」にあたる言葉、およびそれを核とした「魂」「生命」にあたる語と精神活動を表わす種々の語にこの音が含まれているのに対し、それ以外の言葉には、「ｍｕ」の音はあまり出てこない。

アイヌ語の「神」にあたる「カムイ」という言葉をみてみよう。古い分化が残っている沖縄では神のことを「ｋａｍｕ」と言い、日本語では「ｋａｍｉ」と言う。先の音韻変化の法則を考慮すれば、この語は「ｋａｍｕ」→「ｋａｍｕｉ」→「ｋａｍｉ」の変化過程が、それぞれの段階で定着したものと考えられる。

日本語の複合語には古い時代の音をとどめているものが多いが、日本語の古い時代の「ｋａｍｉ」の意を含む複合語をみてみると、

「ｋａｍｕｎａｇｇｒａ（かむながら）」

「ｋａｍｕｇａｋａｒｕ（かむがかる）」

「ｋａｍｕａｇａｒｕ（かむあがる）」

という形が残っているように、「ｋａｍｉ」は古い時代には「ｋａｍｕ」であったことを推し量ることができる。

（複合語元の音と異なる音を含む場合、一つの語が他の語につくことにより発音の便宜上、元の音が他の音に変化したものと、非常に古い時代に出来た転韻しない複合語が原音をとどめ、元の語の方が後の時代に音が変化したために音が異なる場合の二つが考えられるが、この場合は、理由はあとで述べるが後者と考えられる。

大野晋氏も、日本語のカミはｋａｍｕ→ｋａｍｕｉ→ｋａｍｉと変化したものだとしている。ただし、氏はアイヌ語のカムイは日本語から借用したものだとしているが、これには賛成できない。常に万物に神を認識してきたアイヌが、その神という言葉を他民族から借用するとは思えない）

「ｍｕ」とは何か

アイヌ語の「ｋａｍｕｉ」のうち、「ｋａ」は「上」を意味する語であり、それに「ｍｕ」と名詞化の音「ｉ」がついたものと思われる。そうだとすると、「ｍｕ」という音は「神」の意か「上」と組み合わさって神を表わす語でなければ「ｋａｍｕｉ」は神の意味にはならないはずである。

「ｍｕ」とは何だろうか？

日本語では「ｍｕ」は「ｍｉ」に変化していることを考慮すれば、現代でも接頭語として「ｍｉｋｏｋｏｒｏ（御心）」のように敬意を表わす語として使われていることから、「ｍｉ」の音はもともと尊いものへの認識を意味する語であることがうかがえる。

さらに日本語の「ｍｉ」の語源をたどってみれば、「ｍｕ」という音がいかなる性質のものであったかが、いっそう明確になる。文献に残る最も古い時代の日本語の「ｍｉ」という言葉は、次のような意味で使われていた。

「ｗａｔａｔｓｕｍｉ（海つみ）」

「ｙａｍａｔｓｕｍｉ（山つみ）」

「ｔｓｕｋｉｙｏｍｉ（月夜み）」

これらの「ｍｉ」は、自然界の霊力、神の意である。アダムスキー流に言えば、まさに「因なる叡智」である。

「つ」は連帯修飾語を作る助詞であるから、「海つみ」とは「海に宿る自然界の叡智（神）」のことである。

現在使われている言葉の中にも、たとえば、

●ｍｉｙａ（宮）＝ｍｉ（神）＋ｙａ（屋）〈神の宿る家〉

●ｍｉｋｏ（巫女・神子）＝（神）＋ｋｏ（子）〈神の子〉

●ｍｉｋｉ（神酒）＝ｍｉ（神）＋ｋｉ（酒）〈神気の宿った酒〉

というように、ｍｉ＝神と解釈した方がより適切だと思える語を多数見いだすことができる。敬意を表わす接頭語のｍｉ（御堂、御心など）も、ここから派生した語ではないだろうか。

「ｋａｍｕｉ」という語は「ｍｕ」の音のみで神を表わしている語であり、「ｋａ」は上であり、ｍｕに対する畏敬の念を表わした接頭語的な語であろうから、「ｋａｍｕｉ」とは、我々の言葉で表現すれば、「崇高な宇宙の叡智」とでもいったような意味になる。

今までアイヌ語研究者によって「神」と「カムイ」が関連ある言葉だということが主張され続けてきたが、肝心なカムイの意味になると、ｋａの意味はわかっても、ｍｕｉにあたる意味として、充分に納得できる説がなかった。しかし、以上のように日本語との関連から推し量れば納得できる自然な解釈が成り立つことがわかる。

注意深くアイヌ語を見てみれば、その他のアイヌ語の「ｍｕ」も神聖な対象を示していることがわかる。

万物を神の現われとみる

アイヌ語では「体・身」のことを、「ｍｕ」と言う。他の生命体、特に人間が食物とする「体」についても

「肉＝ｋａｍｕ」「魚の肉＝ｍｉｍ」

「栗の実＝ｙａｍ」「どんぐり＝ｋｏｍ」「くるみ＝ｎｕｍ」のように、「ｍｕ」を元にした音で示される。

この語は「神」の意味と一見関係なさそうに見えるが、そうではない。アイヌの人々は現象として現われた物の一つ一つに神を認識していたし、特に食物となる生命に対しては、その認識

が強く表われていた。

彼らは食物を得ることについて、たとえば「狩猟」を例にあげれば、次のような考え方をもっていた。

彼らにとって「狩猟」とは、「仮の衣を身につけてやって来てくれた尊い神を迎え入れる神聖な行為」であった。

現代人は、狩猟を「獲物を自分の意志と力で獲る」ものと考えるが、アイヌ人は「神の側から遣わされ、肉というお土産を携えてやって来て下さったものを、感謝の思いで受け入れる行為」と考えていたのだ。

このことはアイヌのイヨマンテ（熊祭）という言葉からもよく分かる。アイヌの語「狩猟」を意味する「ｒａｍａｎｔｅ」という言葉は「ラム（ｒａｍ＝心）＋「アン（ａｎ＝ある）＋「テ（ｔｅ＝～させる）」であり、「魂を在らしめる」（魂をあるべきところにあらしめる）というような意味である。いかに我々の認識と異なるか、彼らが生命を神聖視していたかが理解できる。

つまり我々にとっての「食物を得る」という能動的行為は、彼らにとっては「神々との出会い」であり、「神々に出会わせていただく」という非常に受容的な行為であったのだ。したがって、「ｍｕ」という音がこの意味につながってゆくのは自然な流れである。

このアイヌ語の「ｍｕ」の意味にあたる日本語は、音韻の変化通り「ｍｉ（身）」である。しかも次のように植物など、他の生命体にも使われる類似した使われ方である。

「ｗａｇａｍｉ（我が身）」
「ｓｈｉｒｏｍｉ（白身）」
「ｋｏｎｏｍｉ（木の実）」

この「ｍｉ」について調べてみると、日本の古い時代には同じ意味の「ｍｉ」という言葉がやはり「ｍｕ」と発音されていたことが、次のような複合語によって推し量れる。

「ｍｕｋｕｒｏ（骸）」
「ｍｕｚａｎｅ（正実）」

アイヌの人々は、自分の身の回りの存在の一つ一つを「～カムイ」と、神として認識していた。古代日本人にとっても、「ヤオヨロズの神々」で知られるように、万物が神々であった。これは万物が宇宙の意識の現われであるという認識に通じるものであって、実に宇宙哲学的な思想であると思う。

（編注＝「宇宙の意識」というのはア

▲マリモ祭の前夜祭で正装して瞑想するアイヌの長老。

ダムスキーの造語で、宇宙に遍満する創造パワーと叡智、すなわち神の意味。人間の側の対宇宙的意識ではない。詳細は新アダムスキー全集第三巻『生命の科学』で解説してある）

そして人間の体は、聖書にも「あなたがたの体は生ける神の神殿である」とあるように、原日本人にとっても、最も身近に宇宙の意識を感じさせる神聖なものであったはずである。

これに先ほどの「ｒａｍａｎｔｅ」のような例、および「ｍｕ」という音がもともと品詞未分化の神聖後であったことを考え合わせれば、「ｍｕ」という音が、「神」「精神」（あとでふれる）そして「身」という意味の語の中枢となることが不自然でないことはわかっていただけると思う。

古代日本語の「ｍｉ」

さて、今までの仮説を傍証する次のような事実がある。

古代の日本語は万葉仮名といわれる漢字の当て字で書かれ、同じ意味の同じ音もさまざまな漢字で書かれていた。しかし「ミ」を含む一三の音については、二種類の漢字の使い分けがなされていたことが、本居宣長、石塚龍磨らによって明らかにされている。つまり、現在は同じである一三の音は、古代にはそれぞれ別々な音であったと考えられているのである。

そして「ミ」という音に関しては、「美・彌・弥・彌・寐・民」（甲類）「微・未・味・尾」（乙類）の二つに使い分けがなされ、一定の意味に対して混同して使われることがなかった。現在「ミ」と発音されるもののうち、「神のミ、身、実、巳（蛇の意）、廻（まわり、めぐり）」は常に上代では乙類の漢字で書かれ、例外は存在しない。このことはこれらの「ミ」がきわめて関連深く、おそらく語源が同じであろうことを示している。

しかも、先に説明した古い時代の複合語に見られる現在の「ｍｉ」にあたる意が「ｍｕ」になっている例は、この乙類で書かれた「ミ」だけに見られ、甲類の「ミ」は全く見られないのだ。このことは、もし乙類と甲類の「ミ」が同一の「ｍｉ」の音であり、複合語になるための発音の便宜上、「ｍｉ」から「ｍｕ」への転韻が起こったとしたならば、同じ転韻が甲類の複合語にも見られなければおかしいことになるので発音の便宜上の「ｍｉ」から「ｍｕ」への転韻ではないことを示している。

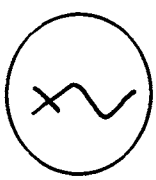
「神のミ、身、実、巳、廻」のうち、「身」「実」については先に述べた通りであるが、他の「巳」「廻」についても非常に考えさせられる。チャーチワードがインドの高僧から見せられたというムーから伝わる絵文字（ナーカル文書）の中の代表的な宇宙とその力を象徴した絵文字は、円の中に蛇が描かれている。

この円は宇宙を意味し、蛇は神の象徴となっているのである。アイヌの人々も「かつての長老達はカムイの真の姿は長もの（蛇）であると言っていたが、その意味は何か奥に深い意味があるようで、今の私達にはわからない」という意味のことを言っており、このナーカル文書の絵文字の象徴と非常に類似している。

なお、この絵文字と似た絵文字が沖縄の古い石板に刻まれており、琉球大学助教授の木村政昭氏がその類似性を指摘している。沖縄は先にふれたように「ｋａｍｕ」という「神」の最も古い形と考えられる音が残っている地域であり、偶然とは思えない。

また、廻の意味する「まわり、めぐり」という意味は、宇宙の性質と関連深い。「まわり」は宇宙の「全包容的」なあり方に、「めぐり」は宇宙の「循環」する性質に通じ、これも「神」の意から生じた可能性が高い。

ナーカル文書の絵文字



沖縄の石板の絵文字

以上で「古代日本及びアイヌにおいてｍｕ音が神聖視されていた」という見解は理解していただけたと思う。この考えは、私がここで初めて指摘した見解であるから、一九三〇年代のチャーチワードが知っているはずのない事実である。その他の民族でｍｕ音を神聖視する民族は存在しない（私の調べた限りでは）から、現存するどの民族の信仰からも、その音を推し量ることは不可能だったはずである。ましてや単なる誤解で生まれた語が音・意味共に一致するはずはない。やはりチャーチワードはムーから伝わる「ｍｕ」という音を、それを受け継ぐ者から聞いたのであり、それゆえに現存するムーの後裔の言語からその音をたどれるのではないだろうか。

アイヌの精神語の中枢「ｒａｍｕ」と日本語の「魂」

アイヌ語の精神面を表わす語の中で最も重要な語幹となる語に、ラム（ｒａｍｕ＝思う・思考する、ｒａｍ＝心）という語がある。アイヌ語の精神活動を表わす多くの言葉は、このラムという語に他の音が付属して表現される。

「正直な＝ｒａｍｕｐｉｒｋａ」

「うれしい＝ｅｒａｍｕｒｉｔｅｎ」

「憎む＝ｗｅｎｒａｍ（↑ｗｅｎ・ｒ

amu）

「愛する＝uramoshima（↑u・ramu・oshima）」

「知る＝eraman（↑e・ramu・an）

したがって、この語はアイヌ語の精神面を表わす語の中で最も頻度の高い語であり、「mu」という音がほとんどの精神語に含まれることになる。非常に重要な役割をもったアイヌの精神語の中枢となる語なのである。

この語は「mu」とその前にもう一つのムーの神聖語「ra」の音が来ている。アイヌ語はかなりの語が音節の単位にまで意味を明らかに出来、もともと一音節で意味を表わした言葉であるから、この語もraとmuの二つの音節から成り立ったものと考えられる。

アイヌ語の「ra」はどんな特徴をもつ音なのだろうか。アイヌ語の中で「ra」という音が最も頻繁に表われるのは、次のような能動的な性質の強い動詞の中である。

「〜する＝kara」

「行く＝arapa」

「現われる＝chiparasc」

「聞く＝shiara（chaka）」

「燃える＝paraarase」

「話をする＝yainusarak aki」

「動く＝charas」

このことから、「ra」という音はもともと能動的な性質を表わしていた語ではないかと推測できる。先に説明したように、ムーで使われていたという聖なる音「ra」は太陽や神を表わす音であり、母性的、受容的な聖神語「mu」とは対照的な、父性的、能動的な神聖語であるから、この神聖語の表わす質と一致する。

なお、上代の日本語にはなぜかr音の使われた語がほとんどなく、語頭にr音の来る例は皆無であるという現象がある。なぜr音が使われないかは学問的には明らかでないが、神聖なるがゆえにその神聖語やそれに近い音を日常生活に使用することを意図的に避けたためと考えられなくもない。

また、アイヌ語の能動的な性質の語に使われる音として「mu」に次いで多く見られるのが「ka」という音であり、「開く＝chaka」「出産＝chupoka」のように使われ、また「ka」と「ra」を合わせた「〜する」を意味する「kara」という動詞（助動詞）があるが、「見る＝nukara」「踊る＝tapkara」「集まる＝uwekarapa」のように使われることから、この「kamui」にも使われている「上」を意味する「ka」は、「ra」と何かの関連があるか、もしかしたら「ra」より派生した語である可能性もあると思う。ちなみに日本語でも動詞に含まれる最も頻度の高い音は、これに対応するかのように「ra」と「ku」である。

さて、以上をもとにこの「ramu」という言葉の意味を考えてみると、次のように推測することができる。

古代には、一般的な歴史学の上でも雨乞い・占い・シャーマニズムなどとして知られているように、超感覚的な精神能力への認識があり、能動的（自然現象のコントロールなど）受容的（未来予知など）両面の精神能力の応用が現代よりもずっと日常的だった。

そして日本の祝詞（のりと）や、言魂信仰などを考えればわかるように、古代日本人は音声をそのような能力の触発のために使っていた。「ra」と「mu」という語は、超感覚的な精神能力の能動的側面（ra）と受容的側面（mu）に働く言魂的性質への認識から生まれた語であろうから、そこから推測すると、「ramu」という語は、その音が精神の陰陽両面の働きを触発させることから、「精神の陰陽両面・精神の全体」＝「心」を示すようになったと考えられる。

そしてこれに関連して興味深いのは、これと同じ音で構成されるムー大陸の最高者の呼び名とされる「ラ・ムー」である。

「ラ・ムー」とはチャーチワードによれば「太陽の子」を意味するという。太陽と宇宙の能動的作用の象徴であり、子とはそれを受ける受容性の象徴であろうから、この推測が正しければ、「ラ・ムー」も「ramu」も本質的には全く同じ言魂的認識により成り立っていることになる。（上代の日本語は現代の日本語よりも音節の数が多く、一つの音節が本質的な意味の共通する複数の対象を示すことが多かったから、異なる意味に同じ音が使われるのは不自然なことではなく、ムーの言語も同質のものと思われる）

アイヌ語研究者の片山龍峯氏は、この言語が「acha oman kuniku uamu（父は行くでしょう）」というように、文末で推量の動詞（助動詞）として使われ、日本語の「むべ山風をあらしといふらむ」のような「らむ」と同様の使われ方であることから、両者が同一起源の語であることを指摘している。

また、ラムという語はそれだけでも魂に近い意味を持つが、この語が基となった「ラマッ（ramat）」がアイヌ語の魂・生命を意味する語である。片山氏によれば、ラムが日本語のタマシイになったという。私としては「ramat」が日本語の「tama」になったとみる見方もできると思うが、いずれにしても、古代日本ではra音の発音が避けられていたこと、アイヌ語のr音が日本語のt音となる対応は他にも見られることなどを考慮すれば、両者の意味と音の一致は偶然とは思えないから、魂の語源はアイヌ語日本語共に共通であることは間違いないだろう。そしてその語源となる基本語は、

「ｒａ」と「ｍｕ」である。

「ｍｕ」は原日本人のルーツ？

高名な国文学者・折口信夫氏が「日本の古代信仰は魂が問題だと思われる」と言っているように、魂は日本の古代信仰の中でも最も重要視されてきたものであり、日本の古代信仰の謎を解く鍵とされてきたものである。

私の推測が正しければ、この、日本の古代信仰の核となる「魂」という語の起源は、ムーにおいて最も神聖視された語そのものということになるのだ。それどころか、「神」「心・精神」「魂・生命」「身」など、古代日本人の精神性の中枢となる言葉のことごとくは、以上のようにアイヌ語との分析によりその語源を推し量れば、チャーチワードの述べたムー大陸の最も重要な神聖語「ｍｕ」を核として生じていることが明確になるのである。

これらの言葉は強い信仰心を持つ民族にとって最も重要な言葉であり、したがって、最も他民族からの借用もまばらな、扱いも少ないはずの言葉である。これらの言葉の起源は、原日本人の起源そのものを示しているはずである。チャーチワードは、

「日本人はその島に着いたときから、高い文明１人類最初の大文明の所有者であった。この文明の名残りは、現在生きている日本人の中にも流れ続けているはずだ」

と言っているが、以上の言語上の分析結果は、これが真実であることを示唆している。

ムーの二つの神聖語のうち、父性性を示す神聖語「ｒａ」は、エジプトの太陽神が「ｒａ」であり、韓国の最も中心に位置する祖先神も「ｒａ」であり、太平洋上の島々では太陽のことを今でも「ｒａ」と言うし、世界の民族の中に見いだすことができるが、母性性を示す神聖語「ｍｕ」は、今まで誰にも知られていなかった。しかし、以上のように、この語は日本に最もよく受け継がれ、生きてきたのである。

日本人の潜在的特質「大親和力」

現在の日本人は歴史的に多くの民族との混血をくり返したと言われているが、日本語の中には何万年もの年月を経て、今もなおムーからの言魂が生きているものがある。これは「ｍｕ」という語が単独で維持されたというよりも、日本語全体がそれを維持する働きを持っていたからであると思う。

言語は民族の精神性を決定する重要な位置になる。たとえば、両親共に白人系アメリカ人の子供が、日本語中心に育った場合、人種が異なるのに性格や観念は日本人的な質に育ちやすいし、戦時中、他民族を自国に吸収するために言語の使用を強制したのもこの悪用である。

また科学的にも、角田忠信氏が発見したように、日本語で生育した人と、非日本語で生育した人とでは、脳の右半球と左半球の機能が異なっていることから、言語が物理的な精神機能に対しても大きな力を持つことがわかっている。

また、古来より日本では言語が言魂と言われるように、音声を超えたものとして認識されてきたが、これも、言語の持つこのような力、あるいは我々がまだ理解していない力を、鋭く直感力と生活体験から認識したものであろう。

このことから言えるのは、以上に述べてきた事実は、単に言語の範疇のみにおさまる問題ではないということである。

日本という国の特質を一言で言えば、それは吸収型の文化と言えるだろう。吸引し、さらにそれをはぐくむ母性的文化でもある。誰でも知るように、日本人ほど文化を他から吸収するのに秀でた民族はない。たとえば、現在の科学技術も欧米から学んだものでありながら、カメラ、電化製品などは本家を凌いでいるし、過去の中国経由の文化も同様であるし、数限りない分野に日本人のこのような質が現われていることは周知の事実である。日本の、他から吸収し日々新たに発展する性質は、日本人が本来独特の受容性、大親和力を持つからであると思うが、この日本人の持つ質と力は、母性・受容性の言魂「ｍｕ」の持つ働きと奇しくも一致している。これは長い歴史を通して母性的文化を大切にしてきた日本民族の中に、この「ｍｕ」を表わす言魂と同一の質が潜在的に刻まれているからではないだろうか。

チャーチワードの説によれば、ムーにはいくつかの種類があり、エジプトに行き着いたムーの種族と、日本に行き着いた種族とは別の種族であるという。私は日本に行き着いた種族はムーが最も調和的だった時代の受容的・母性的精神性を維持した、あるいは維持しようとした種族であり、そのために他の地域のように「ｒａ」に重きがおかれず、「ｍｕ」に重きがおかれたのではないかと思っている。

アダムスキーのムーに関する描写を参考にすれば、ムーの末期は現在と同じような貨幣経済が浸透し、調和的な時代の精神性は失われていたことが分かるが、アイヌ民族に関しては貨幣経済にあったであろう質は見当たらない。すべての土地はカムイに属し、家は個人のものではなくカムイを祀る場所という認識は、調和的時代のムーや異星人の認識に近く、彼らは何らかの経過でそれを維持した民族のように思われる。アイヌの人々が他の文化を拒み、このようなあり方をごく最近までかたくなに守り通してきたのには、彼らに

はそれを守り通さねばならないという、何か民族的な信念のようなものがあったからだと思えてならない。

ムー大陸の性質を持つ日本人

現代の日本人は欧米文化の影響を大きく受けているが、潜在的な精神性はムー的な性質を維持し続けてもいる。世界の多くの民族と接した経験を持つ新聞記者、本多勝一氏は、世界の中で自分の過失を直ちに認める習性のある民族は日本人ぐらいであり、日本人に近い習性を持つ民族はエスキモーとニューギニアのモニ族ぐらいであったと述べている。

本多氏はそれを褒めているわけではないが、私は非常にムー的な質がそこに表われていると思う。先の角田忠信氏は脳の右半球と左半球の機能の違いについての研究の結果、日本人とポリネシア人が世界の中で例外的な機能を持っていることを指摘している。言語学の上からも、日本語は、ポリネシア語などと高い共通性があることがわかっている。

また世界のほとんどの民族が二元論的に宇宙を認識するのに対し、日本人は一元論的に宇宙を認識する傾向性を先天的に持っているようである。日本は文明国の先端を行きながら、ムーの精神性を潜在的に維持し続けている希少な国と言えるだろう。

文明国として現代社会の先端を歩みながらムーの調和的時代の精神性を潜在させ、東洋と西洋の接点でもある国・日本は、アダムスキーが述べた、あの理想的社会に世界を復帰させる最も優位な立場にあると言えないだろうか。

アダムスキーは、日本民族は特殊なカルマを持っていると語ったというが、それは以上のことと関連しているのかもしれない。アダムスキー没後三〇年を経過しようとする現在、アダムスキー哲学の実践者が世界で一番多いのは日本だと日本GAPの久保田会長が言っているが、これも日本人の持つカルマの表われであろうし、今私達がアダムスキー哲学によって自分を磨いてゆくことは、より良い地球世界の実現のためにも大きな意味を持っているのではないだろうか。

地球を救う

21世紀の超技術

工学博士　深野一幸　　廣済堂出版　四六判¥1500

化石燃料で環境破壊、大気汚染、難病増大等、多くの障害が発生しつつあるこの惑星地球で、人類の夢は無公害、超廉価のエネルギーを開発して快適な生活を実現させることにあった。ところが本書によると、大西義弘氏がノーベル賞ものの画期的な常温超電導材料を開発したという。電気抵抗ゼロのこの材料によって、夢のような電気器具が無数に開発される可能性があることを種々の具体例をあげて説明してある。まさに人類にとってバラ色の生活が今にも展開してきそうな内容であるが、特に興味深いのはこの常温超電導材料が、著者の提唱する「宇宙エネルギー」を取り込んで電気に変換させるという情報だ。そうなると宇宙空間に存在する無尽蔵の宇宙エネルギーで、クリーンで安全で安価なエネルギーが無限にとれるようになって、その恩恵は計り知れないものになるらしい。しかし現代科学はこの宇宙エネルギーなるものを認知していないために、著者がいくら本に書いてもこの知識は伝播しなかったが、大西氏の常温超電導材料の開発により、今後は宇宙エネルギー利用時代が開幕するだろうという。一体に深野博士の著書は平易に解説してあるので素人にも分かりやすい。フリーエネルギー研究家としての著者の目覚ましい活躍ぶりはよく知られているが、本書によって宇宙時代の幕開けを告げる鐘の音が聞こえてきそうだ。

薬無用の自然療法

スポーツ整体・家庭整体

東京造形大学助教授　佐藤　彰　　ベースボール・マガジン社　B6判¥1500

東京造形大学で保健体育を担当する著者は、若い頃、体操の選手だった。後に空手をやり、さらに東洋医学を研究して整体療法を編み出した結果、多数の難病を癒して一躍斯界で有名になった。その療法とはリンパマッサージをし、筋肉を揉みほぐしてアンバランスな状態を整え、経路（ツボとその路）を押圧し、骨格（特に脊柱）の歪みを整えるというもので、要するに患部をさするのだが、非常に気持ちがよいので著者の1時間の治療中ほとんど眠りっぱなしの患者さんもいることから、著者は自分を「半眠自然整体師」と称している。誰にもできる療法なので、この本の副題は、「先生が生徒を、コーチが選手を、親が子を治す！」となっている。内容はスポーツ整体、家庭整体、自己整体、自然生活法の各章に分けてあり、さらに詳細な解説がある。著者は言う。「治療者は人間愛をもって平等に患者に接し、自分の全情熱を傾けて細胞の一つ一つに語りかけましょう。宇宙から降り注ぐ波動を受けて、患者の健康を祈り、その人に愛を捧げ、宇宙の英知に感謝し、宇宙エネルギーの存在を認めましょう。宇宙の意識と一体化し、宇宙の創造主の限りない愛に包まれている安心感と、宇宙の吐息を吸い込む腹式呼吸を身につけることが最も重要なことです」。日本GAP会員である著者の素晴らしい宇宙哲学の実践法を説いた本でもある。

1. 昔のUFO目撃の思い出

橋本恵一

時はハッキリしませんが、私が小学校の三〜五年ぐらいの頃ですから、九〜一一歳の頃です(現在は二八歳)。場所は大阪府交野(かたの)市立交野小学校のグラウンドです(写真)。後方の山の上空がUFOが出現した方向です。

たぶん秋だったと思います。学校の授業の後、「交野キングス」という少年野球チームで練習中でした。午後四時から五時にかけてやや暗くなり始めた頃、チームの誰かが「UFOや、UFOや!」と叫び始めたので、一同呆然としました。

発見者の指さす方を見ると、三機から五機ぐらいのUFOが、空中に出現したり消えたりしているのです。その景色はいつもとは全く違っていました。それは雲の向こう側が赤か紫っぽく、それが変色して緑色などに光っているのです。こんなことってあるのでしょうか。私達はただショックを感じるだけでした。

それらのUFOは点滅して位置を変えていたようで、飛行機のように移動してはいませんでした。交小の隣の給食センターに勤務されていた八木さんという監督が「ほんまやなあ」と、つぶやいたあと、みんなは一目散に自転車で家へ帰りました。

このことで私が騒いでいたのを妹が記憶していました。「UFOや、UFO見たで」とかなんとか私が騒いでいたらしいです。

アダムスキー問題は最重要

今でこそUFOについてはアダムスキーの各種の書物を読んで学んでいるので、UFOに出会っても私自身はパニックになることはないと信じますが、当時は別にUFOに興味はなかったものの、その存在は何となく信じていたと思います。

そのことから考えてみてもUFO問題、宇宙哲学を正しく理解することがいかに大切なことであるかが、今になって分かります。久保田先生の説かれるとおり、アダムスキー問題は今世紀から来世紀にかけて最も重要な鍵を握っていると思います。この問題が早く全世界すべての人達に理解される日がくることを願ってやみません。

アダムスキー哲学に出会って以来、すべての物事にわたって勇気づけられました。どんな問題があっても新アダムスキー全集の頁をめくれば解答を見つけることが出来るのです。ここでは変に宗教的にならないという点で特に感激します。これこそ本物中の本物と感じます。

自己紹介が遅れましたが、私はトランペット奏者で、一九九〇年の秋からアメリカのバークリー音楽大学で二年間勉強したあと、こちらで仕事を始めて、今は四つのバンドに在籍しています。ジャンルはクラシックのシンフォニー以外は大体何でもやります。アメリカの良いところは、あらゆる種類の音楽がうまく共存していることです。即興音楽を美しい音で演奏するのが私の目標です。

イメージ法によって実現したのは、アメリカに来れたこと、好きな音楽家と共演できたこと、この八月二一日に結婚にこぎつけたことが主なものです。小さな事で自分のことだけを考えてイメージしても全く実現しません。これからは少しずつ深く掘り下げてゆこうと考えています。(筆者は米マサチューセッツ州在住)

▲交野小学校校庭に立つ筆者。背後の山の上空にUFOが出現した状況を描き込んだもの。

2. 巨大なアダムスキー型円盤の黒い影

竹内忠子

『空飛ぶ円盤同乗記』一九七五年九月一五日発行の本を一七年程前に京都河原町の書店で見つけて、手に取って拾い読みしました。内容に興味をもち、購入しました。一気に翌日の明け方までかかって読みました。感動して興奮したために気分が高ぶったことを覚えています。

（編注＝右の書籍は新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』の第二部に収録されている『驚異の大母船内部』の原書であるInside The Space Shipsを昔編者が右の題名で高文社より出したもの。新ア全集では大幅に改訳されている）

スペース・ピープルに教えて頂いたことの一つは、我々の太陽系には一二個の惑星が存在するという事実です。アステロイド帯の宇宙の役割は素晴らしいですね。昨年まで惑星の数は九個でしたが、結局昨年、一〇個目の惑星が発見されました。スペース・ピープルの言葉の真実が証明されましたね。

ハワイ大学のデーヴィッド・ジューイット博士らの研究チームが、冥王星のさらに外側の軌道を回っている小さな天体を発見しました。この惑星はいまのところ「1992年QB1」と呼ばれているそうです。

NASAが一九九一年に大気圏外に打ち上げたハッブル宇宙望遠鏡の方が、ハワイ大学よりも先に一〇個目の惑星を発見していたりして——。NASAは今までの慣習どおりに真実を発表できないのではないでしょうか。

残るは二個の惑星になりました。一二個目の惑星は巨大で、土星のようにリングがあるそうですね。

プールの真上に円盤が

今回報告しましたのは、アダムスキー型円盤のフィルムを発見したためです。それは先日テレビを見ているときに偶然見つけました。関西版のTV番組です。ABCテレビ、六チャンネルです。放送日は九三年六月一七日（木曜日）深夜午前二時より五〇分間の番組でした。番組名は『映像タイムトラベル』「五〇年前日本の文化と生活は？」という番組で白黒放送でした。

番組は昭和一七年前後の映像とのことです。短編が五本ぐらい放送されました。問題は三本ぐらいに蓼科高原が放送されたときのことです（編注＝蓼科高原は長野県諏訪湖の東側）。この高原の山の中に温水プールがあり、子供達が泳いでいる場面です。

TV画面の下半分が温水プールで、上半分の左右が森林で、真ん中のVゾーンはポッカリと空が写っていました。

すると何もなかった空の空白の部分に変な形の大きな黒い影が出たのです。突然のことで、そのときは「何だ、この黒い影は？」は何気なく思っただけでした。

そして次の短編が始まって見てゆきましたが、まもなく「あっ」と気がつきました。先程の黒い影の形は何かに似ていたと思ったのです。そうです、アダムスキー型円盤に似ているのです。すぐに本棚から本を取り出して円盤写真を確認しました。黒い影は円盤に大変よく似ています。このフィルムを探し出して、ぜひ見て頂きたいのです。

番組の最後に、この映画は交通科学博物館のフィルム・ライブラリーの提供であると出ていましたので、参考になれば幸いです。

▲テレビに出てきた円盤（？）の黒い影。イラストは筆者

3. 剣崎灯台の円盤の影

久保田八郎

今を去る二二年昔の一九七二年（昭和四七年）九月一七日、東京から郊外へUFO観測に出かけた。目指す場所は神奈川県三浦半島の南端、剣崎灯台である。

快晴の心地よい日で、車でまず鎌倉市の昔からの友人である橋本健理学博士の邸宅に立ち寄ったあと南下して、灯台に着いたのは四時頃だったと思う。

ここは灯台といっても無人の小さなもので、台地は十数メートル四方しかない。このとき同行者は数名いたが、それぞれ台地の縁から各自で違う方向を見つめていた。

夕暮れ近い頃で、富士山が美しく夕焼け空に映える。この間、母船を見たり、小型円盤が飛ぶのを見たけれども、写真に撮るには遠すぎた。

せっかく来たのだから富士山でも撮ろうと思い、私はカメラをお山の方に向けて断続的に五枚撮った。このときどれかの写真に円盤が写ったような気がしたけれども、そのことはすぐ忘れてしまった。

帰宅してから数日後、座敷をにわか暗室にして現像してみたところ、四枚目のコマに丸い物体が写っているのがわかった。円盤か！　はやる気持を抑えながら、フィルムを乾燥後、翌日引き伸ばしてみたら、見事に円盤とおぼしき物体が空中に浮かび上がっている。しかも、フォース・フィールドらしきモヤのようなものが船体の周囲から出ているではないか。

これは間違いなく小型のスカウト・シップであろうと断定し、大きく伸ばして室内に飾っておいた。本誌の昔の号にも掲載したことがある。

円盤の〝影〟

後年、この写真を秋山眞人氏に見せたところ、これは円盤の船体そのものではなく、船体は別な位置にいて、そこから特殊なビームを放射してフィルムに感光させたのだという。いわば、円盤の〝影〟だということだった。秋山氏の凄い超能力を私はよく理解しているので、率直に氏の見解に従うことにした。

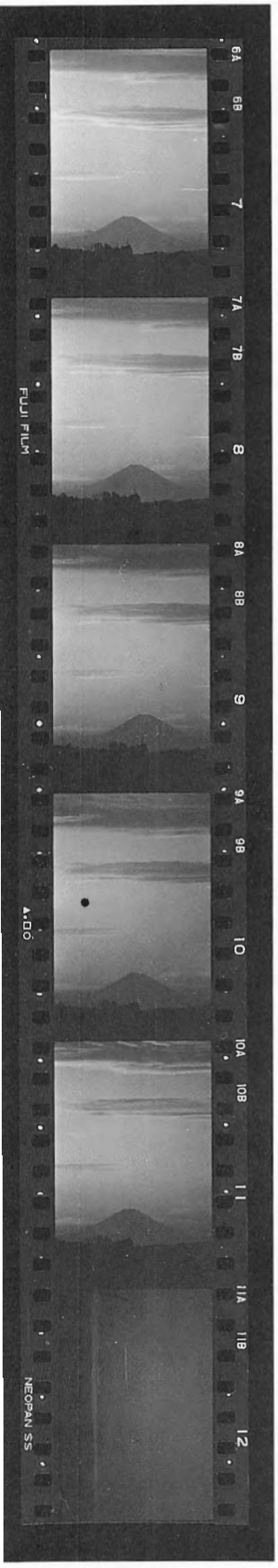
さて問題は、この写真を見る人の大半が「これは太陽を写したものだ」と言って一笑に付す点にある。そこで、少し写真の原理について説明しておくことにしよう。

まず、普通のカメラでフィルターなしに太陽を撮影した場合は強い光輝のために円形の太陽は写らない。白黒フィルムの場合、太陽を中心にして一面が真っ白に写るだけである。そこで太陽の輪郭を明確に出そうとすれば、露出倍数四〇〇倍もある特殊なNDフィルターや濃い黄色フィルターなどを重ねてレンズに装着して撮影する必要がある。そうすると太陽の輪郭は丸く浮き出るが、同時に下方の風景は真っ黒になって、何がなんだかわからぬ写真になるから太陽と風景の撮影はむつかしいのである。

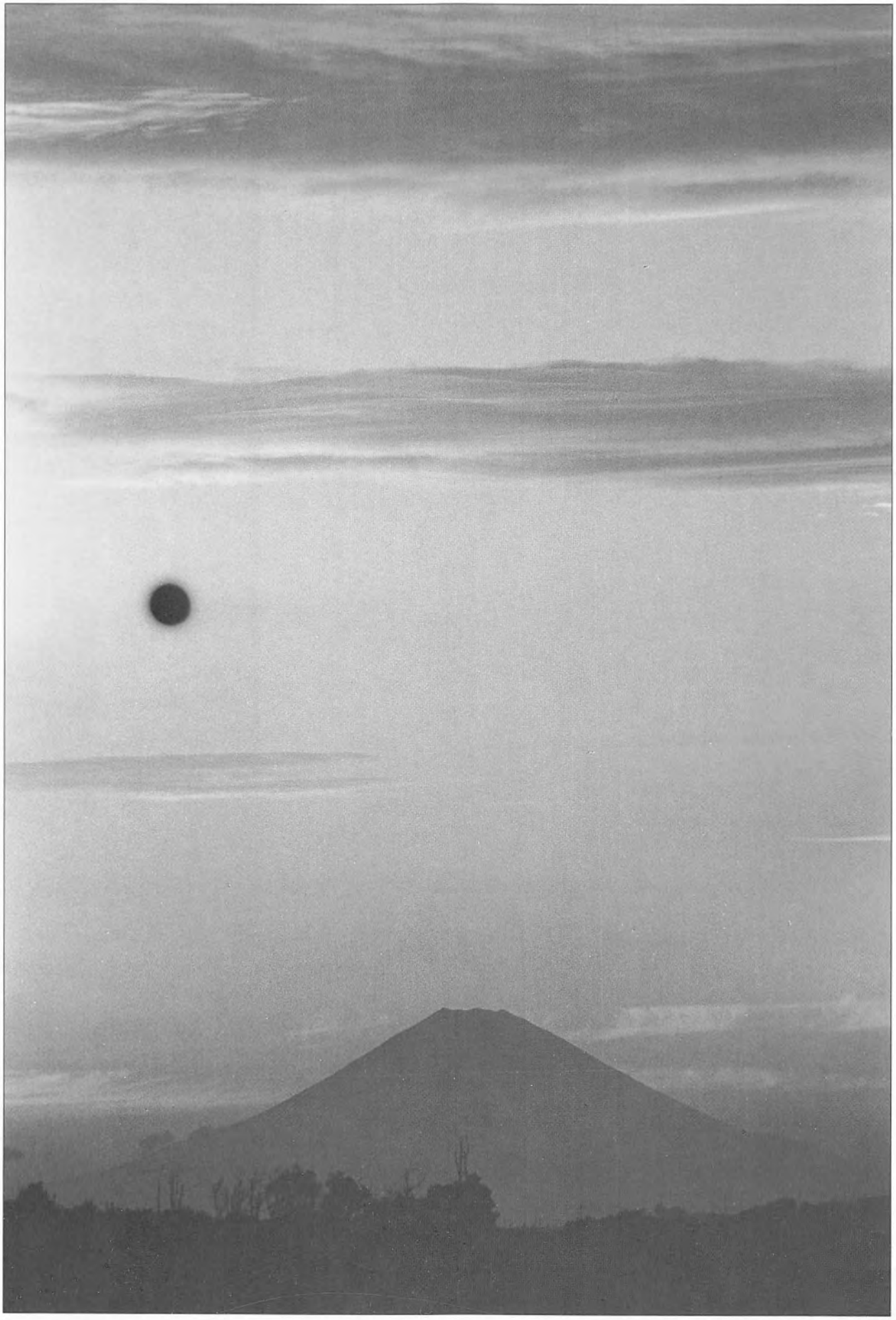
次に太陽を撮影する場合のレンズとしては、焦点距離で最低一〇〇〇ミリの望遠レンズを必要とする。というのは一〇〇〇ミリレンズで撮影してフィルム面に写る太陽は1/100の直径一〇ミリ程度になるからだ。左のフィルムのベタ焼き写真を見ると、丸い影は大体に直径一ミリぐらいに写っているが、私が使用したレンズは二〇〇ミリであるから、これで太陽を撮影すれば径二ミリ程度に写るはずで、左のベタ焼きは計算が合わないことになる。

三番目に、上方の雲の光と影の関係からみても太陽は画面外のもっと左にあることが分かる。というわけで、左の写真は太陽ではない。

<左頁は拡大写真>



データ
ニコンフォトミックFTN／ニッコール200mm F4／ニコンY48フィルター／絞り f5.6／1/250秒／ネオパンSS／ミクロファイン使用、自家現像



異星人とUFOの真相（1）

The Truth about Space People and UFOs
by George Adamski / Translated by Hachiro Kubota
© From Alice Pomeroy's "For an Example"

ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳　〈アダムスキー講演集　連載7〉

この記事は一九六〇年にサンフランシスコでアダムスキーが行なった講演の記録。日時・場所は不明。

異星人は霊魂ではない

今日私は皆さんがあまり聞きたくない話をすることになるかもしれません。今私は肩を叩いたり天使を作るためにここにいるのではありません。今私は事実をありのままに語るためにここにいるのです。事実を通じてのみ、我々は今実際に何が起こっているのかを知ることができます。

まず第一に、スペース・ピープルは多くの人々が話や書物を通じて主張しているような幽霊や霊魂のような類の存在では決してありません。彼らも皆さんや私と同じ人間なのです。彼らも我々と同様に生き、この地球上では我々同様に様々な物事に耐えています。

聖書の創世紀を思い出してみて下さい。あの中には、初期のある頃に宇宙のかなたから人々がやって来て地球人の娘に魅せられ、子供たちを作り、その子供たちがやがて勇士として高名を馳せたことが、はっきりと書かれています。ということは彼らの体は血と肉です。今の彼らも同じことです。

もし我々がこの点を正しく理解しないならば、ここにやって来て我々の混乱からの脱出を援助することで彼らが手にする敬意は決して妥当なものとはなりません。それは我々に対しても彼らに対しても、いかなる良い結果ももたらしません。

皆さんはいずれ、実は科学界がひそかに彼らを受け入れてきたことを知るでしょう。それが事実として語られる日がいずれやってきます。

各国の政府も彼らを受け入れてきました。この世界のほとんどの国の政府がです。私はそのことを先の世界講演旅行中に各国の政府高官と会談して再確認しました。私は、訪れたすべての国の政府高官と会談しました。しかも大統領でなければ、その次の地位にある人物といったように、そのすべてが国家のまさに中枢に君臨する人々でした。

（訳注＝アダムスキーの世界講演旅行は一九五九年の一月から行なわれた。インドも含まれており、日本でも講演を行ないたいむねの連絡があったが、当時まだ訳者は日本GAPを正式に設立しておらず、単独で活動していたために資金源がなく、やむを得ず断わった。後にアダムスキーを日本GAP単独で招待する運動を東京で展開したが、資金が集まらず、またも不発に終わった。訳者としては、アダムスキーが最も来たがっていたのは日本ではなかったかと思っている）

ユリアナ女王に会う

すでに皆さんがご存知のように、私はオランダのユリアナ女王にも会いました。その会談は、私が望んで実現したものではなく、彼女のほうからわざわざ申し込んできたものです。

彼女が指定してきたその会談の予定時間は四五分でした。でもそれは、実際には二時間にも渡りました。そしておそらく私がその日の午後に予定していたハーグでの講演がなかったならば、さらに延長されたはずです。

（訳注＝アダムスキーとオランダのユリア女王との会見は一九五九年五月一八日、スーストダイク宮殿で行なわれた。この詳細は新アダムスキー全集第六巻『UFOの謎』二二六頁から二三四頁にかけて掲載されている。これに関して当時多くの新聞はひどいデマを流したが、アダムスキーは詳細な真相を伝えている）

そういった人々（訳註＝各国の王室や政府高官たち）は、この問題に対して、決して面白半分な姿勢ではのぞんでいません。彼らはそれぞれの国を治める立場の人々なのです。彼らは常に事実の上に立っていなくてはなりません。推測や心霊的妄想の上などに立つわけにはいかないのです。彼らは常にしっかりとしたグラウンド上に立っていなくてはなりません。

▲ユリアナ女王

彼らは、他の惑星からの訪問者達が我々地球人を援助しようとしている確固たる証拠、あるいは逆にそれら訪問者達が我々に恐怖を与えようとしているのならば、その確固たる証拠を手にしたいのです。政府高官たちには、自国民を守る義務があるからです。

地球人を傷つけない異星人

スペース・ピープルは、少なくとも一九四八年以来現時点に到るまで、地球人の髪の毛一本さえも傷つけてはいません。

いや、一九三八年以来と言ったほうがいいでしょう。その年に私は、それが何であるかをまだ知らなかったのですが、望遠鏡を通じて彼らの宇宙船を撮影しています。私はその写真をパサディーナのカリフォルニア工科大学に送りました。そして、同大学はさらに、それをハーヴァード大学その他のあらゆる研究機関に送っています。当時はまだ誰もそれが何であるかを知りませんでした。その写真はもともと月を撮影したものだったのですが、いずれにせよ、スペース・ピープルは、少なくともその頃からこの付近を飛び回っていたのに、我々地球人にいかなる危害も加えてはいません。

それから、この世界に今起こっているUFO出現は、この世界に住む我々すべてのために起こっていることです。この問題の専門家だと自称する一握りの人々のために起こっているのではありません。第一、この問題に関する専門家なるものはまだ出現していないのです。これは全く新しい問題だからです。我々はまだスペース・ピープルについてほとんど何も知りません。なのにどうして専門家などが誕生し得るのでしょうか？　我々にとって、他の惑星からの訪問者達を迎えるということはほとんど未知の体験なのです。

事実に目を向けること

事実にしっかりと目を向けましょう。確かに彼らは我々を援助しようとしています。しかし、けっして、一部の人々、あるいは特定のグループだけを援助しようとしているのではありません。彼らは、三〇億の人間が住むこの世界全体を援助しようとしているのです。我々のすべてとかかわっているのです。

次の話を聞いたら皆さんは驚くかもしれません。実は、ローマで行なった私の講演を、ヴァティカンから四〇名の枢機卿が聞きに来ていたのです。しかも彼らはきちんと正装して最前列と二列目の席をずらっと陣取っていました。彼らはなぜ現われたのでしょう？

もし私が、何らかの心霊的な肩書きでも振りかざしていたならば、彼らはおそらくやって来なかったはずです。でも私はいかなる肩書も持っていませんでした。そしていかなる宗教的要素も排除して、いつもどおりの普通の講演を行ないました。

その結果、枢機卿たちは、他のあらゆる講演の聴衆同様、講演後に私に歩み寄り、手に手に握手を求めては、私が彼らに与えたメッセージに対して口々に感謝の言葉を述べていました。彼らは、私が講演中に彼らに向けて発したメッセージを楽しく笑いながら聞いていたものです。

ちなみに、彼らは皆さんにある大きな警告を発していました。それはまさに我々が今置かれている状況に関するものです。もし皆さんが、この文明の崩壊の可能性を排除して、この世界をより良いものに変えたいと心の底から願っているとしたら、それに向かって努力することが皆さんの義務です。皆さんにはそうする義務があるのです。心の扉を少数の人々ではなく世界に向けて開いてください。特定の心霊的基盤に立つ人々にではなく、この世界全体が受け入れることのできる基盤に立つ人々に向けるのです。

皆さんが今エンジニアになることを夢見て、あるいはその他の専門家になることを目指して大学に入ろうとしているとしましょう。その際に皆さんは自分の信仰を捨てるよう要求されたりするでしょうか？　たとえそれがどん

な種類の信仰であろうと決してそんな要求はされないはずです。あたり前です！　このプログラムもそれと全く同じなのです。

異星人が地球人に会わない理由

皆さんは今、科学を学んでいるのです。あるいは、科学の成長を学んでいると言う方が正しいかもしれません。なぜなら我々が今科学と呼んでいるもののすべてが、まだそのあるべき姿に達していないからです。我々はこれまでにスペース・ピープルから数え切れないほどの恩恵の数々を与えられてきました。例えば、今ここで皆さんの前で私が話をできるのも、ひとえに彼らが援助してくれたからなのです。

そこで皆さんは言うかもしれません。「だったら、なぜ彼らは目の前に現われないんだい？　なぜ彼らは僕に会いに来ないんだい？」

もし我々一人ひとりのそんな要求に応えていたならば、彼らは、これまでに我々のために行なってきてくれたことを何一つ行なえなかったでしょう。私が知るかぎりでは、これまでに、もし彼らの援助がなかったならば大戦争に発展したはずの小さな戦争が少なくとも六つありました。もしそれらの一つでも核戦争に発展していたならば、我々が今ここにいることはありませんでした。彼らがそれを未然に防いでくれたのです。彼らが地球人のためにしてくれた事は他にもたくさんあります。

宇宙の法則を生かす生き方

この世界には現在数多くの宗教がありますが、各宗教はこれまで何も良いことをしてきませんでした。それらは、この世界で極めて大きな影響力を行使し得る組織のはずです。なぜならば、この世界のほとんどすべての人々が何らかの宗教に属しているからです。それなのに、なぜ何も良いことができなかったのでしょうか？　自分達が教えていることを実践してこなかったからです！

その結果、我々は今、自分たちの頭上に地獄を引き寄せつつあります。我々は今、神の寺院、すなわち神が創造したこの世界に地獄を持ち込もうとしているのです。もし神が神聖なるものの中で最も神聖な存在であるならば、その神の創造物はまさに神聖そのものであってしかるべきです。

我々の考え方と、金星人達、あるいは、この太陽系内のその他の惑星群の人々の考え方との違いが、そこにあります。さらに彼らは単にそう考えるのみならず、それを生かしているのです。しかし我々は口先でとなえるだけで、それを生かしていません。彼らはこれまで我々に生命に関する正しい知識をふんだんに与えてくれました。でもその結果、我々の誰がそれを実際に役立てたでしょう？　我々はただ見ているだけなのです。！

異星人はなぜ我々の近くに来ないんだろう？　彼らはなぜ我が家の扉を叩いてくれないんだろう？　彼らはなぜ私を宇宙船に乗せてくれないんだろう？　一般人が関心をもっているのは、そんなことだけです！

その一方で、彼らが与えてくれた真実、つまりそれを役立てることで我々自身を、そしてこの文明をも救うことのできる真実には目もくれようとしません！

そればかりか、その真実にしっかりと封印までして、他の誰の目にも耳にも届かないようにさえしているのです。我々の信仰に反するという意味のラベルを貼り、その最も宇宙的なものを閉じ込めているのです。

その上で我々は、なおも自分たちを宇宙的だと言います。そこまで言うのなら、なぜ本当に宇宙的な生き方をしようとしないのでしょうか？　我々が置かれている状況の正しい姿や事実をしっかりと見ようではありませんか！

「我々にあと二年下さい。そうすれば、地球上から戦争というものが一掃されることになるかもしれません」

先の世界講演旅行で、私はそう言い続けました。私はこの計画を世界中に紹介してきました。世界講演旅行での私の講演は、おもにその点に焦点が当てられたものでした。私自身のコンタクト体験についても、もちろん話さないわけにゆきませんでしたが、そのことに関してはあまり時間をさいていません。私がなすべき最も重要なことは、我々が今おかれている状況に関する事実を伝えることでした。それが最も重要なことだったのです。それは今も変わりません。

宇宙開発が人類を救う

そこで皆さんは次のようにたずねるかもしれません。

「宇宙開発計画がなぜそんなに重要なのか？　それがどうして我々の文明を救うことになるのか？」

これまで何度も話しているように、すべての戦争が経済不況下で発生してきました。戦争は破壊と再建のための手段なのです。まず破壊して、その後一〇年、一五年、あるいは二〇年間をかけて再建が行なわれるわけです。破壊したものを再建するには大体そのくらいの時間がかかります。そして再建が成ったら再び新しい戦争が必要とされます。なぜならそのとき再び不況が訪れるからです。

そのようにしてこの世界は動いてきました。これまでの歴史を振り返ってみれば、それは一目瞭然です。そして我々はちょうどその状況、つまり戦争の瀬戸際に直面しているのです。第二

▲左端が、ジョージ・アダムスキー。1959年にローマ市内のある名家に招かれたときの写真。

次大戦が終了してすでに一五年がたちます。その間我々は勤勉に働いてきました。昼夜を分かたず、いろんなものを作り続けてきました。そして今やこの世界は物で溢れています。多くの倉庫には皆さんや私がとても買い切れない量の様々な物が眠っています。例えば昨年だけでも百万台以上の車が売れ残ってしまいました。同時に我々は、戦争というアイデアのみによって多くの工場を稼働させてきました。

例えば、今我々が新しい種類の平和を手にして、あらゆる軍人をクビにしたとしましょう。彼らはこぞって家に帰ります。でも彼らは生き続けるために仕事をしなくてはなりません。また彼らが指揮していた兵器工場のすべてが当然閉鎖となり、そこで働いていた人々も皆解雇されることになります。一般の航空会社が買うことのできる飛行機は限られています。

そうした局面に我々はどう対処したらよいでしょうか？　それは、アメリカだけに限ったことではありません。この世界すべての国がその問題を抱えることになります。そのようにして仕事にあぶれた人々をどうすればいいのでしょうか？

結局我々は、彼らがこれまでのように仕事をして生きていくためには兵器工場群を存続させなくてはならない、という結論を導き出すことになります。そうなのです！　そしてそれは当然のごとく戦争を必要とします。しかし戦争は絶対にいけない。

そこで登場するのが宇宙開発計画なのです。それは我々のクビを見事に救ってくれるでしょう。異星人はそれを実行してきました。それはどういうことかといいますと、次のようなことなのです。

まず、あらゆる宇宙船がこの地球上で建造されることになります。ちょうどこれまで潜水艦や戦闘機や戦艦が建造されてきたようなものです。しかも我々はそれらの戦争用道具を一日では作れません。我々はそれを何週間も何カ月も、あるいは何年もかけて作りましたが、宇宙船の建造にも同じくらいの時間がかかることになります。

宇宙船の建造には、我々がまだ手にしていない全く新しい知識の獲得と全く新しい技術の開発が必要です。さらに、我々はいずれその宇宙船に乗って我らの姉妹惑星群へと旅することにもなります。彼らが今ここにやって来ているのと同じように、です。そしてそれらはまた人々に多くの仕事を提供することになります。

このとき世界は一つの同じ目的を共有します。宇宙空間に出て行くためにすべての国家が協力し合うことになるのです。それは誤解や偏見のためにこれまで延々と他人同士であり続けてきたこの世界の人類が一致団結するための、この上なく素晴らしい機会となるでしょう！　全員が同じ目標を手にするのです。

例えば、スイスは宇宙船の建造に直接に関係しないかもしれません。しかし彼らは精巧なバネの製造を受け持つことになるかもしれません。私のこの腕時計に使われているようなバネの製造です。そしてそれが宇宙船に搭載する計器類の中に組み込まれることになるといった分業の仕組みです。

このようにしてすべての国が何らかの役割を果たすことになります。そのとき地球人類は歴史上はじめて一致協力して物事を遂行することになります。しかもそこには殺すことは含まれません。あるのは仕事と研究と学習のみです！

そのとき我々はこれまでに一度も手にしたことのない新しい経済システムを手にすることになります。真鍮、銅、アルミニウムその他のあらゆる金属が宇宙船の建造に役立てられるでしょう。今六才か七才くらいの皆さんの息子さんたちは、いずれ地球製の宇宙船に船長として乗船することになるかもしれません。あるいはお嬢さんたちは、それにスチュワーデスとして乗ることになるかもしれません。

我々は今そんな時代に向かいつつあるのです。ただしそれも、もし我々が

新たな戦争を起こし、誤ったボタンを押して我々自身を地球上から吹き飛ばしてしまうという愚かな行為に走らなければの話です。

宇宙空間を知ることが最重要

現在、この太陽系内で宇宙空間の旅を達成していない惑星はこの地球だけです。他のすべての惑星がそれを行なっています。彼らが自分たちの宇宙船でここにやって来ているという事実がその何よりの証拠です。

そこで、彼らの宇宙船を譲ってもらえばいいのにと言う意見があります。しかしそれは間違いです。我々はその作り方を我々自身の手で学ばねばなりません。さもなければ我々はいかなる経済効果も手にできません。我々はこの地球の経済を活性化するためにも、それを自分たちの手で作らねばならないのです。

我々は宇宙空間に向かって自分たちの手で一歩一歩前進して行かねばなりません。一つずつ新しいことを学び、一つずつ新しい装置等を開発しつつです。そのすべてが地球でなされねばなりません。

宇宙は無限です。いくら先に進んでも行き止まりなどというものは存在しません。我々は宇宙開発計画をスタートさせ、それを正しく成長させていくことで、この地球から戦いを一掃することができます。戦争の恐怖が一掃され、人々は常に次のステップを楽しみにしつつ生きるようになります。西へ西へと前進を続けたこの国の開拓者たちのようにです。

「宇宙空間にいったい何があると言うんだい？　そんなことをして何の得になるんだい？」と言う人々もいます。この人達は、街角で荷車を引いている男を見ると、すぐにある考えを起こします。誰かがそれでお金を稼いでいるという考えです。しかし、青空を見上げても荷車は動いていません。そこで彼らは言います。「ばかばかしい。宇宙空間に出て行ったところで、一文の得にもならないじゃないか」

しかしそれは大間違いです。宇宙空間に出て行くことで、我々はこれまでのこの地球上で手にしてきたよりもはるかに多くの仕事を手にし、はるかに多くを生産し、ひいては、はるかに豊かな人生を送れるようになるのです。

そればかりか我々はこの太陽系だけの探検に何千年もの時間を必要とするでしょう。そしてそれが終了したなら今度は他の太陽系への旅が待っています。その頃になれば我々は宇宙空間をとても快適に旅行できるようになっているはずです。

他の惑星の人々は自分たちの宇宙船を所有しているのに、我々はそれをまだ持っていないということには、もう一つの問題があります。

地球人は最低ではない

我々は、精神的に、この宇宙内で最も遅れた人種ではないのです。我々が精神的に、例えば二〇年生であると仮定した場合、この宇宙のどこかには、まだ一九年生の段階にある人々も存在しています。そこで二〇年生である我々の状態を考えてみて下さい。なおも充分に劣っているのです！　我々は今なお互いに争っているのです！

そんな我々よりも未熟な人々が宇宙のどこかにいるのです。しかも彼らがここにやって来るのを防ぐことは誰にもできません！　歴史をよく研究すれば、かつて宇宙空間からの侵略があったり、宇宙空間における太陽系間の戦いが繰り広げられたことは明らかです。それがかつて起こったことを考えれば、それが今後いつまた起こったとしても決して不思議なことではないのです！

我々は言わば、この太陽系への自由な出入口です。この太陽系内の他の惑星はすべて、しっかりとした防衛システムを整えています。彼らは自分たちの宇宙船を持っており、それにより自分たちをしっかりと守ることができます。しかし我々はそれを持っていません。

そして、もし我々が攻撃されたとしても彼らはここに助けには来れないでしょう。なぜならば、それによって彼らは自分たちの惑星を危険に陥れることになるからです。

例えば、私が自分の家の周囲にしっかりとした塀を張り巡らしたとしましょう。誰一人としてこの中に進入することはできません。でも、もし私がこの塀を取り払って皆さんの家の周囲に設置したとしたら、私はまさに侵略者たちの恰好の餌食となってしまうというわけです。

我々は自分たちの手でしっかりと塀を作らねばなりません。その意味においても我々は自分たちの手で宇宙船を建造し、宇宙空間に出ていく必要があるのです。

これはあらゆる意味でとても重要なことなのです！　そして皆さん、これは極めて科学的なことであり、充分に可能なことなのです！

皆さんの祖先が今この世の中に戻って来たとしたら、どう思うでしょうか？　ラジオを聞いて、またテレビを見て、さらには、この地球の人間が……自分たちと全く同じ人間が、地球を一七周して戻って来たという話を聞いて、どんな反応を示すでしょうか？

別な惑星の実態を知れば地球人は一挙に変化する

また、我々の最初の惑星間航行用宇宙船が、月あるいは金星に向けて旅立ったとしたらどうでしょう？　それは我々に素晴らしい興奮と素晴らしい啓示をもたらしてくれるでしょう！　そ

して三〇億の人々を一挙に改心させてしまうことになるかもしれません。そこに着くのに三日間かかると仮定して、そのわずか三日間のあいだ皆さんや私がこれまで何年にも渡って努力してきても変わる気配さえ見せなかったものが、一挙に変わることになるかもしれないのです。

金星に向かう宇宙船に乗り込んだ人物はその旅の様子を逐一地球に報告してきます。そしてそれが地球のあらゆるラジオ・テレビを通じて放送されます。人々は、それに聞き耳を立てます。未知の情報が次々と地球に送られてきます。彼らは休みなく報告してきます。中には皆さんの耳に届かない情報もあるかもしれませんが、ほとんどの情報が皆さんのもとに直接届けられます。大衆の心に悪影響を及ぼし得るショッキングな内容の情報が一部カットされる、ということはあるかもしれません。しかし、ほとんどの情報は直接我々のところに届くことでしょう。

やがて彼は金星に着陸します。ただし、彼が都市部、あるいはその他の文明人たちの住む地域に着陸するとは限りません。でもとにかく彼はそこに着陸します。そして、そこはジャングルの中かもしれません。そしてそこには我々が未開人と呼ぶ人々が住んでいるかもしれません。そういった人々はどの惑星にも住んでいます。どの惑星にも進歩速度の異なった様々な人々が住んでいるのです。

もしそんなところに着陸したとしたら、彼はこの様子を忠実に報告してくるでしょう。どこに着陸し何を見ても彼はそれをそのままに伝えてくれるはずです。そして我々はそれを聞き続けるのです！

そして地球に戻る際にも、彼はまた飛行中の発見事を次々と伝えてきます。想像してみてください。そのとき、彼の一連の報告を、皆さんはどのようにして聞くでしょう！

地球にいる我々のすべてが、その声に聞き耳を立てるでしょう。テレビを持つ人も持たない人もです。あちこちで、テレビを中心に大きな人だかりができるでしょう。そしておそらく、それを通じて世界が一挙に改心することになるでしょう。

それはこの世界の様々な宗教が何年かかっても成し得なかったことです。事実、人々は未だに改心していません。我々は真実に関して多くを語りますが、それを決して生かそうとしないのです！

もし生かしていたならば、今頃この世界は大きく変わったものとなっていたことでしょう！　二〇〇〇年前にイエスは、我々のためにある法則を残しました。しかし我々は自分達が生きるべきその法則を未だに生かしていないのです。！

以上お話ししたように、もし我々が自分たちの頭を冷静に保ち、それを、あらゆる人でさえも理解可能な事実の上に置き続けたならば、我々はやがて様々な恵みの数々を手にできるのです。

子供たちは次の世代を背負って立ちます。そしておそらく他の様々な惑星への旅行を大いに楽しむことになるでしょう。これはおとぎ話などではありません。純粋に科学的な話なのです。

異星人をあたたかく迎えたパキスタン人

私はこの地球上のいかなるグループにも敵対心をいだいてはいません。心霊主義者に対しても、神秘主義者、カトリック、プロテスタント、あるいはその他のいかなるグループに対してもです。人間には自分が信じたいことを信じる権利があります。

ただし、自分の信仰と、自分の最高の友人となり得るものや、皆さんが物質あるいは実用品などと呼び、それなくしては生きていけないものとを混ぜ合わせないことです。よく考えて下さい！　皆さんはそれらがほしいのです！　それらを手にしてもいいのです。結局はすべてのものが、同じものから作られているからです。すべてが同じものからやって来たのです。この問題は、この世界の高い知性を持つあらゆる人々によって理解されています。これまでに私が会ったどの国のいかなる政府高官も、この問題をけっして嘲笑しませんでした。例えば、パキスタンのカラチでは何人かの政府高官とともに食事をしましたが、彼らは我々の上空で起こっていることに関して、実に多くの人々があることないことを言い、恐れる必要のないものを恐れたりしていると指摘し、それを、実にバカげたことだと明言していました。さらに彼らは、他の惑星の宇宙船が、たびたび当地に着陸していると語りました。そして宇宙船の乗組員たちは、私が夕食をご馳走になったのと同じ部屋に、皆さんや私と同じ人間としてやってきて夕食をともにしたそうです。精霊や幽霊としてではありません！　高度な知性を持つ人間としてです！

インドでも同じような話を聞きましたし、シンガポールでもバンコクでも聞きました。

ニュージーランドでもそうです。そして特に同国の政府は私が必要としたあらゆる援助を提供してくれました。スクリーンと映写機を貸与してくれた上に、それを操作する人員までも派遣してくれたり、その他にも、あちこちの会場でマイクを野外に設置してくれたりなど、実に親身になって協力してくれました。小さな町での講演でも、三〇〇～五〇〇名もの聴衆が、ウェリントンのような大きな町では毎回三〇〇～五〇〇〇名もの聴衆が真剣に私の話に耳を傾けてくれました。とても多くの人々がこの問題に大きな関心を

いだいていました。実に多くの人々が真剣に知りたがっていたのです。

ただし何度も言うようですが、私は特定の心霊グループや宗教団体、あるいはその他のいかなる組織の後援も受けていませんでした。私は完璧なフリーランサーでした。私の講演はいかなる宗教とも政治とも関わりを持ちませんでした。

そのために実に幅の広い層の聴衆が集まりました。様々な層の人々が私の話を真剣に聞いてくれました。オーストラリアでもそうでしたし、その他どこの会場でもその傾向は変わりませんでした。先程お話ししたように、ローマでは枢機卿たちが大挙して押し掛けてきたりもしました。

私が英国滞在中、同国の女王はおたふくかぜを患っていた自身の子供たちの側から離れられませんでした。同国の皇太子は確か南アメリカに行っていて留守でした。私がオランダに向けてロンドンを離れる日に彼は戻ってきました。たとえ彼にもう一日留まるよう要請されても、次の予定が詰まっており、それに応えることはできなかったでしょう。

ただ、もし彼が国内にいたならば、ユリアナ女王が私との面会の件であんなに大きな注目を浴びることはなかったはずです。英国王室がオランダ王室を含む他のいかなる王室よりも大きな注目を集める傾向にあるためです。しかし今回はオランダのユリアナ女王が世界の注目を一人占めし、その間、英国王室の話題は全くといっていいほど登場しませんでした。

各国の王室の人々並びに政府高官たちのすべてが、私の話を聞けば聞くほど、この問題に関して彼らが知っていることをどんどん私に洩らしました。彼らは私の話を聞くことで、すでに自分たちが手にしていた情報（ＵＦＯ存在の情報）の正しさを確認したかったのです。

現在この世界で、他の惑星の人々の訪問を受けたことのない政府は一つとして存在していません。私はそれを明確に断言できます。そしてこれまでに異星人たちが政府内部で活動していたことのない主要国家もまた一つとして存在していません。

レナード・クランプは告白した

英国滞在中に私はレナード・クランプに会いました。同国の科学者で、重力と円盤に関する本を書いた人物ですが、そのとき彼は英国政府のために円盤の研究を進めてきました。彼は今でもその研究にたずさわっています。

この彼ですが、私にある耳寄りな情報を洩らしてくれました。

「実は我々は数人の異星人と一緒に働いているんですよ」彼はそう言ったのです。私は彼のその話を信じました。彼は実に正直で、あらゆる意味でバランスのとれた人物でした。常に事実をベースとして思考を展開していました。

その後、実際に私は一人の異星人を紹介されています。彼ら（訳注＝英国人研究者たち）はまた、私に一二種類ある特別な宇宙服を見せて、それがなぜうまく機能しないのかとたずねてきました。それを着るとなぜか息苦しくなると言うのです。最終的に私はその原因を指摘しました。その結果彼らはその問題を見事に解決できたようです。

ロンドンで私はまた国防大臣と三時間に渡って会談しました。彼も他のあらゆる国のあらゆる政府高官たちと同様に私の話に真剣に耳を傾けたものです。彼らはこの異星人問題を決して軽々しく扱ってはいません。彼らは新聞その他の報道機関がこの問題を決して正しく伝えていないことをよく知っています。そして、報道機関が何を言おうと全く気にしていません。

パトリック・ムーアの完敗

私は、英国でＢＢＣのパノラマという番組に出演しました。九百万人が聞いている番組です。パトリック・ムーア（訳注＝イギリスの有名な天文学者）と一緒でした。彼は、私が当地を去った後、大きな注目の的となり、今はメキシコを訪れています。彼は番組の中で、あの手この手を使って私を徹底的にやり込めようとしました。

でも、それは失敗に終わりました。あの淑女でさえ――ご存じのように、英国には実に逞しい淑女たちがたくさんいます――私の喉を耳から耳に切り裂いたあげくに、私の顔にツバを吐きかけたりすることを平気で行なってきたあの淑女、すなわち私をひどく嫌っていたある女性記者ですが、その彼女さえ、あの番組の後で、「アダムスキー氏、完璧な威厳により勝利を収める」と題する記事を書いているのです。その記事を私は自宅に保存しています。

結局パトリック・ムーアは二カ月にも渡ってロンドンを離れねばなりませんでした。番組内での彼の言動に対する大衆の非難がＢＢＣに殺到したためです。

人々は知りたがっています。しかし我々は、彼らが知りたい方法で情報を提供しなくてはなりません。そして人々が知れば知るほど、我々は自分達で実現させたいと願っている状況を作り出すための、より大きな力を手にすることができるのです！

しかし、このＵＦＯ問題の中に、この全く心霊的でも何でもないものの中に心霊主義を持ち込んだりするのは、まさに愚かなことです！　そんなことをすれば人々は一挙にそっぽを向いてしまいます。そんなことではこの問題を途中でやめる力しか手にできないことになります！

知覚を働かせることです！　神は我々に知能や知覚を授けてくれているのです！　我々は少なくともそれを用いてこの問題をそれに相応しい場所に配置しなくてはなりません。そうやって人々に伝えるべきことを伝えたならば、このサンフランシスコであろうとどこであろうと、テレビを通じようとラジオを通じようと、必ずや多くの支持が得られるはずです！

しかし、単なる余興では誰も支持してはくれません。そんなことをしてもピエロになるのが関の山です！

だから私は例の大会には出ないのです。UFO関連の大会です。私はあの種の大会に一度だけ出たことがあります。最も初期の大会でしたが、私にとってはそれ一度で充分でした。私はグループを一つにまとめようと努力しました。一つの正しいグラウンド上にです。私は、人々にたいして自分の情報を自分が受け取ったのと同じ角度から提供しなくてはならないと考えていました。

しかし大会の演壇上に上がった人達は完全に何かに取りつかれていました。そしてそのままの状態で今に到っています。あの種の大会の評判がかんばしくないのは当然のことだと言えるでしょう。

もし私があの種の大会に出席し続けていたならば、どうだったでしょうか？　私は、あのような人々と会うことと自体は嫌いではありません。私は人間が好きです。私は地位や知性の高低にかかわらず誰とでも楽しく話ができます。彼らはすべて人間なのです。私の兄弟なのです。

でも、もし私が大会に行き続けていたら、どんなことになったでしょう？　たとえ私が何も話さなかったとしても、そこに姿を現わしたというだけで記者連中は私に関する何らかの記事を書いたはずです。その大会と私とを何らかの形で結びつけた内容の記事です。

そして、もしそんな記事が新聞などに載ったとしたら、昨年の三月に私が上院の議長にUFO問題を説明するようなことが可能だったでしょうか？　また国連で同じことを六時間にも渡って話すことができたでしょうか？

無理だったに決まっています！　彼らはあの種の話を支持したりは決してしません。もし私があの種のUFO大会に出席していたならば、彼らは私をあの種の大会の主催者たちと同類だと見なしたはずです。でも、そのような大会から遠ざかり続けたことで、私は、この問題に関して何らかの力を行使し得る人々に情報を提供できたのです。

政府が動かないかぎり、なかなか物事は進展しません。私は今、自慢話をしているわけでは決してありません。私は今、単に自分の仕事をしているにすぎないのです。私はすでに七〇才を越えています。もしかしたら数日のうちにもこの世界を去ることになるかもしれません。いつ、そうなっても不思議ではないのです。私は今ただ自分の仕事をしているだけなのです。

次代のために良い世界を

もし我々の祖先が仕事をしないでただのうのうと生きていたとしたら、私は今どこにいることになっていたでしょうか？　皆さんはどこにいることになっていたでしょうか？　皆さんのお父さんやお母さん、さらには先祖の方々が、皆さんが今いる環境を作ったのです。そして皆さんには次の世代のための環境を作るという使命があります。まだ見ぬ世代、しかし間違いなく後からやって来る世代のための環境です。

この世界を、我々がやって来たときよりも、ほんの少しでも良い世界にしてから去ろうではありませんか。それが我々の仕事なのです！　それが人に科せられた義務なのです！　利己主義に走り、自分自身のためだけに万能の神の助けを仰いだりは決してしないことです！　他の同胞たちも飢えているのです。もし何かを持っているならば与えることです！

ただし、それにラベルを張り付けてはいけません。そのラベルが彼らを排除し続ける扉の鍵となってしまうからです。

▶ジョージ・アダムスキー（右）

もし皆さんが、ハートを持った神の創造物となりたいのなら、どんな場所でも、どんなときにも、少なくともその程度のレベルの人間でなくてはなりません。少なくともその程度の心掛けは持ち続けてください。自分が持っているものを与えることです。少なくとも、その一部は与える必要があります。それを行なっているとき、皆さんは自分の仕事を上手に行なっていることになります。（以下次号）

盛況 第五回 秋田支部大会

さる四月三〇日（土）に日本GAP秋田支部大会を田沢湖町の「田沢湖ハイツ」で開催した。当地は秋田県でも有数の観光地となっており、会場の田沢湖ハイツからは、眼下に田沢湖をのぞみ、背後には駒ヶ岳を控えた雄大な自然に恵まれた環境にある。あいにくの曇り空の天気だったが、午後一時の大会開始直後からは太陽も顔を出し、会場も一気に熱気に包まれた。

定刻にプログラムが司会の田村氏により進められた。

最初に秋田支部副代表の佐藤忠義氏がいままで歩いてきた道とGAPとの出合いについて講演された。秋田弁とユーモアを交えて、聞く人を引き付ける、人間味あふれる表情らしい内容だった。

続いて会長の久保田八郎先生による「アダムスキー問題の意義と奇跡発生法」についての講演が行なわれた。

前日から田沢に滞在しておられたのでお疲れではないかと心配していたがまったくの杞憂だった。活力に満ちた講演はまさに永遠の二四才を思わせるパワー溢れるものだった。

まず最初に三つのコンタクト例を紹介。アダムスキー的コンタクトのみが真のコンタクトであり、心霊的なコンタクト等に惑わされてはいけない、と説いておられた。現在のマスコミの偏った取り上げ方を見ると我々も大いに気をつける必要を感じた。ユリ・ゲラーとジョン・レノンの関係についても語られ、二人はアダムスキーを支持していたこと、さらにはここだけの話として衝撃的な秘話の紹介もあった。先生の多識ぶりには今更ながら駕かされた。

講演も後半に入り、アダムスキーが他人から罵詈雑言をあびせられても一切反撃はしない、それは相手を傷つけないためである。また愛することよりも相手を傷つけないこと、万人万物を傷つけないこと、また傷つけようと思わないこと。これが人間が幸せになる最有力な理論であり方法であるとのこと。まさに全宇宙の真理であろうと思われる。

全宇宙の真理にもとずいた我々会員の取るべく道についての深遠な内容に涙が出るほどの感動を受けた。

夕食会では、久し振りに会った方や初めて会った方同士和やかに団欒した。簡単な福引き大会においても会場は談笑の渦に包まれて、大いに盛り上がった。

翌日の観光は雲が低く垂れこめたあいにくの天候だったが、目的地の一つ玉川温泉に着いたら不思議と青空となり、お湯が噴出する様子を充分堪能することができた。そのあと田沢湖を一周して全日程を終了した。今回は観光地とはいえ、交通的にも少々不便なところで開催したが、四〇名以上の参加者を得て本当に感謝申し上げます。

秋田支部代表　伊藤正治

▼第５回 秋田支部大会

豪華 第二回 伊豆支部大会

五月三日、五〇万坪の敷地を誇る総合リゾート、「ラフォーレ修善寺」の第一研修館に日本GAP会長久保田八郎先生をお迎えして第二回日本GAP伊豆支部大会が豪華に開催された。

新参支部として、全国支部の末席を汚している我が支部が、観光を含めた全日程二泊三日の大規模なる大会を開催するに至ったのは幸運であり光栄であった。

今回は遠くは福岡、金沢、秋田から参加された方があり、その情熱は高く称賛されるべきである。万難を排して、日本GAPにかける皆様の強い信念が感じられた。

大会の司会は、赤池澄夫支部副代表が務めた。高らかな開会宣言の後、高梨が皆様にご挨拶を申し上げた。名古屋支部代表林国宜氏、横浜支部代表清水正氏、山梨県のベテラン会員清水南氏、秋田支部の佐藤春雄氏、東京本部役員加藤純一氏、加藤裕子氏を始め四〇名弱の方々が参加してくださった。

また全国より多数の祝電、激励を頂いた。

待望の日本GAP会長久保田八郎先生のご講演は、「アダムスキー哲学と奇跡発生法」という演題。

アダムスキー哲学を熱心に誠実に習践されるなら、奇跡を発生できる。そのメカニズムや実践方法について、詳しく説明された。

また、宇宙的な情緒の重要性も解説され、誠実であること、万物を祝福することなど、宇宙的な想念を保ち、放射する大切さを述べられた。

久保田会長の宇宙的なご講演は、時には厳粛に、時には和やかな旋律をかもしだし、深い感動を聴衆に与えてくださった。そのご講演の素晴らしさを誌上で表現することは困難である。

夕方は施設内の会場での夕食会に移った。佐藤春雄氏の民謡やゲームに興じ、楽しい夜は更けていった。

四日は、伊豆周遊のバスツアー。ゴールデンウィークは渋滞で身動きできないという常識を奇跡的にくつがえし、予定通りにホテルに到着。松崎プリンスホテルでは、豪華なフランス料理を楽しんだ。

五日は、松崎町内にある何故かアダムスキー型UFOに似ている長八美術館を見学し、修善寺で解散した。

日本GAP始まって以来の二泊三日の豪勢な支部大会は大成功だった。これも久保田会長のご高配とご援助なくしては不可能なことであった。このような機会を与えてくださった久保田会長に感謝申し上げたい。また、今回お世話になったすべての方々に感謝を申し上げましてご報告とさせていただきたい。

伊豆支部代表　高梨十光

右の両大会とも極めて真摯な美しい雰囲気に満ちていた。深謝。久保田

▼第2回 伊豆支部大会

UFO contacteeバックナンバー主要記事

★下記の他に101号と105号以降最近号まであります。代金後払い可。ハガキでご注文の場合は号数・住所・氏名・電話番号を明記して下さい。バックナンバーに限り送料は当方でサービスします。ご注文は日本GAPへ気軽にどうぞ。

No.125　平成6年4月25日発行　¥900

UFO、デザートセンター上空を飛ぶ――久保田八郎
私はアダムスキー型円盤を至近距離で見た――大野義和
UFOを頻繁に見る私のカルマ――溜池みゆき
不思議な予知透視――米川宣雄
突然出現した不思議な人間――千葉敏江
生命と物質と超能力――伊藤睦史
異星人はなぜ地球へ来るのか――G・アダムスキー

No.124　平成6年1月25日発行　¥900

信念の力、希望の力、絶対に諦めない力を起こす方法――久保田八郎
今世紀末、大変動発生なし！――秋山眞人
私を助けてくれる異星人達――上原則子
アダムスキー型円盤、長時間出現――石井佳子
浅草上空に出現したUFO――堀江健一
UFO・宇宙・人間――G・アダムスキー

No.123　平成5年10月25日発行　¥900

凄い超能力者のUFO目撃と遠隔透視――編集部
私を助けてくれる異星人(1)――上原則子
山梨県に出現した巨大UFO――編集部
エゼキエルはUFOを見た？――久保田八郎
私はアダムスキー型円盤を見た――海瀬宏子
UFOと異星人の実態――G・アダムスキー
謎の古代マヤ遺跡とUFO――久保田八郎

No.122　平成5年7月25日発行　¥900

金星文字を解読してUFOの推進原理を解明！――バシル・バン・デン・バーグ
星々への切符――遠藤昭則
オメ教授が発見した金星？文字――久保田八郎
不思議な体験連続の人生――千葉福造
オーラで異星人を見分ける――紙屋光孝
私だけが見るUFO――須山有美子/宮本浩子
万物は人間の想念に感応する――塩谷信男
四感・生命の息・転生――G・アダムスキー

No.121　平成5年1月25日発行　¥900

パロマー山にUFO出現――久保田八郎
宇宙ボタルはUFO――
アダムスキー型円盤、超低空で東京をかすめる！――
江戸川堤防の怪光体――鈴木　武
不思議な筒状の雲――沼倉孝彦
人間・イメージ・波動――佐々木八郎
驚異の超小型円盤と宇宙の永遠の活動――G・アダムスキー

No.120　平成5年1月25日発行　¥900

宇宙的な信念と勇気を起こす方法――久保田八郎
二人の異星人からの忠告――辻　俊昭
テレパシーで植物を動かす方法――遠藤昭則
人間は生来テレパシー能力を持つ――堀江健一
夜空の不思議な"映像"――田辺優子
重力と宇宙の自然のパワー――G.アダムスキー
モアイとUFOの島へ――伊東芳和

No.119　平成4年10月25日発行　¥900

夜空に不思議な「U」の文字が出現――久保田八郎
私の超能力開発体験と異星人女性との出会い――佐々木八郎
瀕死の妻が宇宙哲学で奇跡的に全快――口ノ町一男
ミコミラクルワールドとイメージ法で腰痛が急速に治る――穴原美智子
神室山上空のUFO――沼倉　孝彦
UFO・異星人・地球人――G.アダムスキー

No.118　平成4年7月25日発行　¥900

イエスの実像と転生の法則――久保田八郎
計り知れぬ影響力をもつアダムスキー――中村省三
宇宙の意識とともに願望を実現させる方法――高梨十光
私のUFO目撃と不思議な体験――川野晶子
音楽は生命エネルギーを運ぶ――鷲見　弘
UFO・異星人・地球人(1)――G.アダムスキー
天地万物との一体化で長寿――塩屋信男

No.117　平成4年4月25日発行　¥900

巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現！――
地球救済活動を続ける異星人(2)――秋山眞人
飛行機を助けた謎のUFO――
奇跡を起こす反復思念とイメージ法――久保田八郎
善だけを探し求めてテレパシーが発現――小川隆志
ひとりで物品が動く現象――大嶋順子
思いどおりに出現するUFO――中島直仁
ジョージ・アダムスキーと異星人(完)――アリス・ポマロイ

No.116　平成4年1月25日発行　¥900

地球救済活動を続ける異星人――秋山眞人
南フランスの不思議なコンタクト事件――中村省三
奇跡的に願望を実現させる方法――テッド・オーウェン
病気治療の宇宙哲学的応用――高梨十光
ミラクル・ワードとミラクル・イメージ――久保田八郎
江東区上空のUFO――森田久惠
南九州支部からの声――曽我部勇人
ブラザーズに助けられた？――藤沢清則
ジョージ・アダムスキーと異星人――アリス・ポマロイ

No.115　平成3年10月25日発行　¥900

アダムスキーとUFO問題の真相――ハンス・ピーターセン
金星表面に超長大な水路を発見！――
28年ぶり宇宙からの帰還!?――
突然消滅した10人の少年少女！――
暗闇から現れた不思議な人々――
円筒型の奇妙な物体を見る――服部哲雄
謎の飛行物体、米子に出没――
UFOの色彩についての一考察――斎藤俊徳
UFOと古代マヤの謎――久保田八郎

No.114　平成3年7月25日発行　¥900

日本GAP全国ネットワークテレパシーコールUFO観測会、大成功
北海道上空の物凄い光景――松村芳之
尽きぬ宇宙へのロマン――高木　澪
奇跡を起こす想念の力――遠藤昭則
私は巨大な円盤を見た！――松浦義教
タバヌイの謎の大爆発――ジャン・パジャク博士

1994 GAP-JAPAN GENERAL ASSEMBLY
1994年度　日本GAP総会開催！

世界最大のＵＦＯと宇宙哲学の研究団体「日本ＧＡＰ」恒例の年次総会が今年も盛大に開催されます。今回はアメリカＧＡＰ主宰者で、「ＵＦＯ－宇宙からの完全な証拠」の著者であり、また日本ＧＡＰに対する最大の協力者であるダニエル・ロス氏が招待されて大講演を行ないます。続いてフランス人のアダムスキー研究家ミッシェル・ジルガー氏の興味深い体験談もあり、国際色豊かな雰囲気に包まれた素晴らしい総会が展開。年に一度の楽しい大集会に多数ご参加下さい。本部役員一同あたたかくお迎えいたします。

日本ＧＡＰ本部役員幹事　田中　淳

★講演　ダニエル・ロス『アダムスキー・永遠の真実と栄光』

日本ＧＡＰ総会（予約申込不要）

★日　時＝10月９日（２日連休の初日）12：00開場・１：00開会
★会　場＝機械振興会館　地下２階大ホール
東京都港区芝公園・東京タワー前　（芝公園は本物の公園ではなく、単なる地名）
★交　通＝都内ＪＲ山の手線電車で浜松町駅下車（東京駅より三つ目）。降りたホームを有楽町方向（東京駅方向）の端まで歩き、階段を降りると同駅の北口へ出る（注意＝この駅から羽田空港へ行く大勢の人が同じホームの別な階段を登るが、これにつられて同行しないように）。改札を出て駅隣の超高層「貿易センタービル」の正面前まで数10メートル行くと東京タワー行きバス停がある。タワーまで約８分、料金￥180。貿易センタービル手前横にはタクシー乗り場もあり、タワーまで約５分、料金￥600。徒歩約20分。タワー前の道路をへだてた斜め真向かいに機械振興会館がある。休日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って右側面入口から入り、エレベーターで地下２階へ降りる。
★会　費＝￥4,000　中高生￥2,000　小学生以下は無料。受付で納入。

ープログラムー

１：00　司会者（篠　芳史）、会長（久保田八郎）挨拶
１：05　講演「アダムスキー・永遠の真実と栄光」ダニエル・ロス／通訳　坂本貢一
３：00　休憩
３：15　講演「わが母の驚異のＵＦＯ目撃」ミッシェル・ジルガー
３：45　テレパシー練習　出席者全員によるテレパシー練習を行なう。最高得点者１名に賞品贈呈。
４：15　休憩
４：25　質疑応答　回答はロス氏（通訳付き）。
５：00　閉会

★ご注意＝総会中のストロボ付カメラ、ビデオカメラ等による撮影、テープレコーダーによる録音は自由ですが、講演その他の発言内容の著作権は日本ＧＡＰに帰属するので、個人または他の団体が使用することはできません。

予約申込

(1)大夕食会＝ハガキに「総会終了後の大夕食会出席予約」と書いて、住所・氏名・電話番号を明記の上、10月５日までに（必着）日本ＧＡＰ宛お送り下さい。
(2)ホ テ ル＝ハガキに「ホテル予約」と書いて、氏名・住所・電話番号・宿泊日・シングル／ツインの別を明記し、宿泊料を現金書留で下記へ９月20日までに（必着）ご送金下さい
〒150 東京都渋谷区東3-24-9　サンイーストビル２Ｆ
ワールドセブントラベル社　田中正（宛）
（送金後にキャンセルした場合、宿泊日の15日前までのキャンセルなら全額返金。14日前から７日間までの間なら20%、６日前から前前日までの間なら50%の取消料を差し引いて返金します。前日と当日のキャンセルの場合は全額返金できません）
(3)観　　光＝ハガキに「観光参加希望」と書いて、住所・氏名・電話番号を明記の上、10月５日までに（必着）日本ＧＡＰ宛お送り下さい。

大夕食会（要予約）

★日　時＝総会終了後　６：00→８：00（時間厳守）
★会　場＝機械振興会館　６階65号＋66号室ホール
★会　費＝￥7,500　会場受付で納入（中高生割引なし。小学生以下は保護者同伴で無料）
飲物（ビール・酒・ウイスキー・ソフトドリンク等は飲み放題）
★プログラム＝６：00司会者、会長挨拶。乾杯（音頭は大阪支部代表　平塚和義氏）、食事、歓談
★ご注意＝大夕食会は立食形式のため自由に移動可能。愉快に歓談して楽しい一夕をすごして下さい。余興はやりません。出席者はある程度きちんとした服装でお願いします。ラフな服装はご遠慮下さい。英語のできる人がロス氏やジルガー氏に簡単な挨拶程度で話しかけるのはかまいませんが、ＵＦＯ問題その他について、しつこく質問するのは極力ご遠慮下さい。
★２次会＝９：00→11：00　会費￥3,000程度。多少の変動をお含みおき下さい。会場は銀座８丁目のギンザ・ナイン地下「天狗」。参加希望者はタワー前からタクシーで「新橋の土橋（どばし）交番前」と告げて直行すると早くて便利。タクシー料金約￥800。

ホテル（要予約）

★ホテル＝銀座キャピタルホテル（昨年と同じホテル）
★場　所＝〒104 東京都中央区築地（つきじ）3-1-5
★料　金＝シングル　￥10,300
ツ イ ン　￥17,510
（朝食付、サービス料込、税別）
※ご注意＝ホテルは団体予約なので、必ずワールドセブントラベル社へ予約して下さい。日本ＧＡＰでは受け付けません。

都内観光（要予約）

★日　時＝10月10日（連休２日目）　雨天決行
★費　用＝￥1,000　出発前の集合時に納入（昼食代別）
★方　法＝参加者全員を小班に分けて、各班に役員が２名ずつ付き添って誘導。交通渋滞のため貸切りバスは不利なので電車を利用して全員一緒に移動。
★コース＝９：00ホテル出発→東京駅（ここで不要荷物をコインロッカーに預ける）→皇居→表参道→明治神宮→浅草→東京駅（４：00）解散。事情によってはコースを変更することもあるのでご了承下さい。

Letters ユーコン広場

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

東京月例セミナーに感動

大分県　高橋　徹

会員となって長いのですが先日初めて東京の月例セミナーに参加させて頂きました。林寛子氏の講演や先生の御講義など、素晴らしい、また内容の濃い例会に感激した次第です。

残念ながら時間の関係で途中で出なければなりませんでした。東京近辺に在住の方が羨やましくなりました。けれども地方にいますのも何かの縁と考えて地道にやってゆきたいと思います。受けた感銘に感謝したくて筆をとりました。ありがとうございました。

宇宙への思索

東京都　浜田敏博

郊外へ出かけると夜見上げる天空には数えきれない程のたくさんの星々が輝いて見えます。この夜空に輝く星々を見つめていると、宇宙には本当に地球に住む人間だけが存在しているのだろうかという疑問が湧いてきます。そして、むしろ、これらの星々のどこかに他の人間が住んでいることの方が当然のように思えてきます。

実際、遺伝子工学の分野でDNAの二重螺旋構造の解明をしたノーベル賞科学者クリックは、その論文の中に「別の知的生命体が宇宙船で送りつけた生物が生命の起源」という言葉を書いています。

また、現代科学によると私達の住んでいる宇宙は量子学的トンネル効果によって偶然に出来上がったものだとされています。

しかし、この大宇宙が偶然に出来上がったと考えるには、あまりにもあらゆるものが合目的的に出来ているように思えます。それは私達人間の身体をとってみてもそうですし、自然の対称性を考えてみても同様です。そこには何か大宇宙の意志のようなものが働いていたのではないだろうかと想像せずにはいられません。

二〇世紀の後半は科学万能の時代のように考えられていますが、こういう時代だからこそ、私達人間は虚心坦懐にこの宇宙を見つめ直し、大宇宙の意志や宇宙人、UFOなどについて考えてみるべきではないでしょうか。

素晴らしい東京の月例セミナー

長崎県　松永郁生

私は二月、三月、四月の東京セミナーでのお話を生でお聞きできて、大変感動しました。そもそも私が日本GAPの存在を知ったのは、約一年前だったと思いますが、知人から「月の裏側に人が住んでいて、地球人に裏側を見られたくないので、いつも表側しか地球に向けないのだ」と聞かされたのがきっかけです。小さい頃から天文やUFOに興味があった私は、UFO関係の本を購入して読み始めました。

そのうち去年の六月から今年の四月にかけて東京に出張になってしまいましたが、この期間中もUFO関係の本を買って読んでいました。ある日いつものように書店でその関係の書籍を探していたところ、新アダムスキー全集が目にとまりました。早速一冊買って読んだのですが、書いてある内容の凄さに驚きっぱなしでした。長崎にはアダムスキーの本が置いてあるところはなく、東京出張がなかったらこの素晴らしい本に出会うことはなかったでしょう。

その後、昨年末に日本GAPに入会して毎月のセミナーを知ったわけです。何度か東京出張が過去にありましたが、今回の出張は今までで一番有益でした。きっと私をアダムスキー全集と巡り合わせるための出張ではなかったかなと感じており、今回の出張に感謝しております。このアダムスキー全集は今まで買って読んだUFO関係の本より遙かに超越した内容で、全ての解答がこの全集に書いてあるという感じです。

私はUFOを見たことがあります。六年前に長崎市上空に二、三機滞空していた（地上から六〇〇メートルくらい）のを覚えていますし、雲仙普賢岳が噴火する前から島原市や諫早市上空に毎日のように出現しており、会社の車を運転中によく目撃しました。この話題は地元のテレビが一回しか取り上げませんでした。視聴者の関心は余りなかったようです。

これからも機会がありましたら東京のセミナーに出かけて久保田先生の御講義を拝聴させて頂こうと思います。最後に久保田先生の益々の御健勝を願いつつ、この手紙を締めくらせて頂きます。どうもありがとうございました。

不可視なものを信ずる

沖縄県　石野創太

自分は幼少から数、色彩、鉱物など自然の形象に対して深い関心を持っていました。更に一二才の時、植物は動物に食べられ、動物は分解して炭酸ガスになり、その炭酸ガスをまた植物が吸収するというように循環することを本で読んで、自然が法則性を持っていて意義深いものであるということを決定的に知りました。

一九七六年になり「UFOと宇宙」誌（昔、久保田会長が出していたUFO専門誌）の「三原氏の驚異コンタクト事件」の記事を読んだことがきっかけになって、太陽系のすべての惑星に人間が住んでいること、人間は転生することを信じるようになり、七七年に日本GAPに入会させて頂きました。

従ってそれからは「意識によって目に見えないものを見る」形での自然の研究を始めなければならないはずでしたが、心のどこかで目に見えないものを信じていなかったので、そのような形での深求の可能性を信じ切ることができませんでした。そのため、結局結果の形での自然の研究（普通の科学）を選んでしまいました。科学の選択は信念の欠乏に根差していたのです。

しかし現在は目に見えないものを信じられますし、目に見えないものを見ることによる自然探求が可能であることも信じられます。そこでこれからは自然を観察し、その不可視の構成要素を意識を通じて知ることによって探求を続けるつもりです。

高揚感を与える「意識の声」

鹿児島県　抜迫英子

お元気でお過ごしでしょうか。今年ももう四月の半ばで、本当にあっという間でした。

毎月送って頂いております「意識の声」は、私はいつもひと月の間、ずっとどこへ行くにも「生命の科学」と共に鞄の中に入れて持ち歩いております。出先で時間があるときなど、こっそりと開いて読ませて頂いているのです。（編注＝「意識の声」は久保田会長が特別維持会員に毎月送るエッセイ）

今月号（四月号）の八万人に祝福の想念を〉の部分は、特に私にとりまして誠に「スーッ」と高みへ登らせてくれるような、そんな高揚したエネルギーを与えてくれます。久保田先生が繰り返し私達に伝えて下さる素晴らしいお言葉です。私もこのことを学びながら決して諦めないで成長してゆこうと思います。

余談ですが「生命の科学」（旧版）の「毎日読むこと」の後半の部分の一九二ページに「あなたの真の実体・・・そうすればあなたは決して乾くことはないでしょう」がありますが、ここの部分は特に勇気とパワーを与えてくれるのです。その日どこのページを読んでも最後に必ずこの部分に触れることにしています。底知れぬ喜びが湧いて参ります。

これからも一生懸命に頑張りますのでよろしくお願い致します。

加藤夫妻の結婚式は最高

静岡県　高梨十光

久保田先生いつもありがとうございます。先般の資生堂パーラーでの加藤夫妻の結婚式および披露宴が大盛会となり、誠におめでとうございました。あのように大成功した最大の理由は、総監督の抜群の力量と存じました。日本GAP東京本部役員もよく活躍されました。とにかくあの雰囲気は最高でありました。当人達も御家族も、出席者の全てが、言い知れぬ高級な波動を感じたことでしょう。出席された皆が先生に感謝申し上げていることでしょう。先生が監督されたこの企画によって、日本GAPが一段と高く評価されることでしょう。また若い会員の方々の意欲が俄然向上したことと存じます。

また立派な役を頂きましてありがとうございました。あのような大舞台で足が震える思いでした。大抜擢の御高配を賜わりまして心から感謝申し上げます。今後とも何卒宜しく御願い申し上げます。

千里の道も一歩から

神奈川県　奥津邦男

去る二月六日の東京月例会では本当に素晴らしい御講演をありがとうございました。また先日はUコン一二四号を御送付頂きましてありがとうございました。当日は会場にて三冊頂き、Uコン誌は一一一号より一五冊並んでいます。一冊ずつページを開くのが楽しく、特に会長の巻頭言に心打たれます。また秋山真人氏との懇談がございましたが、非常に示唆に富むお話でした。

ところでUコン誌、並びに手元にありますアダムスキー全集第二巻「超能力開発法」、「UFO遭遇と真実」、「UFO宇宙からの完全な証拠」を相前後して読み進めていきますと、何か表現しようのない不思議な感情を呼び起こされて参ります。即ちこれこそアダムスキー哲学そのものであるという風にも思われますが、とにかく千里の道も一歩からということで、少しずつ着実に歩みを進めて参りたいと思います。

いつまでも若々しい気分で

愛知県　宮崎雅子

昨日はUコン一二五号発送の多忙な時に御手紙を頂きまして申訳なく、また、大変参考になりますことをお教え頂きましてありがとうございました。梨の件はとても興味深いです。実験などに利用してみたいと思いますし、単調な仕事をするときに「ありがとうございます」と繰り返すことによって疲れないようにすることや、常に自分の想念を良いエネルギーで満たすようにするなども毎日取り入れて生活したいと思います。

それにしてもGAPの会員の方々も増えているのですから、役員の方々も久保田先生も大変なことと思います。でも実際には少ない会員数ですからもっと増えるとよいのにとも考えますが、広がるということは良い面ばかりでもないですね。経済的に報われないことをし続けることは大変なことですね。私も久保田先生を見習って二四才の若かりし頃をイメージしつつ、ピュアな魂を失わないように年をとっていきたいと思います。紀元二〇〇〇年はどういう年になっているのでしょうか。ともかく素直な心とか感謝の心とかピュアな魂を失わないでいたいと思うのです。

暖かいダニエル・ロス夫妻

神奈川県　井川博文

海外旅行も五回目になるがGAPの旅行はいつも何らかのインパクトを与えてくれるので期待していた。

昨年の第一五回日本GAPの海外研修旅行では、いつもより緊張ぎみで飛行機に乗り込んでいった。九時間弱でサンフランシスコに到着した。空港にはロス夫妻が出迎えに来ていた。ロス夫妻の親切で暖かいメッセージを頂いて嬉しく思った。

サンフランシスコ市内観光を終えてホテルで夕食をとっているとき、ロス夫妻にスペース・ピープルを見たことがあるかと聞くと一度あるという。八七年の東京の総会の夕食時に見たという。身長は六フィート程あり、日本人でもなくアメリカ人でもない感じであるという。ロス氏がスペース・ピープルを見つめると振り返って微笑したことを話して頂いた。

楽しかった伊豆支部大会

静岡県　赤池澄夫

新緑のきれいなすがすがしい季節になりました。先日の伊豆支部大会は大変楽しくゆっくりできました。思い出せば全てが楽しい時間でした。特に大会に参加された方々と初めてお会いできましたことや、久しぶりにお会いできて懐かしくお話できたこと、それにいろいろな意見をゆっくりお聞きできたことなど、GAPを通じて親しく知り合いになる大切さを思いました。

このような機会が実現できました久保田会長には本当に心から感謝しております。いつも感じますが、一昔前の久保田先生と何も変わられていない先生のお姿には日本GAPの確かな活動を見るようでした。

楽しい大会はあっという間に過ぎてしまいましたが、久保田先生御講演の貴重なお話と大会の全てにより、私は勇気と安心と希望とより一層宇宙哲学を学んでいける体験を与えられました。ありがとうございました。今後も宜しく御指導お願い致します。

アダムスキー哲学でオーラ透視能力が出た

静岡県　望月　薫

先日は伊豆支部大会に御出席下さいましてありがとうございました。私は副司会を務めさせて頂きました望月です。久保田先生の側にいるというだけであがってしまい、一番大切な先生に挨拶もできず、本当に申し訳ありませんでした。

アダムスキー哲学を読みだしてから一カ月くらいした頃だと思いますが、頭の後頭部が明け方急にズキーンと痛み始めました。アダムスキー氏の本によるとモールス信号と書いてあったと思いますが、ちょうどそのような状態が一週間程続きました。

その後、頭のあちこちが時々ズキーンとしました。今はほとんどなくなって、夜、石や土や植物さんから白い湯気のようなものが上がってくるのが見えます。説明しにくいのですが、空中には点々のように凄い早さで流れています。昼間には空気中の小さい粒子がキラキラ光って見えます。そして真ん中にモアモアとした感じで回っています。その中に白黒の抽象的な映像が見えます。初めの頃は恐くて夜庭に出るのをやめましたが、今ではどんなものが見えてくるのかとても楽しみです。

素晴らしいアダムスキー哲学の本と巡り合うことができて幸せです。スペース・ブラザーズの方々、ジョージ・アダムスキー氏、久保田先生に感謝致します。

素晴らしい講演

秋田県　佐藤忠義

先日の秋田支部大会では遠路はるばる御越し下さり、また素晴らしい御講演を賜わりまして、誠にありがとうございました。御蔭様で支部大会も成功裡に終了致しまして会員一同大変喜んでおります。また先生には秋田支部大会、伊豆支部大会と続かれましたので、さぞかしお疲れになったのではと心配致しております。

ところで先生が支部大会で話されたビートルズのジョン・レノンの件ですが、私は以前に奥様のオノ・ヨーコさんが「もし全ての人が本当に自分のやりたいことをするならば、全てはうまくいく」というようなことをラジオで言っているのを聞いたことがあります。この人はなんて宇宙哲学的な考え方をするんだろうと思い、もっと彼女について知りたいと思っていたのですが、先生のお話を伺いまして謎が解けた次第です。

早く「一〇〇四目のサル」ならぬ人が現われるように知らせる運動を頑張りたいと思います。今後とも御指導の程、宜しく御願い申し上げます。お元気でおすごし下さい。

※新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き＋送料がサービスとなります。

絶賛発売中

新アダムスキー全集

――全面改訂・改訂　全10巻――

久保田八郎・訳／各四六判

GAP 中央アート出版社・発行　〒104 東京都中央区京橋3－7－13 三成ビル5F　☎03(3561)7017●郵便振替 東京8－66324

超絶した大文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた／ UFOや惑星群の驚異的実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔／

アダムスキー

❶ 第2惑星からの地球訪問者　352頁・定価1980円

UFO研究家として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者みずから円盤や母船に乗り組み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

アダムスキー

❷ 超能力開発法（テレパシー、遠隔透視その他）　192頁・定価1300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感受し、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文献。

アダムスキー

❸ 21世紀/生命の科学　208頁・定価1300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び霊界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第５巻の続編として必読のテキスト。

アダムスキー

❹ UFO問答100　216頁・定価1300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混迷した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

アダムスキー

❺ 金星・土星探訪記　380頁・定価2400円

アダムスキーが大母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と土星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が圧巻。第２部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

アダムスキー

❻ UFOの謎　262頁・定価1980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文献。第２部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第１巻の続編。

アダムスキー

❼ 21世紀の宇宙哲学　148頁・定価1030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第５巻、６巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

アダムスキー

❽ UFO・人間・宇宙　370頁・定価2400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第２部には訳者・久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

アダムスキー

❾ UFOの真相　320頁・定価1980円　1991年4月刊！

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙的実像と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。ア氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンス・ピーターセン、金星文字を解読して画期的な永久モーターを開発したバシル・パン・デン・バーグらの証言が白眉。『サンピエトロ大寺院の異星人』と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

アダムスキー

❿ 超人ジョージ・アダムスキー　232頁・定価1300円

厖大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの巨人の人間像を克明に描写。これ１冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究家・久保田八郎が書き下ろし執筆。

UFO―宇宙からの完全な証拠　460頁・定価2800円

ダニエル・ロス著／久保田八郎訳

アメリカの気鋭UFO研究家ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にもきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。

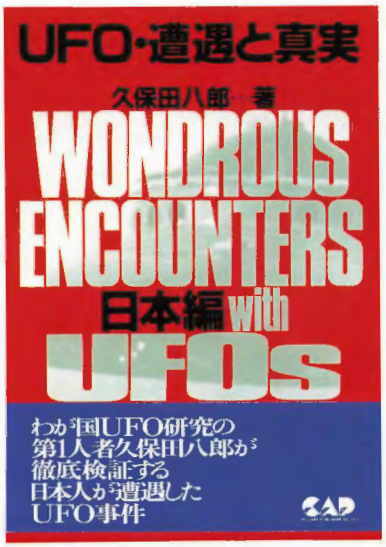
UFO・遭遇と真実 －日本編－

★久保田八郎著　　¥1500　送料¥250　四六判・246頁　美麗カヴァー付

日本で発生したUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が新たに書き下ろして読みやすく編纂した本書は、類書がないほどに不可思議な事件に満ちています。実証主義をつらぬく著者が各事件現場を検証、体験者や証人達に直接会って徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。豊富な写真・イラストとあいまって読者を大気圏外の世界へ誘う稀有の保存資料です。

■書店で品切れの節は下記へ郵便振替か現金書留でご注文下さい。
中央アート出版社　〒104　東京都中央区京橋3-7-13
振替・東京8-66324
※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。
ハガキでご注文下されば代金後払いで直送します。

〈内容〉
①関東大震災中に横浜で人々を救出した円盤
②東京タワーから少年が円盤と搭乗員を目撃
③高松市に超低空で降下した円盤と手を振る少年
④旭川市郊外の夜空に展開した物凄い光景
⑤UFOに乗せられてエジプトまで飛んだ少年
⑥熱烈な願いに応えて出現したUFOを撮影
⑦尾道市に出現したアダムスキー型円盤と母船
⑧円盤や母船に乗って別な惑星に行ってきた秋山眞人氏



英文版「UFO contactee」No.9　　発行　日本GAP

B5版／12頁／コート紙使用／¥500　送料¥190／5冊まで¥270／6冊以上¥390　(NO. 1～3は品切れ)

日本GAP発行英文版ユーコン誌は理想主義的なUFO専門誌として、世界各国のUFO研究団体や個人研究家から絶賛を浴びています。多くのUFO研究誌がオバケ宇宙人、誘拐事件、その他恐怖心を煽るような記事に終始しているなか、日本GAPは日本語版・英語版とも地球の未来に大いなる希望を持ち、人間の無限の可能性を引き出すための指針に満ちた記事を満載しています。英文版第9号には日本語版117号に掲載された「巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現！」を英訳。カラー写真入り。他にも新アダムスキー全集第4巻掲載の質疑応答の原文、日本GAPの活動状況を伝えた記事等が流麗な英文で掲載されています。もとの日本語記事と対照して読めば英語学習用にも最適です。

編集後記　§§§§

★本号はUFO目撃体験の原稿が輻輳しましたために一挙掲載しました。特にトップ記事は白眉です。筆者の工藤光博氏はは編者もよく知っている方で、正直なること無類ですから、安心して読める素晴らしい内容です。世の中には不思議な事があるものです。

★その他、女性三名の方々と津田篤孝氏の体験記も人間の精神の状態とUFOの出現とに重要な関連があることを示唆しているようで、考えさせられる内容です。明らかにUFO側と地球人の間に不可視の送受信ケーブルみたいなものが存在し、それがONとOFFのいずれになるかの具体例を示しているように思われます。

★澤入達男氏の「ムー大陸から来た日本人」は筆者のほう大な研究成果の一部分にすぎません。氏の学生時代におけるアイヌ語の研究は学会でも通用する立派なものだと教授が激賞し、大学に残って研究を続けることを勧められたけれども事情あって断ったそうです。

★次号では久しぶりに遠藤昭則氏の超能力開発法に関する記事を掲載しますので、ご期待下さい。

★UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践体験、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの苦手な方には面談して取材します。ご遠慮なくご応募下さい。掲載分には薄謝を呈します。

★本誌は多数のヴォランティアーにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。

(K)

日本GAP専門誌・季刊　秋季号
UFO contactee　126号
編集発行人　久保田八郎
発行所　日本GAP
〒130東京都江戸川区本一色1-12-1-511
☎03-3651-0958
振替　00140-2-35912
一九九四年七月二五日発行
定価九二七円(本体九〇〇円)・送料240円

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断引用転載を禁じます。

1994年度
日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日　　時	会　　場	会費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第１日曜日　午後1:00→5:00 ※10月は総会のため月例セミナーは中止。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下３Ｆ第２研修室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅から東京タワー行きバスで約８分。 連絡先＝日本ＧＡＰ本部　☎03-3651-0958 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側面の入口から入る。	会場費 ¥1000 セミナー受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:30　会員による講演。 1:30→3:00　久保田会長による講義。 ※平成６年１月よりテスキトを新ア全集２巻「超能力開発法」に変更。 3:10→5:00　超能力開発練習／近況報告／質疑応答。
大阪支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町４丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JR または阪急電車吹田駅下車。 連絡先＝平塚和義　☎06-436-3478 平成4年1～10月＝「尼崎市立産業郷土会館」兵庫県尼崎市東大物町1-1-2	¥500	東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。 テキストその他＝東京本部に同じ。
新潟支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00	新潟市東万代町９「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩５分。 連絡先＝星 富治夫　☎02579-2-5562	¥500	同　上
名古屋支部	毎月第２日曜日　午後1:00→4:30 ※９月のみ第２会議室に変更。 ※10月のみ第１日曜日の２日に変更。	名古屋市中区金山１丁目５番１号「名古屋市民会館」特別会議室。☎052-331-2141㈹。 JR 東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩５分。 連絡先＝林　国宜　☎0586-45-6468	¥300	同　上
仙台支部	毎月第３日曜日　午後1:10→4:20 ※当分の間、セミナーは中止。	仙台市青葉区米ケ袋1-1-35「仙台市片平市民センター」会議室。 ☎022-227-5333。仙台駅からお霊屋橋経由動物公園方面バスで約７～10分。東北大正門前下車、真向かいの建物。 連絡先＝笠原弘可　☎022-284-2910	¥300	同　上
山形支部	毎月第１日曜日　午後1:00→5:00 ※日時は変更があるため、毎月事前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森１丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー４分。天童市役所の裏側。 連絡先＝柴田光明　☎0233-25-3261	¥300	同　上
札幌支部	毎月第１日曜日　午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、事前に高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先＝高野省志　☎011-783-6393	¥500	同　上
旭川支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00	旭川市五条４丁目「旭川ときわ市民ホール」３Ｆ 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先＝川上三秀　☎0166-61-0044	¥500	同　上
沖縄支部	毎月第４日曜日　午後1:00→4:30	具市川市栄野比1213-1「具志川市野外レクセンター」会議室。 ☎09897-2-7722 連絡先＝里　孝人　☎098-869-9964	¥500	同　上
秋田支部	毎月第２日曜日　午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先＝伊藤正治　☎0188-62-2831	¥500	同　上
横浜支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00 ※８月のみ第２日曜日の10日に変更。	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」 ☎045-681-6511。JR 関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩３分。 連絡先＝清水　正　☎03-5951-3518	¥500	同　上
茨城支部	毎月第４日曜日　午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先＝清水勝一　☎0292-73-1903	¥300	同　上
長野支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00	塩尻市大門７番町「塩尻総合文化センター」第１会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先＝博田文喜　☎0263-58-8510	¥500	同　上
紀南会	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00 ※日時と会場については小川宛事前に問い合わせること。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」１F相談室。 ☎0735-21-2760。JR 西日本新宮駅下車、徒歩５分。 連絡先＝(副代表)小川隆志　☎0735-32-2834	¥300	同　上
栃木支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」１Ｆ小会議室。 ☎0289-64-4334。JR 鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km、市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩５分。 連絡先＝渡辺克明　☎0289-62-3319	¥500	同　上
南九州支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00	指宿市東方12000番地「指宿市民会館」 ☎0993-22-4105 連絡先＝鶴田清則　☎0993-25-3252	¥500	同　上
高松支部	毎月第３日曜日　午後１：30－４：30	香川県坂出市寿町１－３－５「坂出勤労福祉センター」 ☎0877－46－2463　JR 坂出駅より徒歩10分。 連絡先＝関 高明　☎0875-72-2698	¥500	同　上
伊豆支部	毎月第１日曜日　午後1:00→4:30 ※日時は変更があるため事前に高梨宛電話。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第３会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩３分。 連絡先＝高梨十光　☎0558-72-7832	¥500	同　上

オーソン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーが米カリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウェルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ゲイ・ベッツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm（不許複製転載）

¥1,000　送料¥130

金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと叡知をあらわし、周囲の４層の放射状ゾーンは人間のマインド（心）の発達状態をあらわしています。人間のマインド（心）は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので４層になっているのです。

¥500　送料¥80

ＥＳＰカード〈超能力開発用〉

テレパシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。５種類の図形カードが各５枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥900　送料¥130　（２～５個）¥190

テレフォンカード

日本GAP特製テレフォンカードの第６弾。1952年11月20日、米カリフォルニア州デザートセンターでアダムスキーがコンタクトした金星人が地面に残した靴の裏の不思議な図形が採用されています。これは今も謎のままになっています。

¥1,500　送料10枚まで¥80

ＧＡＰキーホルダー

日本GAPがデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS（宇宙の意識とともに）」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長９cm。非常に堅牢に出来ています。

¥1,900　送料130

会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。

¥2,000　送料４個まで130

ブックカヴァー

主として新アダムスキー全集用に作られたカヴァーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で箔押しされた濃紺色の優美なデザインです。人造皮革製。

¥1,200　送料¥190　５枚まで¥270

ＧＡＰシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

１枚に大小５個１組　**¥200**　送料10枚まで¥80

新アダムスキー全集　訳・著者　久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本ＧＡＰでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は１冊310、７冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文下されば代金後払いでお届け致します。

申込先　上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替か現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておきますから、現品当着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

〒133　東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本ＧＡＰ　振替　00140-2-35912

※旧振替番号「東京４－３５９１２」と旧振替用紙も当分の間、使用可能。

☎03-3651-0958

日本ＧＡＰ能力開発カセットテープ

★日本ＧＡＰ東京本部月例セミナー

毎月開催される日本ＧＡＰ東京本部月例セミナーから、久保田会長の「超能力開発法」解説講義と質疑応答その他を録音したテープ。これを聴けば絶大な信念と勇気がわきおこり、あらゆる障害を超えて成功に到達できます。

●テープ①　¥1500

〈内容〉久保田会長による新アダムスキー全集第２巻「超能力開発法」の講義。近況報告。

●テープ②　¥1200

〈内容〉会員による講演、超能力開発練習、質疑応答。

●1993年度日本ＧＡＰ総会２巻セット　¥2700

〈内容〉久保田会長講演「信念と希望と絶対に諦めない力を引き出す方法と成功の秘訣」質疑応答。※総会テープのバックナンバーあり、往復ハガキでお問い合わせてください。送料＝テープ１本・¥190、２～３本¥270、４～６本¥390

申込先　品名、○年○月分、個数、氏名、住所、電話番号をご明記の上、郵便振替でご注文下さい。（テープの代金後払いは不可）　※旧振替番号「東京０－１６２６４４」と旧振替用紙も当分の間、使用可能。

〒133　東京都江戸川区本一色1-24-3-202

松村芳之　振替　00100-2-162644

☎03-3653-9387

日本ＧＡＰビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻ＶＨＳ。

●東京本部月例セミナー　全１巻　¥3000

〈内容〉久保田会長の解説講義、他、約120分。

●日本ＧＡＰ総会　全２巻各¥3000

〈内容〉毎年開催される日本ＧＡＰ総会を完全収録。（1989年度分から在庫あり）。

●日本ＧＡＰ海外研修旅行　全１巻　¥3000

〈内容〉旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。（1989年度分から在庫あり）

●1992年度デザートセンター調査行　全１巻　¥3000

〈内容〉1952年11月20日、アダムスキーが金星人とコンタクトした地点その他を調査した記録。送料はビデオ１本¥390。２本以上３本まで¥700。４本以上７本までは距離に応じて変わります。

※旧振替番号「東京４－１３８１１」と旧振替用紙も当分の間、使用可能。

申込先　ご注文の際は品名、○年○月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。（ビデオの代金後払いは不可）

〒162　東京都新宿区富久町36-18　富久マンション103

伊東芳和　振替　00140-8-13811　☎03-3351-9526

UFO contactee 126号
一九九四年七月二五日発行　発行所　日本GAP
〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-511　振替00140-2-35912
定価九二七円(本体九〇〇円)　送料一四〇円